

入
四八

LF
3

現行租稅法論

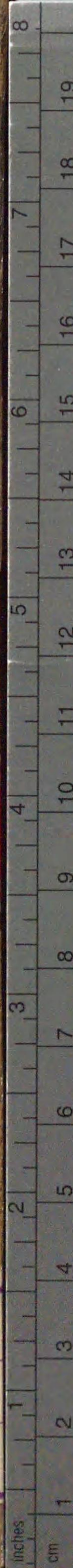
完

法學士 若槻禮次郎 講述

法政大學發行

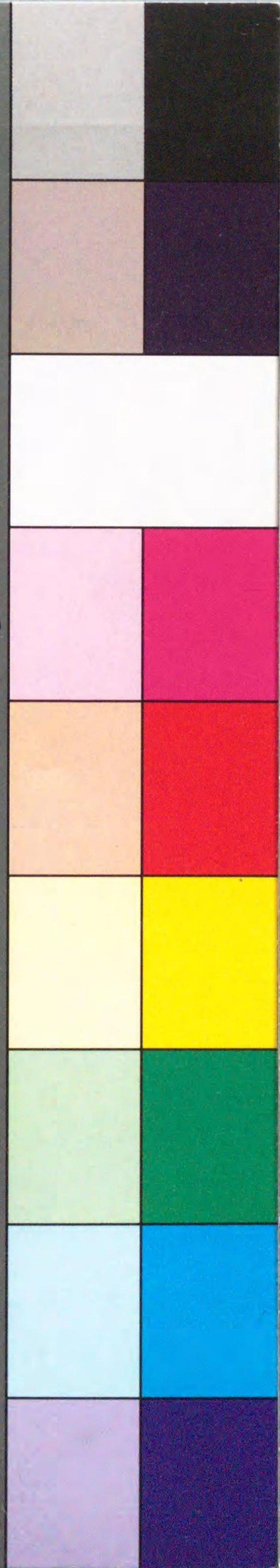


(特別法講義録合本)



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



Kodak Gray Scale



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19





現行租稅法論目次

緒言.....一

第一編 各種ノ租稅.....一五

第一章 地租.....一五

第一節 地租ノ沿革.....一五

第二節 現行地租.....四八

第一款 課稅ノ目的.....五二

第二款 課稅ノ標準.....一〇四

第三款 課稅ノ程度.....一九三

第四款 納稅義務者.....二〇〇

第五款 納稅期.....二〇三

第六款 土地ニ關スル申請申告.....二〇七

第七款 土地臺帳.....二二三

現行租稅法論目次



現行租稅法論目次

緒言

第一編 各種ノ租稅

第一章 地租

第一節 地租ノ沿革

第二節 現行地租

第一款 課稅ノ目的

第二款 課稅ノ標準

第三款 課稅ノ程度

第四款 納稅義務者

第五款 納稅期

第六款 土地ニ關スル申請申告

第七款 土地臺帳

一
一五
一五
一五
一五
四八
一五
一〇四
一九三
二〇〇
二〇三
二〇七
二二三





第八章 改良地ニ關スル特例……………二二三

第九款 罰 則……………二四六

第二章 所得稅……………二四九

第一節 所得稅……………二四九

第二節 現行所得稅……………二五六

第一款 納稅義務者……………二五七

第二款 課稅標準……………二七一

第三款 所得調査及ヒ審査機關……………三二〇

第四款 課稅率……………三四六

第五款 稅金徵收……………三五六

第六款 納稅地……………三六三

第七款 制 裁……………三六五

現行租稅法論目次終

最高裁判所図書館

現行租稅法論

法學士 若槻禮次郎 講

緒 言

租稅ニ關シテハ其定義、性質、原理、分類又ハ制度ノ得失等論議スヘキモノニシ
 テ足ラス然レトモ此ノ如キハ經濟學若クハ財政學ノ範圍ニ屬シ其專攻學者ノ
 說述スヘキ所ニシテ予ノ如キ其專門ニアラサル者ノ容易ニ喙ヲ容ルヘキ所ニ
 アラス予ノ茲ニ說述セントスル所ハ專ラ現時我邦ニ於テ施行セラルル租稅ニ
 關スル法規ノ簡約ナル解釋ヲ試ミントスルニ在リ而シテ現行ノ法規ニ依レハ
 我邦ニ行ハルル租稅ハ國庫ノ收入ニ屬スル國稅府縣ノ收入ト爲ルヘキ府縣稅
 及ヒ市町村ニ於テ賦課スル市町村稅ノ三段ニ區別セラルト雖モ本論ニ於テハ

唯國稅ニ關シテノミ説明ヲ爲シ府縣稅及ヒ市町村稅ノ研究ハ之ヲ他日ニ讓ラント欲ス

本論ニ入ルニ先チ我邦ニ於ケル租稅沿革ノ梗概ヲ舉クルハ全ク無益ノ業ニアラサルヘシト信スルガ故ニ予ハ茲ニ沿革ノ大綱ヲ畧述セントス

上古租稅ノ制神代ノ事齒邈稽フヘカラス神武天皇ノ御世ニ於テハ國國ノ御調ヲ齋藏ニ納メタルコト歴史ノ既ニ記載スル所ナルヲ以テ(神皇正統記)貢調ノ

事由來スル所久シ世或ハ本朝ニ於ケル貢納ノ事崇神天皇ノ代ニ始マルノ説ヲ爲ス者アリト雖モ其說謬レリ蓋シ統治服從ノ關係ヲ生シ既ニ國家ノ形體ヲ成

シタル以上ハ内ニ於テハ社會ノ秩序ヲ保チ外ニ向テハ國家ノ防禦ヲ爲スノ必要アリ而シテ古代ニ於テハ國庫カ財產ヲ所有シテ之ヨリ收入ヲ得ルカ如キノ

制ハ殆ト之レ有ルコトナキカ故ニ國費ハ之ヲ臣民ヨリ徵シタル貢納ニ向テ求ムルニアラサレハ他ニ之ヲ支辨スヘキノ途アルコトナシ故ニ崇神天皇以前既ニ

調貢ノ事アリシハ疑ナキ所ナリト雖モ其制尙ホ完備ヲ缺ク所アリ崇神天皇ノ代ニ至リ始メテ之ヲ完成シ調庸ノ制ヲ設ケラレタルノミ史ノ稱スル所ニ依レハ

天皇ノ定メラレタル調ハ弭ユルノ調及ヒ手末テマツノ調ニシテ弭ノ調トハ男子弓矢ヲ以テ

射獲シタル獸ノ皮等ヲ貢スルヲ謂フモノニシテ手末ノ調トハ女子ノ手工ニ依リ製造セラレタル布帛ノ類ヲ納ムルヲ謂フ上古耕作ノ業尙ホ未タ盛ナラサル

ノ時ニ於テハ男子ハ山野ニ出テテ狩獵ニ從事シ女子ハ家ニ在リテ自生植物ヲ材料トシテ織布ヲ爲シタルヲ以テ調貢モ亦獵獲又ハ織成ノ餘ニ就テ之ヲ課シ

タルナルヘシ然レトモ神代史ニ於テ既ニ水田陸田ノ稱アルヲ以テ見レハ當時既ニ耕作ノ行ハレタルコトハ爭フヘカラス隨テ耕作ノ餘ニ課スヘキ田租モ亦

田ノ經界ヲ定メ之ヲ貢セシメラレタルコトハ必ス之レ無クンハアラスト雖モ史籍簡潔其詳ナルヲ知ルニ由ナシ後世ニ至リ田ノ積量ヲ幾代幾歩ト稱シ其積

量ニ應シテ租稻ヲ收メタルコトハ一二書史ノ記スル所ナルモ其何レノ時代ヨリ行ハレタルコトナルヤハ分明ナラス故ニ之ヲ以テ直チニ崇神天皇ノ時ニ定

メラレタルモノト爲スコトヲ得ス庸ニ至テハ想フニ上古道路池溝宮殿等ノ土木ヲ起工スルニ當リ事ニ臨ミ民人ヲ使役シタルナルヘク豫メ其順序方法ヲ定メタルニアラサルヘシ崇神天皇始メテ人民ヲ檢校シ長幼ノ次第黃少中丁老耆

及ヒ之ヲ使役スルノ先後(富強ヲ先ニシ貧弱ヲ後ニシ多丁ヲ先ニシ少丁ヲ後ニス)ヲ定メ課役ノ順序ヲ明カニセラレタリ
爾後孝徳天皇大化元年(神武天皇ヨリ千三百餘年)ニ至ルマテハ租稅ノ沿革詳カナラスト雖モ租稅ハ調庸ノ二種ニ分レ朝廷御供及ヒ國家需用ノモノヲ人民ヨリ繼續ヲ奉ルモノヲ調(ミツギ)ト稱シ田租モ亦此中ニ包含シ民人各身役ヲ勤メ若シ勤マサレハ代フルニ布又ハ米等ヲ納ムルヲ庸(チカラシロ)ト稱シタリ大化二年ニ至リ制度改新ノ詔アリ茲ニ始メテ租調庸ノ制ヲ見ルニ至リ現今稱スル所ノ地租雜稅夫役ノ區別ヲ明カニスルニ至レリ而シテ田ノ積量ヲ町段歩ニ分ツノ制モ亦實ニ大化ノ改新令ニ始マリタルモノナリ唯當時尙ホ草創ニ屬シ調ハ之ヲ戶及ヒ田ニ課シタルヲ以テ田ニ租調ヲ併徵スルノ姿ト爲リ且ツ庸亦戶數ニ依リテ之ヲ定メタルカ故ニ租調庸ノ分界ハ後世ノ如ク劃然タラサリシカ如シ又詔ニハ兵ハ人身コトニ刀甲弓矢幡鼓ヲ輸セトアルヲ以テ見レハ當時ハ兵役ニ服スル義務モ亦庸ト爲シ兵役ニ服スル者ハ自ラ武器ヲ携帯スルヲ以テ其義務ト爲シタルカ如シ

租調庸ノ制ハ文武天皇ノ大寶令頒布ニ由リ茲ニ完備シタリ(大化二年ヨリ五十餘年)大寶令
三依レハ

租ハ田ニ課スルモノニシテ田ノ面積ニ應シ穫稻ヲ定メ穫米若干ニ付租稻若干ヲ納メシムルノ制ナリ其割合ハ一町ノ穫稻五百束ニシテ此租稻二十二束ナリトアルモ其實量ニ至テハ考證家ノ間ニ議論ノ存スル所ナリ

調ハ戶ニ課スルモノニシテ割合ヲ定メ戶内ノ正丁次丁中男ヲシテ絹繩絲綿布ノ内其郷土ノ出ス所ニ隨テ之ヲ納メシム但シ鐵、鍬、鹽、魚介、海藻、鮮等ヲ以テ代納スルコトヲ得此場合ニ於テハ次丁二人中男四人ハ並ニ正丁一人ニ准スルモノトス

庸ハ口ニ課スルモノニシテ正丁歳役十日次丁五日若シ現役ニ服セサレハ庸布ヲ納メサルヘカラス

正丁次丁共ニ正役以上ニ服役スルトキハ之ヲ留役ト稱シ正丁ノ留役三十日次丁ノ留役十五日ニ達スルトキハ租調共ニ之ヲ免ス

大寶令ノ後賦課ノ方法等多少ノ變革アルモ大體ノ制ニ於テハ多ク異ル所ナシ

然ルニ班由ノ法漸ク衰ヘ莊園益々盛ナルニ及ヒ調庸ノ制亦昔時ノ如キ能ハス或ハ之ヲ貢セサルモノアリ或ハ之ヲ抑留スルモノアリ源平ノ亂ニ至リ役丁ハ軍役ニ變シ軍役益々繁クシテ調庸ノ制ハ遂ニ廢シタリ是ニ於テ租稅ハ勢ヒ之ヲ田地ニ向テ求メサルヲ得ス田租カ主要ナル財源タルニ至リシハ實ニ武權政治ノ時ニ始マリシモノト謂ハサルヘカラス

後鳥羽天皇文治以後北條氏執權政治時代(大寶ヨリ凡ソ四百八十九年)ニ於ケル租稅ノ狀態ハ凡ソ左ノ如クナリシカ如シ

租

上古ノ調庸ハ廢セラレ租ニ加重セラレタリ且ツ從來租ハ耕地ニノミ課シタリシカ鎌倉府以來ハ郡村ノ宅地ニモ之ヲ課シタリ唯市街ノ宅地ハ租ヲ課セスシテ地子ヲ課シ場所ニ依リテハ地子ヲモ免シタリ彼ノ兵糧米ヲ段別ニ賦シタルカ如キハ元來課役ノ一種ナルヘシト雖モ年年因襲シ土地ノ負擔ハ之カ爲メニ増加シタルヲ以テ尙ホ之ヲ一種ノ租ナリト謂ハサルヲ得ス

年貢

山野河海ニ課スルモノニシテ山野ニ在テハ鐵藥草等ヲ輸スヘク河海ニ在テハ魚介蘆藻ヲ納ムヘシ是レ調庸ノ遺物ナリ以後足利氏豐臣氏等ノ時代ニ至ルマテ山海小租ヲ課セシコト諸書ニ散見シ之ヲ小成物ト稱セリ

課役

上世ノ庸ト異リ内裏社殿等ノ造營及ヒ城池道路橋梁堤防ノ構築驛傳ノ運輸等其事アルニ臨ミ費用ヲ課シテ米錢ヲ徵收シ又ハ民人ヲ使役スルヲ總稱ス初メ段別ニ課シテ段錢ト稱シ後石高ニ賦シテ高掛米ト稱ス國役ト稱シ堤川修理等ノ爲メ國ヲ定メテ段別石高等ニ賦課セルモノアリ

雜役

段錢高掛米等田地ニ賦課スルモノノ外戸ニ課シ又ハ人ニ賦スルモノナリ堤防修築ニ要スル空俵ヲ課シ或ハ五節ノ供御ヲ調進セシメ又ハ禁垣宮殿ノ修營等ニ役ス多クハ金錢ヲ徵セリ

徳川氏(文治以後四十年)ノ租稅制度ハ大體ニ於テ鎌倉以來ノ制ニ同シ今之ヲ概舉

ズレハ左ノ如シ

租

耕宅地ニ課スルコト鎌倉以來ノ制ニ異ラス而シテ正租ノ外仍ホ口米永及
ヒ小租ヲ附加シタリ口米永トハ郷里吏胥ノ俸給筆墨紙等ノ費用ニ供スル
爲メ正租ノ上ニ若干ヲ加徴ス貢米一俵ニ一升貢永百文ニ三文ヲ大率トス
地方ニ依リ差アリ小租ハ正租ノ欠減ヲ補充スルノ意ニ出ツルモノニシテ
目米、目錢、出目米、欠米、込米、本石計立、乾米筵付等ト稱シ正租ニ付屬シテ之ヲ
徴シタリ

小物成

小物成ハ山野河海ノ産穫ニ課スルモノニシテ其種類甚タ多シ山年貢、山小
物成、草役、川運上、海役、鹽濱等枚擧ニ暇アラヌ
雜稅ト目スヘキ工商其他ノ生業ニ課スルモノモ亦小物成ト謂フ而シテ雜
稅中ニハ或ハ運上ト稱シ或ハ冥加ト稱シ又或ハ分一ト稱シ其稱呼一ナラ
ス定率ニ依リ納付スルモノヲ運上トシ免許ヲ得テ營業スルカ爲メ納ムル

ヲ冥加トシ賣上高ノ一定ノ割合ヲ納ムルヲ分一ト稱スルカ如シト雖モ冥
加金ト稱スルモノヲ指シテ運上ト稱シタルカ如キ實例アルヲ以テ見レハ
用語ハ必スシモ精確ノ字義ヲ有スルモノト爲ス能ハサルカ如シ
小物成ニモ附加ノ口米永ナルモノアリ

課役

課役ハ北條氏時代ニ於ケルト大差ナシ唯鎌倉府ノ時課役頻繁足利氏ノ時
誅求度ナシ徳川氏ニ至テハ驛傳助郷ノ率ヲ定メ村役ヲ課スレハ三役ヲ免
シ田畑五分以上ノ損害アルトキハ則チ諸役ヲ除ク等各定法ヲ設ケタリ
三役(六尺給米、藏前入)モ亦一ノ課役ナリ即チ六尺給米トハ曩昔庖厨ニ役
使スル人夫ヲ高ニ賦課シタルモノニシテ後ニハ六尺ノ人員ニ隨テ其給米
ヲ課シタルモノナリ藏前入用トハ民人田租ヲ上納スル時ノ雜費ニ充ツル
爲メニ賦課スルモノニシテ傳馬宿入用トハ寶永年間宿手代ナルモノヲ五
街道ノ驛郵ニ置キ之ニ給スルカ爲メニ賦課ス後手代ヲ廢シタルモ尙ホ之
ヲ徴シテ問屋本陣等ニ給ス

德川氏ノ時代ニ於テモ亦國役ナルモノアリ堤川ノ修理外國ノ來聘日光法會道上諸費等ニ要スルモノハ之ヲ國ヲ定メテ其國高ニ賦課シタリ是レ亦一種ノ課役ナリ

雜役

諸川舟渡等ノ役ヲ課スルモノナリ

明治維新ノ初ニ於テハ租稅ニ關シテハ渾テ德川氏ノ遺制ニ準由シタリシカ爾後種種ノ改廢ヲ經テ終ニ今日ノ如キ制度ト爲レリ現行國稅ノ維新後ニ於ケル變遷ニ關シテハ各稅ニ就テ説明ヲ爲スニ當リ更ニ之ヲ記述スルノ機會アルヘキヲ以テ今茲ニハ細說セス唯茲ニハ德川氏ノ遺制カ如何ニ變遷シタルヲ概見スルカ爲メ維新當初ニ於ケル其大體ノ比較ヲ爲サントス

租

從來租ハ耕地及ヒ郡村宅地ニノミ賦課シ市街ノ宅地ニハ地子ヲ課シ又ハ之ヲ免除シタリシカ明治五年ニ至リ地子免除地ト稱シ無稅ノ特典ヲ有シタル東京ヲ始メ全國通邑大都ノ市街地ニ地券ヲ發行シ地價ヲ付シテ分一稅ヲ

徵シタリ爾後地租改正ヲ施行シ民有地ハ其耕宅地タルト山林原野タルトヲ問ハス惣テ之ニ地價ヲ付シ地租ヲ徵收スルコトト爲レリ

雜稅

舊時ノ小物成ハ各地習慣ニ隨ヒ汜極アルコトナク甚シキニ至テハ租稅トシテ徵收スルニ堪ヘサル如キモノアリ仍テ維新以來漸次之ヲ更正又ハ廢止シ且ツ新ニ稅目ヲ設ケテ施行シタルモノ尠カラス今舊時ノ小物成中左ニ掲クルモノハ維新後明治八年頃マテニ更正シタルモノニシテ其他ハ悉ク廢止セラレタルモノナリ

酒造元年更正 醬油 同 船 同 牛馬賣買 同 蠶種生絲稅二年更正 銃獵稅三年更正
鑛山稅四年更正 絞油稅 同 碇泊稅六年更正
尙ホ同年間ニ於テ新ニ施行シタル稅目左ノ如シ

專賣特許稅四年新設 僕婢稅六年新設 馬車稅 同 人力車稅 蠶籠稅 同
乘馬稅 同 遊船稅 同 證券印紙稅 同 營麴稅 同 諸會社稅八年創設 車稅 同 煙草稅 同 度量衡稅 同

舊小物成中地中ニ屬セシモノハ地租改正マテハ現存シ地租改正ト共ニ廢止セラレタリ

課役

課役ハ明治八年マテノ間ニ漸次之ヲ廢止シタリ

賦金

明治六年僕婢馬車人力車等ノ諸稅起ルニ方テ其稅額ノ外幾分ヲ增課シ以テ修路警察費等ノ諸費ニ充ツルハ府縣ノ適宜タラシメ之ヲ賦金ト稱ス
維新當初ニ於テハ租稅ハ總テ國稅タリシカ明治八年二月從來ノ雜稅中國稅トシテ存スヘキモノノ外ハ悉ク之ヲ廢止シ其九月ニ租稅賦金ヲ國稅府縣稅ノ二款ニ分チ全國一般ニ賦課シテ國費ニ供スルモノヲ國稅トシ賦金ト稱シ收入スル諸稅及ヒ姑ク舊慣ニ依リ地方ニ於テ收入セル雜稅等ニシテ其地方ノ費用ニ供スルモノヲ府縣稅ト稱シタリ明治十一年七月ニ至リ府縣稅及ヒ民費ノ名ヲ以テ徵收スル府縣費區費ヲ改メテ地方稅トシ其後明治二十一年ニ至リ市町村稅ノ目起リ同二十三年府縣稅ノ制アルニ至リ今日ニ於テ租稅ニハ國稅府縣稅市町

村稅ノ三段アルニ至レリ

明治八年頃ヨリ以後ニ於テモ國稅ノ沿革ハ種種ノ變遷ヲ經タリト雖モ予ハ各稅ニ就テ明治維新後ノ變遷ノ概畧ヲ記述スルノ意アルヲ以テ今茲ニハ省畧スヘシ現今行ハルル所ノ國稅ハ左ノ數種トス

- 一 地租
- 二 所得稅
- 三 營業稅
- 四 登錄稅
- 五 酒造稅
- 六 混成酒稅
- 七 沖繩縣酒類出港稅
- 八 醬油稅
- 九 賣藥印紙稅
- 十 印紙稅

- 十一 鑛業稅
- 十二 取引所稅
- 十三 狩獵稅
- 十四 兌換銀行券發行稅
- 十五 郵便稅
- 十六 北海道水產稅
- 十七 北海道地方稅
- 十八 海關稅
- 十九 噸稅

右ノ内狩獵稅、郵便稅ノ如キハ寧ロ手數料ノ性質ヲ有スルモノナルヲ以テ茲ニハ說述セサルヘシ鑛業稅、取引所稅、兌換券發行稅ニ關シテハ規定簡單ニシテ說明ヲ要スルモノニアラス北海道水產稅、北海道地方稅ハ一地方ニ關スル稅目ナルカ故ニ茲ニハ說明ヲ畧スヘシ海關稅噸稅ニ至テハ他ノ國稅トハ自ラ趣ヲ異ニスル所アルヲ以テ本論ニ於テ說述セサルヲ以テ便宜ト爲スヘシ故ニ予ハ前記一

ヨリ十二至ル諸稅ニ付テノミ現行法規ノ解釋ヲ試ントス而シテ予ハ先ツ各稅法ニ就テ其賦課徵收ニ關スル規定ヲ說明シ然ル後間接國稅ニ關シテハ其犯則者ニ對スル特別ノ處分法及ヒ一般國稅ノ徵收ニ關スル規定ニ及ハントス

第一編 各種ノ租稅

本編ニ於テハ各種ノ租稅ニ付キ其賦課ノ基礎ヲ說明セントス

第一章 地租

第一節 地租ノ沿革

維新前ニ於ケル地租ノ沿革ハ緒言ニ於テ其梗概ヲ略述シタルヲ以テ再ヒ重複ノ言ヲ爲スヲ須ヒス故ニ茲ニハ單ニ明治以後ニ於ケル其變遷ノ要ヲ擧ケ以テ法規ノ基ク所ヲ明カニセントス但シ予ノ記述セントスル所ハ地租ノ大體ニ於ケル變遷ナルカ故ニ地租ニ關スル各事項ノ沿革ニシテ細密ニ涉ルモノハ之ヲ省畧スヘシ

明治以後ニ於ケル地租ノ沿革ヲ見ルニ凡ソ左ノ六段落ノ變遷ヲ經タルモノト謂フコトヲ得ヘシ

- 一 地租改正
- 二 明治十三年ニ於ケル地價處分
- 三 地租條例ノ制定
- 四 土地ノ整理
- 五 明治二十二年ニ於ケル地價修正
- 六 明治三十一年ニ於ケル地價修正、地租増徴及ヒ宅地組換

一 地租改正

明治ノ初メ政權一ニ朝廷ニ歸シ凡百ノ政務悉ク齊一ヲ期スルノ時ニ當リ治國ノ要器タル税法ノ如キハ夙ニ均一ノ法則ヲ設クルノ必要アリシト雖モ因襲ノ久シキ一朝遽ニ之カ釐革ヲ謀ルトキハ民心ヲ動搖セシムルノ虞アルヲ免レザリシヲ以テ姑ク徳川氏ノ遺制ニ依テ之ヲ改メサルコトトセリ然ルニ舊來慣行ノ稅制ハ戰國ノ遺法エシテ其中妥當ヲ得サルモノ尠カラス蓋シ徳川氏ノ始メ前

代擾亂ノ久シキニ懲リ休息無事ヲ主トシ制度百般總テ習慣ヲ因襲シ田租ノ制ノ如キモ其直轄ノ國郡ニ於テハ稍ヤ整理ヲ加ヘタルモノナキニアラスト雖モ國主大名ノ所管ニ至テハ殆ト之ニ手ヲ着クルコト能ハス封土ノ異ナルニ隨テ各其租制ヲ異ニシタリ而シテ其租法タル檢地ニ因テ地ノ廣狹ヲ測リ肥瘠ニ因テ地ノ等級ヲ定メ以テ土地ノ石盛ヲ算出シ檢見ニ因テ歲ノ豊凶ヲ察シテ之ヲ斟酌スルニ在リシト雖モ全國ノ檢地ハ同時代ニ成リシモノニアラサルカ故ニ自ラ伸縮ノ別ナキ能ハス等級ノ如キモ觀測ノ疎ナルト胥吏ノ奸トニ因リ不均ヲ致シ上中下ノ別ハ事實ト符合セス且ツ年所ノ經過ニ因リ古今ノ不同ヲ來タシタルモノ尠カラス檢見ノ法ニ至テハ其弊最モ甚シク請託苞苴ハ以テ觀測ヲ左右スルヲ得胥吏ノ奸ト民人ノ黠トハ往往ニシテ租額ヲ消長セシムルコトヲ得タリ故ニ全國賦租ノ偏重偏輕ハ實ニ名狀スヘカラサルモノアリ明治政府カ徳川氏ニ代ハリ政務ノ實權ヲ掌握シタル當時ニ於ケル租ノ狀態ハ實ニ此ノ如クナリシナリ是ニ於テ乎議者往往田地ヲ再檢シ石盛ノ均シカラサルヲ整理シ以テ之ヲ公平ニセンコトヲ論スル者アリト雖モ舊來檢地ハ多クハ増租ノ爲メニ之

ヲ行ヒタルヲ以テ檢地ハ地租ヲ増ス爲メニ執行スルモノナリトノ念慮深ク民心ニ固着シ檢地ノ舉アラントスルカ如キ風説アレハ人民ハ荷擔シテ立タシトスルノ情勢ナリシヲ以テ此ノ如キ議論ハ容易ニ其實行ヲ見ルヲ得ス然ルニ明治三年六月ニ至リ時ノ集議判官神田孝平田租ノ改革ヲ建議シ大ニ舊來租法ノ弊害ヲ論シ斷然石盛檢見ノ法ヲ廢シ田地ノ賣買ヲ許シ毎田沽券ヲ作リテ之ヲ交付シ以テ所有ノ證ト爲シ官ハ一定ノ區域毎ニ小衙ヲ設ケ之ニ田券帳ヲ備ヘテ田券ヲ留記シ其稅額ハ各管内既往三十年間ノ貢米平均高ヲ求メ平均相場ヲ以テ之ヲ金高ニ直シ此金高ト沽券總金高トヲ比較シテ沽券稅ヲ算定ス例ハ貢米平均金高千五百兩ニシテ沽券總金高三萬兩ナルトキハ百兩ノ沽券ニ對スル稅額ハ五兩ト爲スカ如シ而シテ田主ハ毎年一定ノ期日ニ於テ自ラ小衙ニ至リ其稅金ヲ吏ニ渡シテ領收證ヲ取ルノ制ニ改ムヘキコトヲ主張シタリ神田氏建議ノ趣旨ハ主トシテ左ノ三要點ニ歸スルモノトス

(イ) 檢見ノ法ヲ廢ス

(ロ) 地租ハ舊來ノ率ニ依リ沽券ノ價格ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス

(ハ) 米納ヲ廢シ金納トス

維新ノ功業ハ租法ノ改正ヲ行フニアラサレハ其全般ヲ終了セサルモノナルコトハ當時識者ノ等シク認メタル所ナルヘシト雖モ民心ノ歸向ニ顧慮シ姑ク其時機ヲ待チタリシニ神田氏ノ建議一タヒ出ツルニ及ヒ世論漸ク之ニ傾キ明治四年廢藩置縣ト共ニ大藏省ヲ首トシテ改正ノ議ヲ起シ地券分一ノ稅法ヲ議定シ同五年正月舊來地子免除ノ地タリシ東京市街ニ地券ヲ發行シ分一ノ稅法ヲ施シ尋テ全國一般地所賣買ノ嚴禁ヲ解キ(舊來地所ハ賣買ヲ嚴禁シタリト雖モ名ヲ質入又ハ讓證文ト云フニ藉リ其實賣買ヲ行ヒ居タリ明治五年ノ解禁ハ蓋シ事實ノ賣買ニ法律上ノ效力ヲ認メタルモノナリ)東京市街ト同シク地子免除ノ全國各市街地ニ對シ同一ノ法ヲ施行スルト共ニ一般民有地ニ對シテハ地券ヲ交付セリ然レトモ分一稅ヲ施行セシ市街地ノ外ハ單ニ地券ヲ交付セルニ止マリ收租ハ猶ホ舊法ニ依リ同年五月ニ至リ當時ノ神奈川縣令陸奥宗光亦舊法ノ弊ヲ舉ケテ田租ノ改正ヲ建議シ現在田畑ノ實價ニ從テ其幾分ヲ課シ以テ地租ニ充テントトヲ論セリ蓋シ神田氏ノ議ト大同小異ナルモノトス越テ明治六年四月

地方官會同ノ際地租改正ノ議亦大ニ興リ審議討究ノ結果地券稅法ノ施行ヲ可決シ氣運漸ク熟シタルヲ以テ同七月ニ至リ終ニ第二百七十二號布告ヲ以テ地租改正條例ヲ頒布セラレタリ地租改正條例ハ實ニ我邦古來ノ租法ヲ一變スルノ法律ニシテ其關係スル所至大至重ナルヲ以テ當時布告ヲ發スルニ當リ特ニ上諭ヲ下サレ特ニ鄭重ヲ盡スノ 聖意ヲ垂レサセラレタルヲ以テ今左ニ 上諭并ニ地租改正條例ヲ掲ケ以テ千古ノ大事業ニ對スル吾人ノ紀念ヲ新ニセント欲ス 上諭

朕惟フニ租稅ハ國ノ大事人民休戚ノ係ル所ナリ從前其法一ナラス寬苛輕重率テ其平ヲ得ス仍テ之ヲ改正セント欲シ乃チ所司ノ群議ヲ採リ地方官ノ衆論ヲ盡シ更ニ內閣諸臣ト辯論裁定シ之ヲ公平畫一ニ歸セシメ地租改正法ヲ頒布ス庶幾クハ賦ニ厚薄ノ弊ナク民ニ勞逸ノ偏ナカラシメン主者奉行セヨ 明治六年第二百七十二號布告

今般地租改正ニ付舊來田畑貢納ノ法ハ悉皆相廢シ更ニ地券調查相濟次第土地ノ代價ニ隨ヒ百分ノ三ヲ以テ地租ト可相定旨被 仰出候改正ノ旨趣別紙

條例ノ通可相心得且從前官廳並郡村入費等地所ニ課シ取立來候分ハ總テ地價ニ賦課可致尤其金高ハ本稅ノ三ヶ一ヨリ超過スヘカラス候此旨布告候事

(別紙)

地租改正條例

第一章 今般地租改正ノ儀ハ不容易事業ニ付實際ニ於テ反覆審按ノ上調査可致尤土地ニ寄リ緩急難易ノ差別有之各地方共一時改正難出來ハ勿論ニ付必スシモ成功ノ速ナルヲ要セス詳密整理ノ見据相立候上ハ大藏省へ申立免許ヲ得ルノ後舊稅法相廢シ新法施行イタシ候儀ト可相心得事 但一管内悉皆整理無之候共一郡一區調査濟ノ部分ヨリ施行イタシ不苦候事

第二章 地租改正施行相成候上ハ土地ノ原價ニ隨ヒ賦稅致シ候ニ付以後假令豐熟ノ年ト雖モ增稅不申付ハ勿論違作年柄有之候トモ減租ノ儀一切不相成候事

第三章 天災ニ因リ地所變換致シ候節ハ實地點檢ノ上損墮ノ厚薄ニヨリ其

年限リ免稅又ハ起返ノ年限ヲ定メ年季中無稅タルヘキ事

第四章 地租改正ノ上ハ田畑ノ稱ヲ廢シ總テ耕地ト相唱其餘牧場山林原野等ノ種類ハ其名目ニ寄リ何地ト可稱事

第五章 家作有之一區ノ地ハ自今總テ宅地ト可相唱事

第六章 從前地租ノ儀ハ自ラ物品ノ稅家屋ノ稅等混淆致シ候ニ付改正ニ當テハ判然區分シ地租ハ則地價ノ百分ノ一ニモ可相定ノ處未タ物品等ノ諸稅目興ラサルニヨリ先ツ以テ地價百分ノ三ヲ稅額ニ相定候得共向後茶煙草材木其他ノ物品稅追々發行相成歲入相增其收入ノ額二百万圓以上ニ至リ候節ハ地租改正相成候土地ニ限リ其地租ニ右新稅ノ增額ヲ割合地租ハ終ニ百分ノ一ニ相成候迄漸次減少可致事

第七章 地租改正相成候迄ハ固ヨリ舊法據置ノ筈ニ付從前租稅ノ甘苦ニ因リ苦情等申立候トモ格別偏重偏輕ノ者ニ無之分ハ一切取上無之候條其旨可相心得尤檢見ノ地ヲ定免ト成シ定免ノ地無餘儀願ニ因リ被免等ノ儀ハ總テ舊慣ノ通タルヘキ事

但改正調査ニ臨ミ既ニ土地ノ丈量相濟收穫地價等實地適當ノ申立ト難見据改正施行差支候節ハ定免地ト雖モ悉皆檢見法ヲ以テ收稅可致事

右ノ上諭及ヒ地租改正條例ト共ニ大藏省事務總裁ハ地租改正施行規則ヲ達シテ一般ニ施行ノ細則ヲ示シ更ニ各地方官ニ地方官心得書ヲ頒ツテ施行上服膺スヘキ事項ヲ注意シ以テ此大事業ニ着手シタリ當時着手ノ順序ハ地方ニ依リ自ラ異動アルヲ免レサルヲ以テ之ヲ一言ニ概括スルヲ得スト雖モ大體ニ就テ云ヘハ先ツ第一着手トシテ字ノ境界ヲ正シ更ニ土地一筆毎ニ地番ヲ付シテ甲乙ノ區別ト爲シ次ニ每筆ヲ丈量シ野取圖ヲ調製シテ其反別ヲ確メ之ニ依テ一町村又ハ字限リノ繪圖ヲ製シ尋テ帳簿繪圖ニ依テ實地ノ地押ヲ爲シテ落地又ハ重複地ヲ防キ然ル後每筆ノ作益ヲ見積リ之カ地價ヲ查案スルナリ然レトモ億ヲ以テ數フル筆數ニ對シ一其作益ヲ調査シ地價ヲ查案スルコトハ言フヘクシテ行フヘカラサルノ事ニ屬スルカ故ニ實際ニ於テハ各町村地目毎ニ每筆ノ地位等級ヲ定メ更ニ郡内ニ於テハ各町村ノ村位ヲ定メ縣内ニ於テハ各郡ノ郡位ヲ定メ各地目各等ニ一反步當リノ地價ヲ算出シ各等ニ屬スル每筆ハ其反別

應シテ反金ニ依リ其地價ヲ算定スルノ方法ヲ取レリ而シテ一反歩當リノ地價ヲ算出スルハ田畑ニ付テ云へハ自作地ニ在テハ其地ノ收穫ヲ見積リ其地方ニ於ケル石代相場ニ依リ之ヲ金額ニ換算シ内種、糶、肥代、地租及ヒ村入費ヲ控除シ殘額ヲ以テ地主ノ所得トシ相當ノ利率ヲ以テ還元シ其元金ヲ以テ地價ト爲シ小作地ニ在テハ小作米ヲ石代相場ニ依テ換算シ地租及ヒ村入費ヲ控除シタル殘額ヲ地主ノ所得トシ相當ノ利率ヲ以テ還元シテ地價ヲ得ルコト自作地ニ同シ收穫、石代、利率ハ實地ノ狀況ニ依リ自ラ異同アルヘキモノナルヲ以テ各地相同シカラスト雖モ種、糶、肥代、地租及ヒ村入費ハ當時地方ニ依リ之ヲ異ニスルコトヲ爲サス種、糶、肥代ハ收穫代金ノ一割五分ヲ要スルモノト爲シ地租ハ地價ノ百分ノ三、村入費ハ地租ノ三分ノ一トシ全國一般ニ之ヲ用非タルヲ以テ各地ニ於ケル一反歩當リ地價ニ異同ヲ生シタルハ全ク其根基タル收穫、石代、利率ノ差違ニノミ因ルモノトス今地價算出法ノ了解ヲ容易ニスル爲メ自作地ノ一例ヲ舉ケ以テ其計算ヲ明カニセントス

算出例

一田一反歩

此收穫米一石五斗

此代金六圓

内

金九十錢

金一圓五十三錢

金五十一錢

差引

殘金三圓六錢

此地價五十一圓

此百分ノ三地租一圓五十三錢

收穫代金ヲaトシ利率ヲbトシ地價ヲxトシ此數式ヲ以テ現ハストキハ左ノ

如シ

但一石ニ付キ代金四圓

種、糶、肥代 (收穫代金ノ一割五分)

地租 (地價百分ノ三)

村入費 (地租ノ三分ノ一)

但假リニ六分ノ利ト看做ス

$$x = \frac{100 \left\{ a - \left(\frac{15}{100} a + \frac{3}{100} x + \frac{\frac{3}{100} x}{3} \right) \right\}}{b}$$

$$x = \frac{100a - 15a - 3x - x}{b}$$

$$bx = 100a - 15a - 3x - x$$

$$bx = 85a - 4x$$

$$bx + 4x = 85a$$

$$(b+4)x = 85a$$

$$x = \frac{85a}{b+4}$$

故ニ實際ノ算法ニ於テハ收穫代金ノ八十五倍ヲ實トシ利子ニ四ヲ加ヘタルモ
 ノヲ法トシ法ヲ以テ實ヲ除スレハ常ニ地價ヲ得ルモノナリ
 地租改正ノ實地着手ハ各地多少ノ遲速アリト雖モ概ネ明治七、八年ノ間ニ在リ
 其竣功ハ田畑宅地等ハ同九、十兩年ノ間ニ在リ山林原野等ハ十四、五年ノ頃ニ涉

リシモノ尠カラス然レトモ其後レタルモノト雖モ特ニ令シテ新租ハ明治九年
 ヨリ施行スルコトトセラレタルヲ以テ地租改正ヲ爲シタル土地ハ鹿兒島縣ノ
 如ク戰亂ノ爲メ特ニ許可ヲ得テ施行ヲ延期シタルモノノ外ハ悉ク明治九年ヨ
 リ改正地租ノ適用ヲ受ケタリ

地租ノ定率ハ明治六年第二百七十二號布告ニ依レハ地價ノ百分ノ三ナリシカ
 明治十年ニ至リ一日モ億兆ヲ忘レ給ハサルノ 聖意ニ依リ左ノ如キ優渥ナル
 聖詔ヲ下シ給ヒタリ

朕惟フニ維新日淺ク中外多事國用實ニ費ラレス而シテ兆民猶ホ疾苦ノ中ニ
 在リテ未タ富庶ノ澤ヲ被ラサルヲ愍レミ曩ニ舊税法ヲ改正シテ地價百分ノ
 三トナシ偏重無カラシメントス今又親ク稼穡ノ艱難ヲ察シ深ク休養ノ道ヲ
 念フ更ニ稅額ヲ減シテ地價百分ノ二分五厘ト爲サン有司宜ク痛ク歲出費用
 ヲ節減シテ以テ朕カ意ヲ贊クヘシ

依テ同年第一號布告ヲ以テ地租ハ地價ノ百分ノ二分五厘ト定ムルコトヲ公布
 セラレタリ故ニ地租改正全部整頓ノ時ニ於テハ地租ノ定率ハ既ニ地價百分ノ

二個半ナリシナリ今當時ノ書類ニ就キ改正事業整頓ノ際ニ於ケル土地ノ反別地價、地租及ヒ筆數ヲ見ルニ左ノ如クナリシカ如シ

地目	反別	地價	地租	筆數
田	二、六三〇、六五三 ^町	一、二二〇、一四五、二八〇 ^圓	三〇、五〇三、六三二 ^圓	
畑	一、八六二、一八八	二六七、二八七、二九〇	六、六八二、一八二	
郡村宅地	三二九、六九二	一〇三、九六五、七〇七	二、五九九、一四二	八五、四四〇、〇一六
市街宅地	一九〇、三九	三〇、六〇六、三六八	七六五、一五九	
鹽田	六、九九五	二、〇三五、四七六	五〇、八八六	
山林原野 雜地等	七、四七五、三九八	二四、七二四、三五三	六一八、一三六	不明
計	一一、三二二、九六五	一、六四八、七六四、四七六 ^圓	二、一九、一三九	

備考 町以下及ヒ圓以下ハ之ヲ切捨ツ

右ノ外地價ヲ付セサルモノハ荒地反別十一万三千九百十町ニシテ開墾地反別

四万四千三百五町ナリ

右新租ヲ以テ舊租ニ比スレハ實ニ千百十四万八千九百十五圓ヲ減シ之ヲ以テ地價百分ノ三ヲ以テ定率トシタル當時ニ比スレハ地租額正ニ八百二十四万三千八百六圓ヲ減シタリ

二 明治十三年ニ於ケル地價處分

明治六年第二百七十二號布告ニ依レハ地租ハ土地ノ代價ニ隨ヒ其百分ノ三ト定ムルコトヲ明言セラレタルヲ以テ地租改正當時ニ於ケル立法ノ趣旨ハ地價ハ土地ノ賣買アル毎ニ其代價ニ依テ之ヲ改正スルニ在リシモノノ如シ是レ獨リ第二百七十二號布告ノ明文ニ依テ然ルノミナラス地租改正事業ノ原動力タル神田、陸奥諸氏ノ建議又ハ大藏省ヨリ左院ニ建白シタル文書等ニ依テ之ヲ徵スルモ當時ノ議論ハ地價ヲシテ賣買代價ト一致セシムルニ在リタルコトハ明カナリ然ルニ土地ナルモノハ消費物等ト異ナリ其代價ハ必スシモ其實益ニ比例シテ定マルモノニアラス買主ノ其地ニ對スル個人的關係ハ大ニ其代價ニ影響シ甲乙買主ノ間ニハ之ヲ買受クル代價ニ甚シキ軒輕アルモノナリ今若シ此

ノ如キ相關的ノ事情ニ依リ甚シキ差違アルモノヲ以テ賦稅ノ標準ト爲シ之ニ依テ地價ヲ更訂スルトキハ地價ハ昂低度ナク終ニ公平畫一ヲ失フニ至ルヘシ故ニ明治七年五月ニ於テ第五十三號布告ヲ以テ地租改正條例ニ一章ヲ追加シ地價ハ地租改正後五ヶ年間之ヲ据置クコトトシタリ其文左ノ如シ

第八章 地租改正後賣買ノ間地價ノ増減ヲ生シ候共改正ノ年ヨリ五ヶ年ノ間ハ最初取定メ候地價ニ據リ收稅致スヘキ事

但地價昂低ヲ生シ候節ハ券狀裏面ヘ其地方官ニ於テ朱書ニテ記シ置可申事

地租改正ハ早キハ明治九年ニ於テ竣功ヲ告ケタルモノアリ明治十三年ニ至リテハ各地方漸次地價据置期限ノ終了ヲ告クルモノヲ生セントス然ルニ既往ノ實蹟ニ依レハ地價改正ハ左ノ如キ點ニ於テ事情ノ之ヲ許ササルモノアリ

(イ) 地價改正ハ官民共ニ非常ノ勞費ヲ要ス故ニ若シ緩急ノ時機ヲ愆ルカ如キハ平準ヲ需ムルノ厚意ハ却テ怨嗟ノ媒介ト爲ラサルヲ保セス

(ロ) 租額ノ變更頻繁ナルハ經濟ノ道ヲ害ス土地ノ負擔ニシテ時時變更スル

トキハ其價格ハ其度毎ニ異動ヲ生シ人民ノ財產ハ其安固ヲ失フヘシ

(ハ) 比年米價漸次騰貴シタルヲ以テ若シ土地ノ實益ニ依テ其地價ヲ更訂スルモノトセハ地租ハ大ニ増加セラレニ至ルヘシ是レ民ニ休養ヲ與フルノ 聖旨ニ協フ所以ニアラス

故ニ明治十三年第二十五號布告ヲ以テ左ノ如ク一般ニ達セラレタリ

第一條 明治七年第五十三號ヲ以テ地租改正後五箇年間ハ當初定メタル地價ニ據リ收稅致スヘキ旨布告及ヒ置キシ處仍ホ明治十八年迄据置收稅致スヘシ但府知事縣令ニ於テ當初定メタル地價不適當ナリト思量シ其事由ヲ具申スルトキハ大藏卿ハ検査員ヲ派遣シ實地調査ノ上一町村又ハ一郡區限リ特別修正ヲ聽許スルコトアルヘシ

第二條 改租以後地目變換田ヲ畑ニ畑ヲ田ニ爲スノ類セルモノハ五箇年滿期ニ際シ總テ現地目ニ組替地價ヲ修正シ爾後變換スル者ハ其年々修正スヘシ

第三條 第一條第二條ニ依リ修正ヲ加フル時ハ明治六年第二百七十二號布告ノ地租改正條例及ヒ同年七月大藏省事務總裁布達ノ地租改正施行規則

ニ依ルヘシ且其費用ハ官吏ノ旅費日給ヲ除クノ外悉皆修正ニ該ル郡區町村若クハ所有者ヨリ支出スヘキモノトス

第四條 地價修正ノ後租額ノ増減ハ其修正聽許ノ年ヨリ改定スルモノトス
右布告候事

右布告ニ依リ地租改正後五箇年ヲ經過スレハ地價ヲ改正スヘキコトヲ規定シタル地租改正條例第八章ノ規定ハ自ラ廢滅ニ歸シ更ニ明治十八年マテハ地價ノ更訂ヲ爲ササルコトト爲レリ唯實地不適當ナルモノニ限り小區域ヲ限り府知事縣令ヨリ具中スルトキハ特ニ其地價ノ修正ヲ許シ以テ地租改正ノ缺漏ヲ補修セントシタリ

三 地租條例ノ制定

地價ハ明治十三年第二十五號布告ニ依リ明治十八年マテ据置カレタルヲ以テ明治十九年ヨリハ之ヲ改正セサルヘカラス明治十九年ヨリ改正地價ニ依リ地租ヲ徵收セントセハ遅クモ明治十六七年ヨリ改正事業ニ着手セサルヘカラス是ニ於テ乎更ニ地價改正ノ要否得失ヲ考究シテ之カ處分ヲ一定シ人民ヲシテ向

フ所ヲ知ラシメサルヘカラサルノ時機ハ明治十六七年ノ交ニ於テ正ニ到來シタリ然ルニ當時ノ狀勢ニ於テモ尙ホ明治十三年ト同シク地價改正ハ容易ニ之ヲ行フヲ得サルノ事情アリ蓋シ地價改正ノ爲メニハ官民共ニ非常ノ勞費ヲ要スヘキコト地租改正ノ實蹟ニ依テ之ヲ徵スヘク而シテ改正ノ結果ハ必スシモ能ク民意ヲ満足セシムルヲ期スヘカラス且ツ明治十七八年ノ頃ニ於テ地價ヲ改正セントセハ既往五年若クハ十年間ノ平均米價ヲ以テ地價算出ノ石代ト爲ササルヘカラス然ルニ明治十三四年ノ頃ハ紙幣増發ノ餘響俄ニ米價ノ稱呼ハ高メタルニ反シテ明治十六七年ニ至リテハ紙幣ノ整理漸ク其成ヲ告ケ米價ハ稍ヤ下落ニ傾キタルヲ以テ其當時ノ米價ハ既往數年間ノ米價ニ比シ頗ル低廉ナリ故ニ當時若シ地價ノ改正ヲ爲セハ或ハ土地ノ實益以上ニ其地價ヲ定ムルカ如キコトナキヲ保セス此ノ如キハ土地ノ價格ニ影響シ所有者ノ損害ト爲ルコト尠カラサルヘシ

地租改正再舉行ノ實行スヘカラサルハ此ノ如シ而シテ一方ニ於テハ當時地租ニ關スル法規ハ尙ホ完備ヲ缺キ地租改正條例地租改正施行規則ノ外單行法ヲ

以テ地目變換地、開墾地、荒地等ニ付キ其處分方ヲ定メタルモノアリト雖モ頗ル不完全タルヲ免レヌ是ニ於テ當局者ハ審案熟議シ我邦租稅中其關係ノ最モ重大ナル地租ニ關スル法典ヲ制定スルノ必要アリト爲シ地租改正條例其他從來地租ニ關シテ發布セラレタル布告布達等ニ就キ其存スヘキハ之ヲ存シ廢スヘキハ之ヲ廢シ更正ヲ要スルモノハ更正ヲ爲シ追加ヲ要スルモノハ追加ヲ爲シ終ニ明治十七年第七號布告ヲ以テ地租條例ヲ公布セラレタリ同條例ニ依レハ一定ノ年限ニ依リ地價ノ改正ヲ爲スノ規定ハ之ヲ廢止シ一般ニ地價ヲ改正スルトキハ前以テ布告スヘキモノト爲シタリ故ニ明治十七年地租條例施行以後ハ一般ノ地價ヲ改正スルハ法律ヲ以テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

明治十八年ニ公布セラレタル地租條例ハ爾後兩三回多少ノ改正ヲ經タルモ大體ニ於テハ變更セラルルコトナク以テ今日ニ至リ現ニ地租賦課ノ基礎タル法規ヲ爲スモノナリ

四 土地整理

地租條例既ニ制定セラレ賦租ノ根本法完備ヲ告ケタルヲ以テ大藏省ハ明治十七年第八十九號達ヲ以テ地租ニ關スル諸帳簿樣式ヲ定メ之ヲ府縣ニ達シ以テ地租賦課ノ基本ヲ正確ナラシメントシタリ然ルニ地租改正事業整頓以來地目變換、開墾荒地等ノ事故ニ由リ届出又ハ願出アリタル爲メ實地検査ヲ爲シタルモノノ外ハ全般ノ土地ニ付テハ絶エテ實地ノ検査ヲ爲シタルコトナカリシヲ以テ官ニ申告セシメテ地目ヲ變換シ又ハ開墾ヲ爲シタル者多ク且ツ地租改正ノ際ニ當リ調査ニ漏レタル脫落地モ亦尠シトセス故ニ在來ノ帳簿圖面ハ實地ト符合セサル所尠カラス此時ニ當リ輒ク改定樣式ニ依レル帳簿ヲ調製スルモ他日之ヲ實地ニ對照スレハ忽チ其齟齬ヲ發見シ其費其勞ノ徒ニ水泡ニ歸スルノミナラス申告ナキ異動地ヲ發見スルトキハ一ニ之ヲ罰條ニ問ハサルヲ得サルハ言ヲ埃タス然レトモ積漸ノ致ス所一朝法律ノ力ヲ以テ之ヲ措置スルハ稍ヤ妥當ナラサルモノアリ是ヲ以テ適宜期限ヲ定メ各町村ニ於テ在來ノ帳簿圖面ニ對照シ一應實地ノ取調ヲ爲シ其異動アルモノハ直チニ之ヲ申告スヘク事實ノ申告ナキ場合ニ於テハ官吏ハ實地ニ臨ミ地押検査ヲ爲シ之ニ依テ新帳簿ヲ調製スルコトトシ將來實地ト帳簿トニ齟齬ナカラシメ以テ所有ノ權利ヲ

鞏固ニシ賦租ノ基本ヲ正確ナラシメント期シタリ土地整理ノ業タルノ改租ノ成績ヲ維持セントスルモノニシテ殆ト地租改正ニ亞クノ大事業ナリシヲ以テ官民費ス所尠カラズ明治十八年ニ着手シ爾來四閱曆ニ涉リ始メテ其竣功ヲ見ルヲ得タリ

五 明治二十二年ニ於ケル地價修正

地租改正ノ事業タル千古稀有ノ大事業ニシテ而モ當時維新ヲ距ル日尙ホ淺ク人心未タ大ニ安セサルノ時ニ屬シタルヲ以テ其間種種ノ困難紛錯ヲ經殆ト十年ノ歲月ヲ費シテ僅ニ之ヲ完成スルヲ得タリ蓋シ負擔スル所ノ輕重得失ハ直チニ數千万人ノ頭上ニ係リ調査スル所ノ土地面積ハ廣ク數億萬ノ筆數ニ涉リ加フルニ各地積年遺習ノ存スルアリ重キモノ減シテ未タ全ク正當ニ歸セス輕キモノ増シテ以テ尙ホ適宜ニ至ラサルハ勢ノ然ラシムル所ニシテ事後ニ於テ其成績ヲ見レハ其間尙ホ公平畫一ヲ缺クモノアルハ此ノ如キ大事業ニ於テ免レサル所ナリ明治十三年第二十五號布告公布以來其第一條但書ノ規定ニ基キ府知事縣令ノ具申ニ依リ數年ヲ費シ地價ノ不適當ナルモノヲ矯正セラレタリト雖

モ元來該布告ハ小區域ヲ限リ特ニ不適當ナルモノノミヲ救濟スルノ趣旨ニ出テタルヲ以テ其適用ノ範圍ハ極メテ狹ク實際之ニ依テ修正減額シタルハ地價ニ於テ千六百九十萬餘圓地租ニ於テ四十二萬餘圓ニ過キスシテ未ダ以テ全般ヲシテ權衡ヲ得セシムルニ至ラス且ツ地租改正後ニ生シタル諸般ノ關係モ亦土地ノ實益ニ影響シ地價ノ權衡ヲ失ハシムルノ原因ト爲リタリ今地租改正當時及ヒ其後ニ於テ各地ノ地價ヲシテ權衡ヲ缺クニ至ラシメタルモノヲ案スルニ凡ソ左ノ如キ原因ヨリ來ルモノノ如シ

甲 改租當時ノ原因

(イ) 地租改正ノ着手及ヒ完成ハ地方ニ因リ先後アリ而シテ最初ニ改正ヲ舉行シタル地方ハ地價概テ低下ナリ蓋シ最初ニ於テハ物價低落ノ際ナリシヲ以テ低廉ナル物價ヲ標準トシテ地價ヲ算出シタルト且ツハ官民共ニ尙ホ經驗ヲ有セサリシカ爲メ偏ニ賦租ノ輕減センコトヲ欲シタル如キトニ因ルナルヘシ

(ロ) 舊租ノ重カリシ地方ハ自ラ地價高貴ナリ地租改正ハ實地調査ノ結果ニ

依ルヘキモノニシテ舊租ヲ斟酌スヘキモノニアラスト雖モ舊租ハ時ニ實地調査ノ結果ノ當否ヲ判斷スルノ標的ト爲リ爲メニ自ラ地價ニ影響シタルナリ

(ハ) 全國地方ニ依リ其取扱者ヲ同シウセサルカ爲メ各自ノ見ル所自ラ異同アルヲ免カレヌ

乙 改租以後ノ原因

(イ) 交通機關ノ漸次整備スルニ隨ヒ各地ノ物價殊ニ米價ハ漸ク平均ヲ得ルニ至リ改租當時ニ於テ地價算出ノ基礎ト爲シタル石代ト差違ヲ生シ爲メ
(ニ) 土地ノ收利上ニ一大變化ヲ與ヘタルモノ多シ

(ロ) 交通及ヒ金融ノ機關整頓ヲ得ルト共ニ各地ノ金利モ亦漸ク平均ヲ得ント爲メニ改租當時ノ利率ハ適當ナラサルモノヲ生シタリ

(ハ) 外國貿易ノ隆運内地工業ノ増進等ハ各地市街繁否ノ形勢ヲ一變シ地價ニ影響ヲ與ヘタルモノ尠カラヌ

右ノ原因ヲ各地方ニ適用シテ説明スルコトハ予ノ好マサル所ナルヲ以テ茲ニ

ハ之ヲ省略スヘシト雖モ既ニ此ノ如キ事情アル以上ハ之カ救濟ノ途ヲ講スルハ當局者ノ當ニ勉ムヘキ所ナルヲ以テ改租當時ニ用ヒタル收穫、石代、利率ニシテ更正ヲ要スルモノヲ精密ニ調査シ之ニ依テ地價ノ修正ヲ爲スヘキ府縣及ヒ其修正總額ヲ定メ明治二十二年法律第二十二號ヲ以テ田畑ニ限リ特ニ其地價ヲ修正スルコトト爲レリ其法律ハ左ノ如シ

朕地租改正以來ノ實歴ニ徴シ此法律ニ指定スル府縣ノ田畑ニ限リ地價低減ノ必要ヲ認メ地價ノ特別修正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年八月二十六日

内閣總理大臣 伯爵 黒田清隆

大藏大臣 伯爵 松方正義

法律第二十二號

第一條 田畑地價ノ特別修正ヲ爲スヘキ府縣國郡及其修正地價總額左ノ如シ

(府縣國郡及ヒ地價總額略之)

第二條 修正地價總額ニ依リ低減スヘキ市町村田畑ノ地價額ハ大藏大臣之ヲ定メ府縣知事ヲシテ達セシム

第三條 此法律ニ依リ地價ヲ低減シタル田畑ノ地租ハ明治二十三年分ヨリ其修正地價ニ依リ之ヲ徵収ス

法律第二十二號ノ特色ヲ舉クレハ左ノ如シ

(イ) 地價ノ修正ハ輕減スヘキモノヲ低減スルニ止メ増加スヘキモノハ之ヲ増加セス

(ロ) 法律ニ於テハ修正地價ハ多クハ府縣又ハ國ナル區域ヲ以テ其總額ヲ定メ僅ニ二三ノ縣ニ於テノミ數郡ヲ一區域トシテ其總額ヲ定メタリ

(ハ) 府縣國郡ニ於ケル市町村ノ修正地價額ハ大藏大臣之ヲ定ム

(ニ) 市町村内毎筆ノ修正地價額ハ地主總代ヲシテ之ヲ定メシムルモノトシ

法律ニ於テハ何等ノ規定ヲ爲サス

法律制定當時ニ於ケル豫定ニ依レハ修正法ノ爲メ田畑地價凡ソ一億二千萬圓其地租凡ソ三百萬圓ヲ減スルニ在リシカ如シト雖モ實際ニ於テハ計算上ノ差

數アリタル爲メ地價一億二千九百五十三萬五百四十四圓地租三百二十四萬千九百十圓ヲ輕減シタリ

六 明治三十一年ニ於ケル地價修正、地租增徴及ヒ宅地組換

田畑地價ハ明治二十二年ニ於テ特別ノ修正ヲ行ヒタルヲ以テ頗ル其矯正ヲ得稍ヤ公平ヲ得ルニ近キタリト雖モ當時ノ修正ハ歲計ノ許ス限度ニ於テ之ヲ行ヒタルカ故ニ之ヲ全國ニ就テ達觀スルトキハ尙ホ未タ全ク其權衡ヲ得ルノ域ニ達セサルモノアリ是ヲ以テ明治二十三年帝國議會ノ開設セララルヤ地價修正論ハ囂々トシテ起リ毎會其議ノ衆議院ノ問題ニ上ラサルコトナシ終ニ明治二十五年ニ至リ時ノ政府ハ田畑地價特別修正法律案ヲ立案シ勅旨ヲ奉シテ第四帝國議會ニ提出シタリ其要旨ヲ舉クレハ左ノ如シ

一 田畑地價ノ偏重ナルモノハ一億四千萬圓以上一億五千萬圓以下ノ範圍ニ於テ之ヲ修正低減ス

二 地價修正ノ標準ハ土地ノ品位ニ依リ收穫ヲ低減シ明治二十年以降五個年間平均米價ニ付キ一定ノ歩合ヲ以テ低減シタルモノヲ以テ石代トシ利

率ハ總テ百分ノ六ト爲スニ在リ

三 市町村ノ修正地價額ハ大藏大臣之ヲ定ム

四 市町村内毎筆ノ修正地價額ハ地主會議ノ議決ニ據テ之ヲ定ム

地價一億五千萬圓ヲ減スルトキハ地租ニ於テ三百七十五萬圓ノ歲入ヲ減スルヲ以テ當時政府ノ計畫ハ所得稅、酒造稅及ヒ煙草稅ヲ増加シ其收入ヲ以テ之カ補充ヲ爲サムトスルニ在リ然ルニ衆議院ハ地價修正法律案ヲ可決シタルモ他ノ三稅案ヲ否決シ貴族院ハ又地價修正法律案ヲ否決シタルヲ以テ地價ノ修正ハ終ニ其實行ヲ得ス尋テ明治二十七八年日清戰役ヲ經國庫ノ歲計ハ容易ニ地價ノ修正ヲ爲スカ如キヲ許ササリシヲ以テ一時地價修正論ヲ聞カサリシモ戰後財政ノ整理ヲ要シ地租ニ於テ歲入ヲ増加セントスルニ至リ現狀ヲ以テ直チニ地租定率ヲ増加スルトキハ地租負擔ノ偏重偏輕ハ益々其程度ヲ増進セントスルヲ以テ茲ニ再ヒ地價修正ハ財政上ノ問題ト爲ルニ至リ明治三十一年第三十一號法律ヲ以テ田畑地價ノ修正ヲ爲スヘキコトヲ定メタルコト左ノ如シ

法律第三十一號

第一條 田畑地價ノ修正ヲ爲スヘキ地方及ヒ其修正地價總額左ノ如シ

(地方及ヒ修正地價總額略之)

第二條 明治三十二年二月一日ニ於テ前條各區域ノ土地臺帳面田畑地價總額前條ノ修正地價總額ヨリ少キトキハ其地方ニ於テハ地價ノ修正ヲ爲サス

第三條 第一條各區域内毎筆ノ修正地價ハ明治三十二年二月一日ノ土地臺帳面地價ニ按分シテ之ヲ定ム

第四條 此ノ法律ニ依リ地價ヲ修正シタル土地ノ地租ハ明治三十二年分ヨリ修正地價ニ依リ之ヲ徵收ス

明治三十一年第三十一號法律ハ從來ノ地價修正法トハ稍ヤ其規定ヲ異ニス今其規定ノ要點ヲ擧クレハ左ノ如シ

(イ) 地價ノ修正ハ輕減スヘキモノヲ低減スルニ止メ増加スヘキモノハ之ヲ増加セス

(ロ) 地價修正ハ郡市ヲ區域トシ其區域毎ニ彼此ノ權衡ヲ謀リタリ

(一) 修正地價總額ハ法律之ヲ定メ行政官ノ取捨ヲ許サス
 (二) 郡市内毎筆ノ地價ハ其區域内從前ノ地價總額ト修正地價總額トノ比率
 (三) ニ依リ之ヲ低減シタリ

而シテ法律ニ規定セラレタル各區域毎ノ修正地價總額ハ當時議會ニ提出セラレタル法律案ノ理由書ニ依レハ地價算出ノ要素タル收穫石代利率ノ三者ヲ更訂シテ之ヲ定メラレタルカ如シ即チ

一 收穫ハ全國一般ヲ達觀シ改租ノ事蹟ヲ調査シ彼此權衡ヲ得ルヲ期シテ相當低減ス

二 石代ハ明治二十年以降十ヶ年平均米價ヲ一定ノ割合ヲ以テ低減シタルモノニ依ル

三 利率ハ改正ノ際六朱以下ナリシモノハ之ヲ六朱ニ改メ六朱又ハ六朱以上ナリシモノハ之ヲ据置ク

明治三十一年法律第三十一號第一條ニ規定スル修正地價總額ヲ以テ之ヲ明治三十一年七月一日現在ノ地價ニ比スルトキハ一億四千九百二十九萬餘圓ヲ減

シ其地租ハ三百七十三萬餘圓ヲ減ス然ルニ法律ノ規定ニ基キ明治三十二年二月一日ノ現在地價ニ按分シテ修正ヲ爲シタル結果ニ依レハ地價一億四千八百五十九萬餘圓地租三百七十一萬餘圓ヲ輕減スルコト爲レリ即チ法律ノ豫定ト實際ノ結果トハ地價ニ於テ七十餘萬圓地租ニ於テ二萬圓弱ノ差數ヲ見タリ然レトモ實際ニ於テハ法律第二條ノ規定ニ依リ地價ノ修正ヲ爲ササリシモノアリシヲ以テ其地價七十餘萬圓ヲ除キテ對照スルトキハ殆ト大差ナキノ結果ヲ得タリト云フ

右地價修正法ノ公布ト共ニ併セテ地租條例中改正法律公布セラレ明治三十二年ヨリ同三十六年マテハ地租ハ地價百分ノ二箇半ノ定率ノ外市街宅地ハ地價百分ノ二箇半其他ノ有租地ハ地價千分ノ八ヲ増徴セラルルコト爲レリ蓋シ戰後我歲計ノ膨脹ニ伴ヒ歲入ヲ増加スルノ必要アリ明治三十年新ニ稅目ヲ起シ又ハ從來ノ稅額ヲ増加シタルモノ尠カラス而シテ地租モ亦其一ニ加ヘラレタルナリ

地租條例ノ改正ニ依リ市街宅地ハ他ノ有租地ニ比スレハ其負擔ハ甚タ重キモ

ノト爲レリ然ルニ當時ニ於ケル市街宅地郡村宅地ノ區別ハ專ラ改租ノ成績ニ依リタルモノナリト雖モ地租改正以來運輸交通ノ異同商工業ノ發達等時勢ノ變遷ニ因リ盛衰其位ヲ替ヘ冷熱其地ヲ轉倒スルアリ市街宅地ノ地目ヲ有スル土地ニシテ其實村落ニ異ラサルアリ郡村宅地ノ地目ヲ有スルモノニシテ其狀嚴然市府ノ態ヲ爲スモノアリ故ニ當時ノ稱呼ニ依リ直チニ改正地租條例ヲ適用スルトキハ宅地地租ノ負擔ニ於テ甚シキ不權衡ヲ生スルニ至リシナルヘシ是ニ於テ明治三十二年法律第六十二號ヲ以テ宅地ノ組換ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムヘキヲ規定セラレ尋テ同年勅令第二百三十四號ヲ以テ宅地ノ組換ヲ爲スヘキモノヲ定メラレタリ

今地價修正地租増徴及ヒ宅地組換ヲ完結シタル後ニ於ケル有租地反別地價地租ヲ見ルニ左ノ如シ

地目	反別	地價	地租
田	二二七四一〇一二町	九八七、五一〇、三三〇圓	三二、五八七、九八六圓

畑	二二五八、五〇五	二一七、二〇五、三〇五	七、一五七、六四二
郡村宅地	三五八、七五三	一〇七、四二一、九三三	三、五〇六、九八九
市街宅地	二五、二二七	三六、一八四、二二六	一、七四六、三五一
鹽田	七〇九四	一、五六六、一四三	六六、〇五六
鑛泉地	二八	五七、七二六	一、九〇四
池沼	一、〇五六	一二五、五一九	四、一二二
山林	七、一五六、六三七	二四、一五一、八六三	七九五、三八九
牧場	一九、一五三	三〇、五七九	五九五
原野	一、〇四二、二五九	二、三六三、八三六	七七、六五七
雜種地	一〇、五四三	九一三、四六二	一一、一七三
計	一三、六二〇、二四八	一、三七七、五三〇、九〇二	四五、九五五、八六四

備考 荒地ヲ除ク

右地租四千五百九十五萬五千八百六十四圓定率ニ依ルモノ三千四百三十八萬

六千五百五十五圓増徴ニ係ルモノ千五百五十六萬九千三百九圓ヨリ成ルヲ以テ
明治三十七年ニ至レハ地租ハ當然三千四百三十八萬餘圓ト爲ルモノトス
以上述フル所ハ明治年間ニ入りタル後ニ於ケル地租沿革ノ概略ナリ地租ハ土
地ナル不動物ノ上ニ係ル負擔ニシテ稅法ハ如何ニ改正セラルルモ其課稅ノ目
的タル土地ハ變セサルヲ以テ現行地租ノ如何ヲ知ルニハ常ニ其沿革ヲ知ラサ
ルヘカラス故ニ予ハ地租ノ沿革ヲ述フルニ當テハ特ニ或法規ノ法文ヲ挿入シ
テ改正ノ本ツク所ノ根據ヲ明ニシ以テ讀者ノ了解ニ資センコトヲ勉メタリ

第二節 現行地租

現今我邦ニ於ケル地租ハ臺灣ヲ除キテ之ヲ言フモ尙ホ地方ニ因リ之ヲ法規ヲ
同シウセス内地一般ニ於テハ地租條例其他各種ノ法令ノ定ムル所ニ依リ地租ヲ
徴收スト雖モ北海道、沖繩縣、伊豆七島、小笠原島ニ於テハ地租條例ハ施行ナク北海
道ニ於テハ特別ノ法令施行セラレ沖繩縣、伊豆七島及ヒ小笠原島ニ於テハ專ラ舊
慣ニ依リ地租ヲ徴收ス故ニ地租ニ關スル一斑ヲ知ラント欲セハ成文法ニ於テ

ハ凡ソ左ノ法令ヲ參看セサルヘカラス

- 一 明治十七年布告第七號 地租條例
- 二 明治三十二年勅令第十一號 地租條例施行規則
- 三 明治七年布告第二十號 地所名稱區分
- 四 明治三十二年法律第六十二號 宅地組換法
- 五 明治三十二年法律第五十七號 地價錢位未滿計算方
- 六 明治二十二年勅令第三十九號 土地臺帳規則
- 七 明治二十二年大藏省令第六號 土地臺帳規則施行細則
- 八 明治二十二年司法省令第三號 不動產登記法
- 九 明治三十二年法律第二十四號 不動產登記法
- 十 明治三十二年司法省令第十一號 不動產登記法施行細則
- 十一 明治三十三年法律第十九號
- 十二 明治三十一年法律第四號
- 十三 明治二十年勅令第十二號 私設鐵道條例

- 十四 明治三十三年法律第六十四號 私設鐵道法
- 十五 明治二十三年法律第九號 水道條例
- 十六 明治三十年法律第二十九號 砂防法
- 十七 明治三十二年勅令第三百七十四號 森林法
- 十八 明治三十年法律第四十六號 森林法
- 十九 明治三十一年大藏省令第十八號
- 二十 明治十九年勅令第十六號 學事通則
- 二十一 明治二十一年勅令第六十二號 東京市區改正條例
- 二十二 明治三十二年法律第一百五號 要塞地帶法
- 二十三 明治三十一年勅令第七十六號
- 二十四 明治三十年法律第三十九號
- 二十五 明治三十年大藏省令第十九號
- 二十六 明治三十二年法律第八十二號 耕地整理法
- 二十七 明治十年布告第十八號 收稅除稅區分

- 二十八 明治二十四年法律第二號 地租徵收期限
 - 二十九 明治三十年法律第五號
 - 三十 明治九年布告第六十一號 北海道地租定率
 - 三十一 明治十年開拓使乙第二十五號布達
 - 三十二 明治十年開拓使第十五號達 北海道地券發行條例
 - 三十三 明治二十二年法律第十八號
 - 三十四 明治二十三年法律第七十九號 屯田兵土地給與規則
 - 三十五 明治三十年法律第二十六號 北海道國有未開地處分法
 - 三十六 明治三十二年法律第二十七號 北海道舊土人保護法
 - 三十七 明治二十二年大藏省令第十二號 北海道地租納期
 - 三十八 明治二十四年北海道廳訓令第四十六號 民有土地整理方
 - 三十九 明治三十二年法律第五十九號 沖繩縣土地整理法
- 右ニ列擧スル法令ノ外該法令ノ規定ニ本テ發セラレタル命令又ハ震災、水害、蟲害等ニ因ル特別處分ニ關スル法令ノ發布セラレタルモノナキニアラスト雖モ

其法規ニル性質上自ラ永遠遵奉セラルヘキモノニアラサルカ故ニ茲ニハ其掲載ヲ省略ス
内地一般ニ行ハルル地租ニ付テ説述スルトキハ一地方ニ特殊ナル地租ニ付テハ特ニ之カ説明ヲ爲ササルモ法文ヲ一讀シタルノミヲ以テ其如何ナルモノナルヤヲ知ルコトヲ得ヘシト信スルカ故ニ茲ニハ唯内地一般ニ行ハルル地租ニ付テノミ解説ヲ試ムヘシ

第一款 課稅ノ目的

地租ハ土地ニ賦課スル租稅ナルヲ以テ地租賦課ノ目的物ハ土地其物ナリト謂ハサルヘカラス故ニ我法力ノ及フ範圍内ニ屬スル土地ハ苟モ法規ヲ以テ地租ヲ賦課セサルコトヲ定メタルモノニアラサル限りハ其何人ニ屬スルヲ問ハス總テ地租ヲ納ムルノ義務ヲ負擔スルモノトス人或ハ地租ヲ以テ土地ノ收益ニ賦課スルノ租稅ナリト謂フ者アリト雖モ現行地租ノ制度ニ於テハ之ヲ土地ノ收益ニ課スルモノト謂ハムヨリハ寧ロ土地其物ニ課スルモノト謂フヲ當レ

リト謂ハサルヘカラス凡ソ租稅ハ獨リ地租ニ限ラス其他ノモノト雖モ其額納稅者ノ所得ニ比シ一定ノ比例以下ニ在ルニアラサレハ生産力ヲ阻廢セシムルノミナラス收稅ノ目的モ亦之ヲ達スルコト能ハサルカ故ニ地租モ亦其課額ハ土地ノ收益ニ對シ常ニ一定ノ比例以下ニ於テ其一部ニ相當スルモノナラサルヘカラスハ勿論ナリ然レトモ是レ立法ノ趣旨ニ於テ此ノ如クナラサルヘカラスト謂フノミ成文法ノ適用ニ於テハ常ニ必スシモ此ノ如クナリト謂フニアラス地租改正前ニ於テハ地租ノ殆ト全部ヲ負擔シタル田畑ニ在テハ檢見法ニ依リ收穫ノ豐凶ヲ調査シ作物ノ豐凶如何ニ由リ定免ヲ斟酌シテ地租ヲ徵收シタルヲ以テ此時代ニ於テハ或ハ地租賦課ノ目的ハ土地其物ニ在ラスシテ土地ノ收益ニ在リタリト謂フコトヲ得サルニアラサリマナルヘシト雖モ地租改正ノ大主眼ハ實ニ此檢見法ヲ廢スルニ在リシヲ以テ地租ハ土地收益ノ一部ヲ徵收スルヲ目的トシ後ニ説明スヘキカ如ク一種ノ算法ニ依リ標準ヲ定メ年々一定ノ租額ヲ賦課シ年ノ豐凶ニ因リテ之ヲ増減セサルコトト爲シ以テ檢見制度ヲ廢止シタルカ故ニ改正成就ノ後ニ於テハ全般ニ於テ地租ハ土地收益ノ一

部ヲ徵收スルモノナリトノ理論ヲ實行スルモノナリト雖モ各箇ノ土地ニ就テ之ヲ見ルトキハ此理論ハ時ニ或ハ行ハレサルコトアルヲ免レス蓋シ收益主義ハ檢見制度ヲ離レテ之ヲ行フコト能ハス定額主義ハ檢見制度ト相容レサルモノナルヲ以テ既ニ檢見法ヲ廢シテ定額論ヲ實行シ地租ハ年ノ豐凶ニ因リ増減セサルノ(地租條例第二條大原則ヲ立テタル以上ハ地租ハ場合ニ因リテ其土地ノ收益ノ一小部分ニ過キサルコトアリ又時トシテハ其土地ノ收益以上ニ上ルコトナキニアラス果シテ然ラハ之ヲ以テ土地ノ收益ニ課スルモノナリト謂フハ事實ニ適セサルヲ論ト謂ハサルヘカラス故ニ予ハ地租賦課ノ目的物ハ土地其物ニ在リト斷言スルモノナリト

地租ハ土地ニ賦課スル租稅ナリト雖モ土地ハ悉ク地租ヲ負擔スルモノニアラス地租賦課ノ目的ハ獨リ地租ヲ負擔スル土地ニ在リト雖モ地租ヲ負擔スル土地ヲ明ニセント欲セハ併セテ之ヲ負擔セサル土地ヲ明ニセサルヘカラサルカ故ニ本款ニ於テハ先ツ第一ニ地租ヲ課スル土地ト之ヲ課セサル土地トヲ分類シ然ル後土地ノ區域ヲ明ニシ彼此ノ別ヲ定メムトス其由ハ予ハ其後論ニ

土地ノ第一ニ土地ノ分類ニ對シテハ其後論ニ其由ハ予ハ其後論ニ

土地ハ地租ノ有無ニ依リ大別シテ有租地無租地ノ二ト爲スコトヲ得

地租條例第三條ハ便宜有租地ヲ區別シテ第一類及ヒ第二類ノ二地類ト爲シ土地ノ形狀又ハ其使用ノ目的ニ依リ更ニ其各類ヲ細別シテ左ノ地目ト爲シタリ

第一類 田畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地

左ニ各地目ノ何物ナルヤニ付キ簡短ニ説明セムトス

(イ) 田 田トハ養水ノ利ニ依リ耕作ヲ爲ス設備ヲ爲シタル土地ヲ云フ即チ田ノ特徴ハ其設備養水ノ利ニ依リ耕作ヲ爲スニ適スルニ在リ故ニ土地ノ設備ニシテ此ノ如キ状態ヲ呈スルトキハ時ニ養水ヲ用ヒスシテ耕作ヲ爲スコトアルモ尙ホ之ヲ田ト謂ハサルヘカラス而シテ其培植スル作物ノ稻ナルト將タ蘭、苳、始等ノ如キモノナルト若クハ其作付セララル部分ノ年年一定スルト否トノ如キハ其田タルニ於テ何等ノ妨ヲ爲スモノニアラス

(ロ) 畑 畑トハ養水ノ利ニ依ラヌシテ耕作スル土地ヲ云フ換言スレハ畑トハ田ニアラサル耕地ナリ如何ナル状態アレハ之ヲ耕作ヲ爲スモノト謂フコトヲ得ヘキヤハ事實ノ問題ニシテ場合ニ依リテハ認定ニ困難ナルコトナキニアラサルヘシ一時ハ専ラ土地ニ栽植セラルル植物ヲ見穀類菜蔬及ヒ所謂三草(麻、藍、紅花)四木(桑、茶、楮、漆)ノ類ヲ栽植スル土地ヲ以テ畑ト爲スヘキモノナリト爲シタルカ如シト雖モ植物ノ種類又ハ其生育ノ狀況ハ以テ畑ト畑以外ノ土地トヲ分ツノ準的ト爲スコト能ハス區別ノ標準トシテハ耕作ヲ爲ス地ナルヤ否ヤヲ以テ之ヲ定ムヘキモノト爲シ事實ニ於テハ實地ノ狀況ヲ斟酌シテ認定ヲ爲スヘキモノトス而シテ既ニ耕作ヲ爲ス土地ナル以上ハ切替畑、燒畑ノ如ク間斷ヲ置テ作付ヲ爲スモノト雖モ之ヲ畑ト爲ササルヘカラス

(ハ) 郡村宅地 郡村宅地トハ村落又ハ小市街ニ於ケル建物敷地ニ供用スル土地ナリ宅地トハ人ノ居住ニ供スル家屋ノ敷地ナルカ如シト雖モ地租條例ノ所謂宅地トハ廣濶ナル意義ニ於テ之ヲ用フルモノニシテ苟モ建築物ノ敷地ナル以上ハ其建築物ハ住居用ニ供用セラルルモノナルト將タ他ノ目的ニ供用セラ

ルルモノナルトヲ問ハス總テ之ヲ宅地ト稱スルナリ而シテ供用ノ目的ニシテ建物ノ敷地ト爲スニ在ルトキハ現ニ建物ノ存セサル場合ニ於テモ尙ホ郡村宅地タルヲ妨ケサルモノナリト谷賦目ニ於テハ宅地ト稱スルモノト爲ス

(ニ) 市街宅地 市街宅地トハ市街ニ於ケル建物敷地ニ供用スル土地ナリ法律ハ市街ト見ルヘキモノノ具備スヘキ條件ヲ規定セスト雖モ現今建物敷地ニ供用スル土地ニ付スルニ市街宅地ノ地目ヲ以テスル地方ハ市街ナルカ故ニ其宅地ヲ市街宅地ト稱スルモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テ該地方ハ即チ法律ヲ見テ以テ市街ト爲ス所ノモノト謂フコトヲ得ヘシ

(ホ) 鹽田 鹽田トハ海水ヨリ鹽分ヲ採取スルカ爲メ其目的ニ供用スル土地ヲ云フ故ニ海水ヲ撒布スル場所ハ勿論鹽溜、鹽竈等ノ在ル場所モ亦之ヲ包含スルモノトス

(ヘ) 鑛泉地 鑛泉地トハ其名稱ノ示ス如ク温冷ノ鑛泉湧出スル地ヲ云フ

(ト) 池沼 池沼トハ自然ニ存スルモノト人工ニ成ルモノトヲ問ハス水ノ溜溜スル地ヲ云フ但田地ノ灌溉ニ供スルノ目的ヲ以テ水ヲ溜溜スル場所即チ溜池

地ヲ指スコト其明文ニ於テ疑ヲ容レサル所ナルカ故ニ同法ノ所謂官有地トハ人民又ハ町村ノ所有ニ係ラサル土地ナリト謂ハサルヘカラス然ルニ當時法律上公共團體ナルモノノ認メラレタルコトナカリシヲ以テ土地ニシテ人民又ハ町村ニ屬セサルモノハ皇室ニ屬スルニ非サレハ必ス國ニ屬シタルモノナリ故ニ地所名稱區別ニ於テ官有地ト稱スルハ左ノ各種ノ土地ヲ包含スルモノトス

(イ) 御料地 皇居、離宮ノ敷地ハ勿論苟モ皇室ノ御料ニ屬スル土地ハ總テ地租ヲ課セサルモノトス

(ロ) 國有地 國ニ屬スル土地ハ其神地タルト其他ノ目的ニ供用セララル土地タルトヲ問ハス總テ地租ヲ課セス蓋シ國カ國ニ對シテ租稅ヲ納ムルモ國庫ノ收入ハ爲メニ何等ノ増加ヲ來サス却テ徒ニ勞費ヲ要スルニ過キサルヲ以テ初ヨリ之ヲ課セサルヲ得策トスルヲ以テナリ

外國人カ元居留地ニ於テ有スル永代借地權ナルモノノ目的タル土地ハ人民ニ屬スルモノナキニアラスト雖モ其多クハ國ニ屬スルモノナリ其國ニ屬スルモノハ永代借地權ノ目的タルカ爲メニ國有地タルコトヲ失フモノニ非サルカ故

ニ之ニ對シテハ地租ヲ課スヘキモノニ非ス

(ハ) 皇族賜邸 皇族賜邸ハ御料地ニ非ス又國有地ニ非スト雖モ地所名稱區別ハ明文ヲ以テ之ヲ官有地ナル名稱ノ下ニ掲ケタルヲ以テ之ニ對シテハ地租ヲ課スルコトヲ得ス

右ニ列舉シタル三種ノ外府縣ノ所有地モ亦之ヲ官有地トシ之ニ地租ヲ課スヘカラサルモノナルヤ府縣ノ所有地ハ地所名稱區別ノ所謂人民又ハ町村ノ所有ニ係ル土地ニ非サルカ故ニ之ヲ官有地ト謂ハサルヘカラス隨テ特ニ地租ヲ課スルコトヲ定ムルニ非サレハ之ヲ課スルコトヲ得スト論スル者アリト雖モ予ハ此ノ如ク解スルコト能ハサルモノナリト信ス明治六七年ノ頃ニ於テハ府縣ハ尙ホ純然タル行政區劃ニ過キスシテ未タ權利ノ主體タルコト能ハス故ニ府縣ノ所有地ナルモノノ存スルコトハ地所名稱區別ノ豫期セサル所ナリ爾後府縣會規則ノ制定、府縣制ノ實施等ニ因リ府縣ハ土地ノ所有者タルコトヲ得ルニ至リタリト雖モ此ノ如キ土地ハ性質上官有地ニアラサルカ故ニ地所名稱區別ヲ改正スルコトナクシテハ當然其所謂官有地ナルモノノ中ニ包含セララルニ

至ルヘキモノニ非ス既ニ地所名稱區別ニ所謂官有地ニ非ストセハ特ニ地租ヲ課セス又ハ之ヲ免スルコトヲ定メタル土地ノ外ハ地租改正條例又ハ地租條例ニ依リ地租ヲ課セサルヘカラスルカ故ニ嚴正ニ論スルトキハ府縣カ土地ヲ所有スルコトヲ得ルニ至リタルト同時ニ其所有シタル土地ハ不課稅又ハ免稅ノ特典アルモノヲ除クノ外悉ク地租ヲ課セサルヘカラス然レトモ當時ノ取扱ニ於テハ之ヲ以テ地所名稱區別ノ所謂官有地ト爲スコトニ一定セラレタルカ如クナルヲ以テ予ハ今強テ其是非ヲ論セサルヘシ唯明治三十三年法律第十九號ノ發布セラレタル後ハ同法ノ效力ニ依リ府縣所有地中公用ニ供セサルモノハ之ヲ地租賦課ノ範圍外ニ置クコト能ハス若シ論者ノ說ノ如ク府縣所有地ヲ以テ官有地ナルカ故ニ地租ヲ課スヘカラスルモノトセハ明治三十三年法律第十九號カ府縣所有地ノ或モノニ對シ地租ヲ免スヘキコトヲ規定シタルハ無意義ノ事ト謂ハサルヘカラス然レトモ法律ヲ無意義ニ解釋スルハ法律解釋ノ宜キヲ得タルモノニ非サルカ故ニ予ハ同法ハ相當ノ意義有リテ制定セラレタルモノナリト信ス而シテ其意義トハ府縣所有地ハ該法律施行ト共ニ之ヲ其本然ノ

性質タル府縣有地即チ民有地トシテ取扱フヘキコトヲ前提トシ唯其公用ニ供スルモノノミ地租ヲ免スヘキコトヲ定ムルノ趣旨ニ由リテ制定セラレタルモノナリ故ニ論者ニ一步ヲ讓リ地所名稱區別ハ府縣有地ヲ以テ官有地ト爲スモノナリトスルモ明治三十三年法律第十九號ハ地所名稱區別中ノ此部分ヲ改正シタルモノト謂ハサルヘカラス隨テ少クトモ明治三十三年以後ニ於テハ府縣有地ハ斷シテ地租ヲ課セサルノ土地ニ非サルナリ

乙 地租ヲ免スル土地

地租ヲ免スル土地ハ更ニ之ヲ分チ無期免租地、有期免租地ト爲スコトヲ得

子 無期免租地 無期免租地トハ一定ノ供用又ハ形狀ノ存スル以上ハ其間無期限ニ地租ヲ免スル土地ヲ云フ

地租條例其他各種ノ法規ニ於テ無期免租地ト爲スモノ左ノ如シ

(イ) 公共團體ノ所有地ニシテ公用ニ供スルモノ(地租條例第四條、明治三十三年法律第十九號、諸學校通則第五條、水道條例第五條、明治三十一年法律第四號) 從來各種ノ法令ニ於テ公共團體所有地中特定ノ公用ニ供スルモノノ地租ヲ免ス

ハキコトヲ定メタリ學校敷地、水道用地、傳染病院、隔離病舎、隔離所及ヒ消毒所ノ敷地ノ如キ是ナリ然レトモ公用ニ供スル土地ハ以上ニ舉ケタル供用以外ノモノト雖モ總テ公益ヲ圖ル目的ニ使用セララルモノナルカ故ニ學校敷地等ニシテ其地租ヲ免スル必要アリトセハ其他ノ公用ニ供セララルモノト雖モ之ヲ免スルコト相當ナリ特ニ公用ニ供スル土地ハ所得ヲ生セサルヲ常トスルカ故ニ若シ之ニ地租ヲ課スルトキハ公共團體ハ之カ財源トシテ更ニ公共團體ノ租稅ヲ增加セサルヲ得ス此ノ如キハ國庫ハ地租ノ名義ヲ以テ間接ニ或ハ公共團體ノ人民ニ課稅スルモノナリ然ルニ公用ニ供セララル土地ハ必スシモ其公共團體ノ人民ノミ之ヲ利用スルニ非サルカ故ニ其人民ノミヲシテ之カ負擔ニ任セシムルコトハ公平ヲ得タルモノニ非ス故ニ明治三十三年法律第十九號ヲ以テ廣ク公共團體ノ所有地ニシテ公用ニ供スルモノハ總テ之ヲ免租スルコトト爲シタリ

右法律第十九號ニ依リ地租ヲ免セラルル土地ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 公共團體ノ所有地タルコトヲ要ス 故ニ他ヨリ借入レタル土地ハ其土地

カ他ノ公共團體ノ所有ニ係ルトキト雖モ尙ホ免租ノ限ニ在ラス

b 府縣郡、市、町村其他之ニ準スヘキ公共團體ノ所有地タルコトヲ要ス 公共團體ナル文字ハ法律上ノ新用語ニシテ公法人ハ總テ之ヲ指スモノナルヤ又ハ公法人中自主權ヲ有スルモノノミヲ指スモノナルヤハ尙ホ未タ明瞭ナラス然レトモ明治三十三年法律第十九號ハ免租ノ特典ヲ府縣郡、市、町村及ヒ之ニ準スヘキ公共團體ニ限リタルヲ以テ府縣等ノ如キ自主權ヲ有スルモノニ非サレハ免租ノ特典ヲ有セス水利組合ノ如キハ之ヲ町村等ニ準スルコトヲ得ヘキヲ以テ其所有地ハ地租ヲ免スヘキモノナリト雖モ商業會議所、重要物產組合ノ如キハ町村等ニ準スルモノト謂フコト能ハサルヲ以テ其所有地ハ免租スヘキモノニ非ス

c 公用ニ供スルコトヲ要ス 廳舎、學校、病院、圖書館、博物館等ノ敷地、共同物場、共同物置場、公園、下水用地等凡ソ公衆ノ用ニ供スル土地ハ之ヲ免租スヘキモノナリト雖モ公共團體カ收利ノ目的ヲ以テ所有シ之ヲ公衆ノ用ニ供セサルモノハ其地租ヲ免スヘキモノニ非ス

人或ハ他ノ公共團體ノ所有地ヲ借入レ之ヲ公用ニ供スルトキハ右ニ舉ケタル

三要件ヲ具備スルヲ以テ其地租ヲ免スヘキモノナリト曰フ者アリト雖モ法律ハ公共團體ノ所有地ニシテ其公用ニ供スルモノト規定シ所有者タル公共團體カ其公用ニ供スルコトヲ必要トスルヲ以テ借入レテ公用ニ供スル土地ハ縱令其所有者カ公共團體ナルモ免租スヘキモノニ非ス況ヤ主觀的ニ觀察スルトキハ所有者タル公共團體カ此ノ如キ場合ニ於テ其所有地ヲ公用ニ供スト謂フコト能ハサルニ於テヤ

(ロ) 鄉村社地(地租條例第四條) 神社地ニシテ官有ニ係ルモノハ地所名稱區別ニ依リ地租ヲ課セサルモノナリ其民有ニ係ルモノト雖モ郷社、村社ノ資格アル神社ノ敷地ニ限リ其地租ヲ免スルモノトス但鄉村社ノ敷地ト雖モ借入レタルモノハ免租ノ限ニ在ラス(地租條例施行規則第三條)神社ノ人格成文法上ニ確認セラレサル今日ニ於テ神社所有地ナルモノノ何物タルヤハ之ヲ説明スルコト容易ナラスト雖モ官有地ニ非ス又他ニ所有權ヲ主張スル者ナキ郷村社ノ敷地ハ即チ之ヲ借入地ニ非サル鄉村社地ナリト謂フテ不可ナカルヘシ

(ハ) 墳墓地(地租條例第四條) 墳墓トハ人ノ死體又ハ遺骨ヲ埋葬スル場所ナリ

故ニ斃牛馬ヲ埋却スル場所ハ免租スヘキモノニ非ス又火葬場ハ死體ヲ燒却スルノミニシテ之ヲ埋葬スルニ非サルカ故ニ之ヲ墳墓ト謂フコト能ハス隨テ地租ハ之ヲ免スルコトヲ得ス

(ニ) 用惡水路(地租條例第四條) 用水路トハ田地ノ灌溉ニ供スル養水ヲ引ク水路ニシテ惡水路トハ田畑ノ害ヲ成スヘキ冷水等ヲ排去スヘキ水路ナリ即チ用水路、惡水路共ニ耕地ニ關シ其用ヲ成スヘキ水ヲ引キ其害ヲ成スヘキ水ヲ去ルノ線路ナルカ故ニ耕地ニ關係ナクシテ水ヲ引用シ又ハ排去スルモノハ之ヲ用惡水路ト謂フコト能ハス故ニ水車ニ水ヲ引ク線路又ハ舟楫ヲ通スル堀割等ニシテ民有ニ屬スルモノハ其地租ヲ免スヘキモノニ非ス

(ホ) 溜池(地租條例第四條) 溜池トハ田地ノ灌溉用水ヲ蓄溜スルノ目的ヲ有スル池ナリ

(ヘ) 隄塘(地租條例第四條) 隄塘ハ其文字ノ示ス如ク水ノ橫流ヲ防クカ爲メニ築造セラレシルモノナリ

(ト) 井溝(地租條例第四條) 井溝トハ井及ヒ溝トノ謂ニ非ス田地ノ養水ヲ引用

スル一種ノ溝ヲ指稱スルモノナリ用水路トノ間ニ於テハ法律上殆ト區分アルモノニ非スト雖モ強テ其區別ヲ求ムルトキハ其大小又ハ流水ノ多少ヲ擧クルノ外ナキカ如シ

(チ) 鐵道用地地租條例第四條) 官設鐵道ニ於テハ鐵道用地ハ官有地ナルヲ以テ地租ヲ課セサルモノナレトモ私設鐵道ト雖モ鐵道ハ一種ノ道路ニシテ公衆ハ之ニ依リテ交通ノ便ヲ享クルモノナルカ故ニ法律ハ其用地ノ地租ヲ免スルヲ相當トシタリ而シテ鐵道用地ノ何物タルヤハ私設鐵道條例第八條及ヒ改正私設鐵道法第四十一條ニ於テ之ヲ規定シ鐵道交通ニ必要ナル土地ノミニ限定スルヲ以テ現今各地ニ於テ目撃スル停車場附近ニ設ケラレタル休憩所又ハ飲食店ノ如キモノノ敷地ハ縱令鐵道營業者ノ所有ニ係ルモノト雖モ其地租ハ之ヲ免スルコトヲ得ス

(リ) 公衆ノ用ニ供スル道路(地租條例第四條) 道路ニシテ官有地ナルトキハ地所名稱區別ニ依リテ地租ヲ課セス府縣郡市町村及ヒ之ニ準スヘキ公共團體ノ所有地ナルトキハ其公衆ノ用ニ供スルモノハ明治三十三年法律第十九號ニ依リ其地租ヲ免セララルルモノナリ而シテ官有地又ハ公共團體ノ所有地ニ非サルモ公衆ノ用

ニ供セララルル道路ハ地租條例ニ依リテ其地租ヲ免ス蓋シ公衆ノ用ニ供スル土地ハ何人ノ有ニ係ルヲ問ハス之カ地租ヲ徵收セサルコトト爲スヲ以テ相當トスト雖モ供用ノ目的ニ依リテハ公用ニ供スト稱シテ往往私用ニ資スルコトヲ得ヘキモノナルカ故ニ廣ク公用ニ供スル土地ヲ免租スルトキハ法律ノ規定ヲ利用シテ其私ヲ濟スコトアルヲ免レス然ルニ道路ノ如キモノハ他ノ土地ト異ニシテ其供用狀態ハ劃然判明セララルルカ故ニ濫ニ至ルノ恐ナキモノナリ故ニ法律ハ道路ハ其何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ免租スルコトト爲シタリ但免租ノ特典ヲ有スル道路ハ公衆ノ用ニ供セララルルモノナルコトヲ要スルカ故ニ私邸内ニ於ケル道路ノ如キハ地租ヲ免セララルヘキモノニ非サルコトハ論ヲ俟タス

(ヌ) 保安林森林法第二八條) 保安林ニ編入スルコトヲ得ル土地ハ森林法第八條ヲ以テ之ヲ定ム而シテ保安林ニ編入セラレタルモノハ同法第十九條乃至第二十五條ノ制限ヲ受ケ所有者ハ自由ノ收益ヲ爲スコト能ハサルモノナルカ故ニ其地租ハ之ヲ免スルコトト爲シタリ地租條例第四條ハ禁伐林ノ免租ヲ規定スト雖モ森林法ハ禁伐林ナル名稱ヲ使用セサリシヲ以テ今後禁伐林ナルモノ

ヲ生スルコトナク又從來ノ禁伐林ハ森林法第三十條ニ依リ同法施行ノ日ヨリ保安林ト爲リタルモノナルヲ以テ民有地ニシテ地租ヲ免スル森林ハ今日ニ於テハ獨リ保安林アルノミ

(ル) 砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限セラレタル土地(砂防法第一條、明治三十二年勅令第三百七十四號第一條) 砂防法第十一條ニ依レハ同法第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租ヲ免スルコトヲ得ト爲スカ故ニ免租ノ條件及ヒ免租スヘキ土地ハ一ニ勅令ノ定ムル所ニ從フヘキモノトス而シテ明治三十二年勅令第三百七十四號第一條ハ砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテ地租ヲ免除スルコトヲ得ルコトヲ定ム砂防法第二條ハ砂防設備ヲ要スル土地ト治水上砂防ノ爲メ一定ノ行爲ヲ禁止若クハ制限スヘキ土地トノ二種ヲ包含シ其第十一條ハ此二種共ニ地租ヲ免スルコトヲ得ヘキコトヲ定ムト雖モ明治三十二年勅令第三百七十四號砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ノミヲ免租スヘキコトヲ定メタルヲ以テ右ノ中後者ハ無論其地租ヲ免スルコトヲ得ルモ前者ニ付

テハ砂防法第四條ニ依リ地方行政廳カ特ニ治水上砂防ノ爲メ一定ノ行爲ヲ禁止若クハ制限スルニアラサレハ其地租ヲ免セサルカ如シ然レトモ此ノ如キハ明文ニ拘泥シテ法規ノ精神ヲ沒了スルモノト謂ハサルヘカラサルカ故ニ勅令ノ所謂一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタルナル用語中ニハ砂防設備ヲ施シタル場合ニ於テ其土地ヨリ其設備ヲ排除スル能ハサルコトモ亦包含スルモノナリト解スルヲ以テ穩當ト爲スヘシ如何ナル禁止又ハ制限ハ地租免除ノ事由ト爲ルヤハ法律及ヒ勅令ノ共ニ限定セサル所ナルヲ以テ一ニ行政官ノ見ル所ニ依リテ定マルモノトス

丑 有期免租地 有期免租地トハ一定ノ期間ヲ定メ其間地租ヲ免スル土地ヲ云フ無期免租地ハ土地ノ一定ノ供用又ハ制限ノ繼續スル間其地租ヲ免スルモノナリト雖モ有期免租地ハ土地ノ狀態ニ關セス期間滿了スルトキハ其地租ヲ徵收スヘキモノナリ故ニ有期免租地ハ又之ヲ免租年期地ト稱ス其土地ハ

有期免租地左ノ如シ

(不) 新開地 新開地トハ海、湖、川等ノ如キ官有ノ水面ヲ埋立テ新ニ開キタル土

地ヲ云フ海、湖、川等ノ如キモノハ國ニ屬スルモノナルヲ以テ私人ハ隨意ニ之ヲ埋立ツルコトヲ得ス故ニ之カ埋立ヲ爲サントセハ當該官廳ノ許可ヲ得サルヘカラス而シテ埋立ノ許可ヲ出願スル者ハ之ト同時ニ成功ノ上ハ其土地ノ下付ヲ得シコトヲ出願スルヲ常トス當該官廳ニシテ若シ埋立及ヒ土地下付ノ許可ヲ與ヘタルトキハ新開地ノ所有權ハ埋立成功ト共ニ許可ヲ受ケタル者ニ歸屬シ其土地ハ民有地ト爲ルモノトス隨テ特ニ其地租ヲ免スルコトヲ規定シタル法文アルニアラサレハ之ニ對シテ地租ヲ賦課セサルヘカラス然ルニ新ニ埋立テタル土地ハ多クハ其地盤他ノ土地ニ比シ尙ホ鞏固ヲ缺クモノト謂ハサルヘカラス且ツ地形上水災ヲ被ルノ傾向多キモノナルカ故ニ或ハ再ヒ海、湖、川等ニ歸スルノ虞ナキニアラス故ニ相當ノ年所ヲ經ルマテハ其地租ノ賦課ヲ見合セ埋立カ永久ニ亘ルヲ得ルコト確定スルニ至リテ之カ地租ヲ徵收スルコト至當ノ事トス是レ地租條例第十六條第五項カ新開地ニハ免租年期ヲ許可スヘキモノト爲シタル所以ナリ

(a) 新開免租年期ノ許可(地租條例第一六條第五項) 新開地ノ免租年期ハ埋立

工事ノ難易ヲ斟酌シ目的地トシテノ利用ヲ全ウスルニ至ル期間ヲ計リ五十年以内ニ於テ之ヲ定ムヘキモノトス地租條例第十六條第五項ハ「新開免租年期ヲ許可スト云ヘルヲ以テ免租年期ハ出願ニ因リテ之ヲ許可スヘキモノトス故ニ新開地ト雖モ免租年期ヲ出願セサルモノニ對シテハ之ヲ付與スヘキ限ニ在ラズ(地租條例施行規則第一一條)而シテ水面埋立及ヒ土地下付ノ出願ハ地方廳ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノナリト雖モ免租年期ノ出願ハ之ヲ稅務管理局長ニ對シテ爲ササルヘカラス(地租條例施行規則第一四條)

(b) 新開免租年期ノ延長(地租條例第一八條) 地租條例第十八條ニ依レハ新開地ニシテ免租年期明ニ至リ事業成功ニ至ラサルモノハ更ニ二十年以内ノ繼年期ヲ許可スルコトヲ得ルモノトス新開地ナルモノハ埋立事業成功ノ時民有ト爲ルモノニシテ免租年期ナルモノハ民有地ニ付テノミ之ヲ謂フコトヲ得ルモノナルカ故ニ新開免租年期明ニ至リ埋立事業ノ成功ニ至ラサルモノアルコトハ之ヲ想像スルコト能ハス故ニ該條ノ所謂事業成功ニ至ラサルモノトハ新開地ニ付テハ目的地トシテノ利用ヲ全ウスルヲ得ルニ至ラサルモノト解セサル

ヘカラス新開免租年期明ニ至リ仍ホ目的地トシテ利用ヲ全ウスル能ハサルト
 キハ當初付與シタル年期ハ事實ニ適セサリシモノト謂ハサルヘカラス故ニ法
 律ハ繼年期ナル方法ニ依リ之カ補充ヲ爲スコトヲ得セシメタリ而シテ年期ノ
 延長ニ付キ法律ノ定ムル方法ハ單ニ繼年期ノ一方法アルノミナルヲ以テ此方
 法ニ依ルノ外年期ノ延長ヲ爲スコトヲ許サス隨テ當初付與シタル年期ハ事實
 ニ適セサリシトノ理由ヲ以テ事後ニ於テ年期ヲ更訂スル如キハ法律ノ認メサ
 ル所ナリ

一タヒ繼年期ヲ付與シタルモノハ更ニ繼年期ヲ許可スルコトヲ得サルヤ地租條
 例第十八條ハ第十六條第三項、第四項、第五項ノ年期明ニ至リト明言スルヲ以テ第
 十八條ニ依リ付與シタル繼年期ノ年期明ニ至ラハ更ニ繼年期ヲ許可スルコト
 ヲ得サルカ如シ然レトモ是レ專ラ文字ニ拘泥シテ法律ノ精神ヲ見サルノ解釋
 ナリト謂ハサルヘカラス第十八條カ第十六條第三項、第四項、第五項ノ年期明ニ
 至リト明言シタルハ第十六條第六項ノ年期ヲ除外スルノ趣旨ニ出テタルモノ
 ニシテ換言スレハ歟下年期及ヒ新開免租年期ニ限り其年期明ニ至リテ場合ニ

依リ更ニ繼年期ヲ許可スルコトヲ得ト謂フニ外ナラス特ニ第十八條ハ「繼年期
 ヲ許可ス」ト云フカ故ニ同條ニ依リ付與シタル年期ハ第十六條ノ年期ヲ繼續ス
 ルモノニシテ之ヲ第十六條ノ年期ト謂フモ不可ナルコトナシ故ニ其年期明ニ
 至リ仍ホ目的地トシテノ利用ヲ全ウスルヲ得サルトキハ更ニ繼年期ヲ與ヘ以
 テ法律カ新開免租年期ナルモノヲ定メタル所以ノ趣旨ヲ達スルコト法律ノ眞
 意ナリト謂ハサルヘカラス但シ繼年期ハ二十年以内ナルヘキコト法律ノ明定
 スル所ナルヲ以テ前後通シテ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス故ニ既ニ付與シタル
 繼年期ニシテ二十年ナルトキハ當初付與シタル免租年期カ五十年ニ滿タサリ
 シノ故ヲ以テ之ト通シテ七十年ニ達スルノ程度ヲ以テ更ニ繼年期ヲ與フルコ
 トハ法律ノ認メサル所ナリ

- (c) 新開免租年期ノ消滅 新開免租年期ハ左ノ場合ニ於テ消滅スルモノナリ
- 1 年期ノ滿了 新開地ハ年期ヲ定メテ地租ヲ免スルモノナルカ故ニ年期滿了スレハ地租ヲ課スヘキハ論ヲ埃タス
 - 2 荒地免租年期ノ許可 新開地ニ付テハ實際ニ於テハ荒地免租年期ヲ受ク

ル者ハ殆ト之ナカルヘシト雖モ法律上ニ於テハ之ヲ受クルコトヲ得ヘキハ後
 ニ論スル所アルヘシ而シテ若シ荒地免租年期ヲ受ケタルトキハ新開免租年期
 ニ消滅スルモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ土地所有者ハ現ニ新開免租年
 期ノ利益ヲ享有スルニ拘ラス荒地免租年期ノ許可ヲ出願スルハ新開免租年
 ノ利益ヲ棄テテ荒地免租年期ノ利益ヲ得ントスルノ意思ヲ表示シタルモノナ
 ルカ故ニ政府カ其願意ヲ容レテ荒地免租年期ヲ許可シタルトキハ其結果トシ
 テ新開免租年期ハ自ラ消滅セサルヲ得サルヲ以テナリ此事タルヤ法令中ニハ
 何等規定シタル所ナシト雖モ免租年期ヲ以テ出願ニ因リテ許可ヲ爲スヘキモ
 ノト爲シタルヨリ生スル當然ノ結果ナリト信ス

海嘯被害地ハ法律カ荒地ニ準シテ免租年期ヲ許可スルモノナルヲ以テ荒地免
 租年期ノ許可ニ關シ上來説述シタル所ハ全然海嘯被害地免租年期ノ許可アリ
 タル場合ニ適用セラルルモノトス

(ロ) 荒地 地租條例第三條第四項ハ荒地ノ定義ヲ與ヘテ曰ク第一類地又ハ第
 二類地ノ山崩、川闕、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シ

タルモノヲ荒地ト謂フト故ニ地租條例ノ所謂荒地ナルモノハ左ノ要件ヲ具備
 セサルヘカラス

1 地形ノ變シタルコトヲ要ス 地形ニ變更ヲ生スルニアラサレハ荒地ト爲
 ラス故ニ單ニ地上ノ建物ヲ崩壞シ又ハ作物ヲ損傷シタル如キハ之ヲ以テ荒地
 ト爲スコト能ハス

2 地形ノ變更ハ天災ニ原因スルコトヲ要ス 天災ニ原因セサル地形ノ變更
 ハ荒地ヲ形成セス故ニ人爲ニ原因シテ土地ノ崩落シタル場合ノ如キハ土地カ
 荒地ト爲リタリト謂フコトヲ得ス

3 地形ノ變更ハ山崩、川闕、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成又ハ之ト類似シタル狀
 態ナルコトヲ要ス 法律ハ特ニ山崩、川闕、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ
 ト言フヲ以テ荒地タルニ要スル地形ノ變更ハ山崩、川闕、押堀、石砂入、川成、海成、湖
 水成ナルカ又ハ之ト類似スルモノナラサルヘカラス但シ類似スルモノトハ必
 スシモ外形ノ類似スルモノノミニ限ルニアラス外形ハ同一ナルサルモ變更前
 ニ於ケル土地ノ供用ヲ爲スニ適セサルニ至リタルコト山崩、川闕等ト異ナル所

ナキモノハ之ヲ以テ類似シタル變形ト謂フコトヲ得ヘシ故ニ震災ニ因リ土地
 (三) 凸起又ハ凹窪ヲ生シタル如キハ外形ハ山崩川闕等トハ同一ナラサルモ變更
 前ニ於ケル供用ヲ爲スニ適セサルニ至リタルコトハ之ト異ルコトナキヲ以テ
 之ヲ荒地ト謂フニ於テ何等ノ支障アラサルヘシ
 4 第一類地又ハ第二類地ノ地形ニ變更ヲ生シタルコトヲ要ス 第一類地第
 二類地トハ有租地ノ區別ナルヲ以テ第一類地又ハ第二類地ノ地形ヲ變シタル
 (モノト云ヘハ) 則チ有租地ノ地形ヲ變シタルモノト云フニ同シ故ニ荒地ハ有租
 地ニ付テノミ存スルモノニシテ有租地ニアラサル土地ハ天災ニ因リ其地形ヲ
 變スルコトアルモ地租條例ハ見テ以テ荒地ト爲ササルナリ果シテ然ラハ荒地
 (ノ) 何物ナルカラ知ラムト欲セハ先ツ以テ有租地ノ何物タルヤヲ定メサルヘカ
 ラス地租ヲ課セサル土地及ヒ地租條例第四條ニ記載スル免租地ノ地租條例ニ
 所謂有租地ニアラサルコトハ論ヲ須タス地租條例第四條記載以外ノ免租地ト
 雖モ無期ニ地租ヲ免スル土地ノ有租地ニアラサルコトモ亦何等ノ疑ヲ容レス
 何トナレハ地租ヲ課スルノ豫期ナキ土地ヲ以テ有租地ナリト言フハ事實ノ抵

觸ナルヲ以テナリ唯年期ヲ定メテ地租ヲ免スル土地ニ至リテハ之ヲ以テ地租條
 例第三條ノ所謂有租地ト爲スヘキヤ否ヤハ頗ル疑問ナリ地租條例カ稱シテ以
 テ免租地ト爲ササルモノハ皆其稱シテ有租地ト爲ス所ノモノナリトセル有期
 免租地ハ之ヲ有租地ナリト謂ハサルヘカラス之ニ反シテ地租條例第三條ノ所
 謂有租地トハ事實地租ヲ課スル土地ヲ指スモノナリトセハ有期免租地ハ現ニ
 地租ヲ課セサルモノナルカ故ニ之ヲ以テ有租地ナリト謂フコト能ハス予ヲ以
 テ之ヲ見ルニ地租條例ハ無期免租地ニ限リテ之ヲ免租地ト稱シ而シテ免租地ニ
 對シテ有租地ナル稱呼ヲ用フルヲ以テ地租條例ノ所謂有租地トハ其稱シテ免
 租地ト爲スモノ及ヒ別法ヲ以テ地租ヲ課セス又ハ期間ヲ定メシテ之ヲ免ス
 ト爲シタル地以外ノモノヲ總稱スルモノト謂ハサルヘカラス換言スレハ地租
 條例ニ於テ免租地ト稱セサルモノ及ヒ特別法ニ於テ地租ヲ課セス又ハ無期ニ
 之ヲ免スト爲シタル土地ニアラサルモノハ地租條例ハ之ヲ以テ有租地ト爲ス
 モノト謂ハサルヘカラス隨テ有期免租地ハ總テ地租條例ノ所謂有租地ナリ此
 見解ハ獨リ其根據ヲ法文ノ用語ニノミ置クニアラヌ理論モ亦此見解ヲ助クル

モノナリ何トナレハ有期免租地ナルモノハ元來地租ヲ負擔スヘキ土地ニ對シ
一定ノ期間ヲ限リ特ニ其地租ヲ免スルモノナルヲ以テ或期間事實地租ヲ徵
セサルモ之カ爲メ有租地タル性質ヲ變スルモノニアラサルヲ以テナリ故ニ新
開地、荒地、海嘯被害地、造林地ノ如キ有期免租地ニシテ其免租年期中天災ニ罹リ
地形ヲ變シタルトキハ之ヲ以テ地租條例ノ所謂荒地ト爲リタルモノト謂ハサ
ルヘカラス荒地免租年期中再ヒ荒地ト爲リタルモノニ對シ更ニ荒地免租ノ處
分ヲ爲シタルコトハ地租條例制定前ヨリノ慣例ニシテ地租條例ハ此慣例ヲ廢
スルノ意ヲ以テ制定セラレタルニアラサルコトハ法文中明ニ之ヲ規定シタルモ
ノナキヲ以テモ明ナリ而シテ事實ニ於テハ地租條例制定後ニ於テモ荒地免租
年期中土地ニ對シ再ヒ荒地免租處分ヲ爲シタルコトハ吾人ノ屢、目撃スル所ナ
リ荒地ナル有期免租地ニシテ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルトキ之ヲ以テ荒地ト
爲リタルモノト謂フコトヲ得ス新開地、海嘯被害地、造林地ノ如キ有期免租地モ
亦同一ノ論結ヲ爲ササルヘカラス人或ハ地租條例第二十條第一項ニ於テ荒地
ハ年定期明ニ至リ原地價ニ復スルコトヲ定ムルヲ以テ原地價ナキ新開地ノ如キ

ハ荒地ト爲ル能ハサルモノナリト曰フ者アルヘシト雖モ普通ノ場合ニ於テハ
土地ハ多クハ地價ヲ有スルヲ以テ第二十條ハ主トシテ此普通ノ場合ヲ想像シ
土地ハ荒地ト爲ルモ免租年定期明ニ至レハ原地價ヲ以テ地租ヲ徵收スヘク地價
ハ荒地ト爲リタルカ爲メニ之ヲ變更セサルコトヲ明カニシタルノミ之ニ依リ
テ地價ナキ土地ヲ除外スルノ意アルニハアラサルナリ
以上ノ四要件ヲ具備スルモノハ地租條例ハ之ヲ以テ荒地ト爲ス而シテ荒地ナ
ルモノハ土地其物ノ狀態ニ於テ所有者ヲシテ供用ノ利ヲ收ムルヲ得サラシム
ルモノナルヲ以テ其供用ヲ全ウスルヲ得ルニ至ルマテハ其地租ヲ免スルコト
相當ノ事ナリトス
(a) 荒地免租年定期明ノ許可(地租條例第二〇條第一項) 地租條例第二十條第一項
ハ「荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年定期明メ」ト規定スルカ故ニ土地カ
荒地ト爲リタルトキハ所有者ノ欲スルト否トニ關セス必ス十五年以内ノ免租
年定期明メテ其地租ヲ免セサルヘカラスカ如シト雖モ同條ハ決シテ此ノ如
キ意義ヲ有スルモノニアラス人ハ其意ニ反シテ利益ヲ強非ララルコトナシト

ハ獨リ私法上ニ於テノミ之ヲ言フヘキニアラス公法上ノ關係ニ於テモ亦然リ故ニ荒地ト爲リタルノ故ヲ以テ免租年期ノ利益ヲ受ケムトスル者ハ必ス其意思ヲ表示シテ所轄稅務管理局長ニ出願セサルヘカラス(地租條例施行規則第一四條)而シテ免租年期ノ出願アリタルトキハ稅務管理局長ハ實地ノ狀況ヲ按シ事實荒地ト爲リタルモノハ被害前ノ供用ヲ全ウスルニ至ル期間ヲ計リ十五年以内ニ於テ適宜免租年期ヲ定メ之ニ許可ヲ與フヘキモノトス人或ハ免租年期ハ其期間ノ地租ヲ以テ復舊工事ノ費用ヲ償還スルコトヲ得ルヲ期シテ之ヲ定ムヘキモノナリト謂フ者アリト雖モ之ヲ古來ノ慣例ニ徵シ且ツ法律カ年期ノ最長期ヲ制限スルニ考フルニ法律ノ精神ハ此ノ如キニ在ラスシテ全ク地力ノ復舊スル期間地租ヲ免スルニ在ルモノト謂フコトヲ得ヘシ但シ復舊工事ノ難易ハ以テ地力ノ復舊スル遲速ヲ計ルノ參考ト爲ルヘキカ故ニ免租年期ヲ定ムルニ付キ復舊工事ノ難易ヲ斟酌スヘキハ勿論ナリ

一筆ノ土地ノ幾部分天災ニ因リ地形ヲ變シタル場合ニ於テハ之ヲ部分荒地ト稱シ其部分ニ對スル地租ノ割合ヲ定メ一定ノ年期間之ヲ免スルコト嘗テ實際

ノ取扱ニ於テ行ハレタル所ナリト雖モ此ノ如キハ法規ヲ正當ニ適用シタルモノト謂フコト能ハス蓋シ地租ハ後ニ説明スヘキカ如ク土地一筆毎ニ之ヲ課スルモノナルカ故ニ地租ヲ免スト言ハハ一筆ノ地租全部ヲ徵收セサルコトヲ謂フモノナリ一筆ノ地租ノ一部ヲ徵收シテ他ノ一部ヲ徵收セサルハ地租ノ免除ニアラスシテ地租ノ輕減ナリ然ルニ法律ハ荒地ニ付テハ地租免除ナルコトヲ定ムルモ地租輕減ナルコトヲ定メサルヲ以テ一筆ノ土地ノ一部荒地ト爲リタルノ故ヲ以テ其地租ノ一部ヲ徵收セサルカ如キハ法律ノ規定セサル所ナリト謂ハサルヘカラス故ニ所謂部分荒地ナルモノノ生シタル場合ニ於テハ之ヲ一筆ノ全體ニ通シテ達觀シ地形ヲ變シタル部分ニシテ全筆ノ一小部分ニ係リ且ツ其被害輕少ニシテ全筆ノ供用ニ妨害ヲ與フルコト甚タ輕微ナルトキハ之ヲ以テ荒地ナリト爲スヘカラス之ニ反シテ地形ヲ變シタル部分全筆ノ大部分ニ涉ルカ若クハ其被害稍ヤ甚シキトキハ一部分地形ニ變更ナキ場所アルモ全筆ヲ以テ荒地ト視年期ヲ定ムルニ付キ少シク斟酌ヲ加ヘテ可ナリ但シ予カ茲ニ論スル所ハ一筆ノ一部分ニ付キ免租處分ヲ爲スコトハ法律ノ認メサル所ナリト謂フニ

在ルノミ一筆中荒地ト爲リタル部分ヲ分割シテ別筆ト爲シ之ニ對シテ免租年期ヲ請求スル場合ニ於テハ免租ハ全筆ニ關スルモノナルカ故ニ事實免租年期ヲ許可スルノ必要アル以上ハ之ヲ許可スルコトハ何等ノ妨アルモノニアラス

(b) 荒地免租年期ノ延長(地租條例第二三條、第二四條) 荒地免租年期ノ延長ハ荒地ノ形狀ニ因リテ同シカラス荒地ニシテ川成海成湖水成ナルモノハ免租年期明ニ至リ尙ホ原形ニ復セサルトキハ更ニ二十年以内ノ繼年期ヲ許可スルコトヲ得ヘク其他ノ荒地ハ免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルトキ更ニ二十年以内ノ繼年期ヲ許可スルコトヲ得ルモノナリ地租條例第二三條モ亦「五年以内免租繼年期ヲ定ム」ト言フヲ以テ一見必ス年期ヲ延長セサルヘカラサルカ如シト雖モ免租年期カ出願ニ因リテ始メテ許可セラルルカ如ク其繼年期モ亦出願ナキトキハ之ヲ與ヘサルモノトス(地租條例施行規則第一四條)

第二十三條ハ「免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノ」ト言ヒ第二十四條ハ「免租年期明ニ至リ原形ヲ復シ難キモノ」ト言ヘリ原地目ニ復シ又ハ他ノ地目ニ變シタルトキハ第二十二條乃至第二十二條ノ適用ヲ受クヘキカ故ニ「原形ニ

復シ難キモノ」トハ原地目ニ復セス又他ノ地目ニモ變セサルモノヲ指稱スルモノト謂ハサルヘカラス故ニ第二十三條及ヒ第二十四條ニ依リ繼年期ヲ出願スルニハ土地カ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スル場合ナラサルヘカラス而シテ土地カ荒地ノ形狀ヲ存スルトキハ川成海成湖水成ノ荒地ニ付テハ二十年ニ達スルマテ其他ノ荒地ニ付テハ十五年ニ達スルマテハ何回ニテモ繼年期ヲ申請スルコトヲ得ルモノトス然レトモ前者ニ付テハ二十年後者ニ付テハ十五年ニ達シタルトキハ其以外ニ繼年期ヲ申請スルコトヲ得ス然ルニ若シ其年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルトキハ如何ニ之ヲ處置スヘキカ川成海成湖水成ノ荒地ニシテ年期明ニ於テ尙ホ川成海成湖水成ノ形狀ヲ存スルトキハ法律ハ所有者ハ之ヲ以テ其所有權ヲ拋棄シタルモノト看做シ之ヲ川海湖ニ歸シタルモノト爲セリ故ニ舊所有者ニシテ再ヒ以前ノ土地ニ復セントセハ更ニ公有水面埋立ノ許可ヲ受ケサルヘカラサルモノトス其他ノ荒地ニ至リテハ法律ハ此ノ如キ場合ニ付テ特ニ明文ヲ以テ規定ヲ爲スコトヲ爲ササリシカ故ニ法文ノ解釋トシテハ原地目ニ依リ原地價ニ復セシムヘキモノト謂ハサルヲ得ス但シ實際ニ於テハ

所有者ハ之ヲ以テ池沼原野又ハ雜種地ニ變シタルモノト爲シ地價ノ修正ヲ求ムルナルヘシ

(c) 荒地免租年期ノ消滅 荒地免租年期ハ左ノ場合ニ於テ消滅スルモノトス
1 年期ノ滿了 免租年期滿了シタルトキハ原地價ニ復スルト將タ之ヲ修正スルトヲ問ハス又ハ低價年期ヲ許可スルト否トニ拘ラス荒地免租年期ハ終了ヲ告クルモノナリ

2 荒地免租年期ノ許可 荒地ト爲リタルカ爲メ免租年期ノ許可ヲ受ケタル土地カ再ヒ天災ニ因リ地形ヲ變シ其被害ハ既ニ受ケタル免租年期中ニ於テ地力ヲ回復スル能ハサルノ程度ニ在ルトキハ再度ノ被害ニ對シテ相當ノ免租年期ヲ受クルコト所有者ノ利トスル所ナリ而シテ荒地モ亦地租條例ノ所謂有租地ナルヲ以テ荒地カ再ヒ荒地ト爲リタルトキハ之カ免租年期ノ許可ヲ受クルコトヲ得ヘキハ前既ニ詳論シタル所ナリ此ノ如キ場合ニ於テ後ノ出願ニ對シテ許可アリタルトキハ既ニ受ケタル荒地免租年期ハ消滅スルモノナリ(地租條例施行規則第一三條蓋シ荒地ハ免租年期明ニ於テ其地ノ狀況ニ依リ或ハ之

ヲ原地價ニ復セシメ或ハ之ヲ修正シ若クハ低價年期ヲ定ムル等ノコトヲ爲ササルヘカラサルモノナルニ若シ二重ニ免租年期アルトキハ法律ノ規定ハ之ヲ實行スルヲ得サルヘシ然ルニ法律カ此ノ如キ規定ヲ設ケタルヲ以テ見レハ法律ハ二重ノ荒地免租年期ノ併行スルコトヲ認メサルモノト謂ハサルヘカラス加之所有者カ既ニ荒地免租年期ヲ有スルニモ拘ラス尙ホ荒地免租年期ノ許可ヲ申請スルハ既ニ有スル荒地免租年期ノ利益ヲ棄テテ更ニ現在ノ狀況ニ相當スル荒地免租年期ヲ受ケント欲シタルニ由ルモノト謂フコトヲ得ヘキカ故ニ之カ許可ハ前免租年期ノ消滅ヲ伴フコトハ其當然ノ結果ナリト謂フコトヲ得ヘシ

荒地免租年期中ノ土地ニ付キ海嘯被害ノ爲メニ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキモ亦荒地免租年期ハ上述ト同一ノ理由ヲ以テ消滅スルモノナリ
3 造林地免租年期ノ許可 荒地免租年期中ニ在ル土地カ造林ヲ命セラレタルカ爲メ免租年期ノ許可ヲ得タルトキハ荒地免租年期ハ自ラ消滅スルモノトス此事モ亦法律ニ明文ナシト雖モ荒地カ再ヒ荒地ト爲リ免租年期ヲ受ケタル

カ爲メ前ノ免租年期消滅スルモノトセハ此場合モ亦同一ノ理由アルカ故ニ同一ノ論結ヲ爲ササルヲ得ス

(六) 海嘯被害地 海嘯被害地トハ潮水ノ浸入ノ爲メ鹽分ノ撒布ヲ受ケ作物ノ生育ヲ妨ケラレルニ至リタル土地ナリ潮水浸入ノ爲メニ地形ニ變更ヲ生スルトキハ其地ハ荒地トシテ免租年期ヲ受クルヲ得ヘシト雖モ唯鹽分ノ撒布シタルニ止リ地形ヲ變セサルトキハ之ヲ荒地ト謂フコト能ハス然レトモ鹽分ノ撒布ニシテ甚シキニ至ルトキハ其地力ヲ損シテ作物ノ生育ニ適セサルニ至ラシムルコトハ荒地カ地力ヲ損スルト敢テ擇フ所ナキモノナリ故ニ法律ハ海嘯被害地モ亦荒地ニ準シ期間ヲ定メテ其地租ヲ免スヘキモノト爲シタリ

海嘯被害地トシテ免租年期ヲ受クルニハ左ノ要件ヲ具備スルコトヲ要ス
1 潮水ノ浸入ノ爲メ作土ヲ損害シタルコトヲ要ス 潮水ノ浸入アルモ鹽分ノ撒布少キ爲メ地力ヲ害スルニ至ラサルトキハ免租年期ヲ受クルコトヲ得ス加之法律ハ「作土ヲ損害シタルモノ」ト言フカ故ニ地租條例第二十條第二項ニ依リ海嘯被害地ト爲ルモノハ作土ヲ有シタル土地ナラサルヘカラス而シテ作

土トハ普通ニハ耕地ノ上皮ヲ爲シ作物ノ生育ニ適スル土ヲ指稱スル語ナルカ故ニ田畑ニアラサレハ作土ヲ有スルモノニアラス隨テ田畑以外ノ土地ハ潮水浸入ノ爲メ如何ニ多量ノ鹽分ヲ撒布セラルルコトアルモ之ヲ以テ所謂海嘯被害地ト爲スコト能ハス人或ハ此見解ノ狹隘ニ過クルヲ難シ此ノ如ク解スルトキハ山林、牧場、原野等ノ如キ現ニ植物ノ生育ニ供スル土地ニシテ鹽分ノ爲メ其地力ヲ害セラレタル場合ニ於テ之ニ免租年期ヲ許可スル能ハサルニ至リ田畑等ト不權衡ヲ生スルニ至ルヘシ是レ豈ニ法律ノ意ナラムヤ故ニ地租條例ノ所謂作土トハ植物ノ生育ニ供スル土ト謂フノ義ニシテ作土ヲ有スル土地ト謂ヘハ廣ク山林、牧場、原野等ヲ包含スルモノナリト曰フ者アリ然レトモ予ハ此說ヲ採ルコト能ハス第二十條第二項ハ例外ニ屬スル規定ナルカ故ニ嚴正ノ解釋ヲ爲ササルヘカラス敷衍シテ之ヲ適用スルコトヲ得ス而シテ作土ナルモノヲ解シテ植物ノ生育ニ供スル土ト爲スハ普通ノ用語ヲ其字義以外ニ敷衍スルモノト謂ハサルヘカラス況ヤ第二十條第二項ハ後ニ追加セラレタル規定ニシテ當時潮水ノ浸入シタル田地ノ免租ヲ爲スヘキ必要アリシニ出テタルモノナル

ヲ以テ立法者ノ意モ亦耕地以外ニ之ヲ及ホスノ趣旨ニアラサリシコト事情ノ證明スル所ナルニ於テヲヤ

2 潮水浸入カ海嘯ニ原因スルコトヲ要ス 第二十條第二項ハ明カニ「海嘯ノ爲メ」ト言フヲ以テ暴風又ハ高潮等ノ爲メ潮水ノ浸入シテ作土ヲ害シタル場合ニハ同項ヲ適用スルコト能ハス然レトモ怒濤ノ浸入ハ海嘯ニ原因スルヤ又ハ其他ノ原因ヲ有スルヤハ事實ノ認定ニ屬スルカ故ニ天災ニ因リ潮水ノ浸入シタル場合ニ於テハ多クハ海嘯ノ爲メニ浸入シタルモノト認定セラルルナルヘシ

(a) 海嘯被害地免租年期ノ許可(地租條例第二〇條第二項) 海嘯被害地ハ荒地ニ準スルヲ以テ免租年期ノ出願アリタルトキハ其狀況ニ依リ荒地ト同シク十五年以内適宜年期ヲ定メ之ヲ許可スヘキモノトス

(b) 海嘯被害地免租年期ノ延長 第二十條第二項ハ「前項ニ準據スルコトアルヘシ」ト規定スルヲ以テ海嘯被害地ニ付テハ第二十條第一項ヲ準用スルノ外第二十條乃至第二十三條ハ之ヲ準用セサルモノノ如シ然レトモ第二十一條乃至第二十三條ハ第二十條第一項ノ結果ニシテ之ト密接ノ關係ヲ有スル規定ナリ而シテ第二十條第一項ヲ準用スルコトヲ定メタル立法者ノ意ハ其結果タル第二十一條乃至第二十三條モ亦之ヲ準用スルニ在リタルハ自ら推測セラルル所ナルヲ以テ該三條モ亦海嘯被害地ニ準用セラルルモノト謂ハサルヘカラス特ニ海嘯被害地ニハ免租年期ヲ與ヘサレハ則チ已ム既ニ荒地ト同シク之ヲ與フヘキモノト爲シタル以上ハ獨リ其年期明處分ニ付テノミ荒地ト異ナルヘキ理由ハ少シモ之ヲ發見スルコト能ハサルカ故ニ第二十條第二項ノ所謂前項ニ準據スルコトアルヘシ」トハ「荒地ニ準スルコトヲ得」トノ義ナリト解セサルヘカラス隨テ免租年期明ニ至リ尙ホ作土損害ノ事實存スルトキハ更ニ十五年以内ノ免租繼年期ヲ定ムルコトヲ得ルモノナリ

(c) 海嘯被害地免租年期ノ消滅 海嘯被害地免租年期ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

- 1 年期ノ滿了シタルトキ
- 2 荒地免租年期ノ許可アリタルトキ

3 海嘯被害地免租年期ノ許可アリタルトキ

(三) 造林地 期間ヲ定メテ地租ヲ免スル造林地ニ二種アリ一ハ森林法發布以前無立木ト爲リ又ハ荒廢ニ屬シタル森林ニシテ主務大臣ヨリ造林ヲ命セラレテ造林シタルモノ(森林法第五五條第五六條第一項)ニシテ他ノ一ハ原野山嶽又ハ荒蕪地ニシテ新ニ造林シタルモノ(森林法第五六條第二項)ナリ前者ハ行政官カ強制シテ造林ヲ爲サシムルモノナルカ故ニ法律ハ補償ノ意ヲ以テ一定ノ年間其地租ヲ免スルモノニシテ後者ハ強制ニ因ルニアラサルモノ一般ニ造林セラルルコトヲ希望スル場所ニ造林スルモノナルヲ以テ法律ハ獎勵ノ意ヲ以テ年期ヲ定メ其地租ヲ免スルモノナリ

(a) 造林地免租年期ノ許可 造林地ノ免租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ所轄稅務管理局長ニ出願スルコトヲ要ス(明治三十一年大藏省令第十八號)稅務管理局長ハ造林者カ仕立テムトスル林種ニ依リ造林ノ難易地味ノ良否等ヲ斟酌シ二十五箇年以内ニ於テ適當ノ年期ヲ定メ之カ許可ヲ與フヘキモノトス(明治三十一年大藏省訓令第七十三號及ヒ同年農商務省令訓令第四十四號)

森林法第五十六條ニ依リ造林地ノ地租ヲ免スルハ造林ヲ命セラレ又ハ造林ヲ爲サムトスル土地全部ノ地租ヲ免スヘキモノニアラス其造林シタル部分即チ事實植樹シタル部分ニ限リ其地租ヲ免スヘキモノトス故ニ若シ事實植樹シタル部分カ土地一筆ノ全部ニ涉ラサルトキハ其部分ノミヲ分裂シ別筆ト爲シテ其地租ヲ免スヘキモノナリ

森林法第五十五條ニ依リ造林ヲ命セラレタル者カ造林ヲ怠リタル爲メ同條但書ニ依リ官ニ於テ造林ヲ爲シタルトキハ其地ノ地租ハ之カ免除ヲ請求スルコトヲ得ルヤ第五十六條ハ前條ニ依リ造林ヲ命セラレタル森林ハ其造林シタル部分ニ限リ云云ト定メ造林シタル者ノ官ナルト所有者ナルトニ依リ區別ヲ設ケサリシヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テモ亦免租年期ノ出願ヲ爲スコトヲ得ルモノト謂ハサルヘカラス但シ年期ヲ定ムルニ付テハ官ニ於テ植樹シタル場合ト所有者ニ於テ植樹シタル場合トニ依リテハ自ラ斟酌スル所ナカルヘカラス森林法第五十六條ハ一定ノ期間ヲ定メテ地租ヲ免スルヲ以テ之ヲ一種ノ免租年期ト視サルヘカラス然レトモ同條ノ期間ヲ更新又ハ延長スルコトヲ得ルノ

規ハキフ以テ一タヒ與ヘタル免租年期ハ其二十五年ニ達セサル場合ト雖モ之ヲ延長スルコトヲ許ササルモノナリ

(b) 造林免租年期ノ消滅 造林免租年期ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

1 年期ノ滿了シタルトキ

2 荒地免租年期ノ許可アリタルトキ

以上掲ケタル四種ノ有期免租地ノ外期間ヲ定メテ地租ヲ免スルモノハ震災、水害、蟲害等ノ爲メ害ヲ被リタル土地ニシテ一年ヲ限り又ハ若干ノ年期ヲ定メ地租ヲ免セラルルモノノ、東京市區改正條例ニ依リ下付セラレタル河岸地ニシテ市區改正事業ノ終ルマテ其地租ヲ免セララルルモノ又ハ北海道ニ於ケル各種ノ土地ニシテ諸種ノ法規ニ依リ一定ノ年間其地租ヲ免セララルルモノノ如キアリト雖モ或ハ一時ノ特別處分ニ係リ或ハ一地方ニ於ケル特種ノ取扱ニ出ツルモノニシテ永遠ニ涉リ且ツ全般ニ通スルモノニアラサルカ故ニ茲ニハ其説明ヲ省略ス

第二 土地ノ區分

土地ニ對シ地租ヲ課シ又ハ之ヲ免スト言ハハ之ヲ課シ又ハ之ヲ免スヘキ土地ヲ指定セサルヘカラス是ニ於テ乎土地ハ相當ノ標識ニ依リ區域ヲ定メ之カ區分ヲ爲ササルヘカラス而シテ既ニ之カ區分ヲ爲シタル以上ハ彼此ノ區別ヲ明カニスルカ爲メ之ヲ表示スヘキ符號アルコトヲ要ス故ニ各區域ニハ番號ヲ付シ所在町村名又ハ大字名若クハ小字名ト其番號トニ依リ之ヲ表示スヘキモノト爲シタリ(地租條例施行規則第一條)土地ノ各區域ハ之ヲ帳簿又ハ書類ニ記載スル場合ニ於テハ一廉トシテ記載スルカ故ニ從來之ヲ一筆ト稱シ其番號ハ之ヲ地番ト稱ス地租改正當時ノ成規ニ依レハ一筆ノ區域ハ同一地目、同一所有者ニシテ道路、溝梁、堤塘、河川等ニ隔テラレサルヲ期シテ之ヲ定ムヘキモノト爲シタリ然レトモ此成規ハ唯踰越スヘカラサル制限ヲ示シタルノミニシテ實際ニ於テハ取扱者ハ其範圍内ニ於テ更ニ其見ル所ニ依リ相當ニ區劃ヲ爲シタリ又地番ハ當時地方ニ依リ或ハ一町村ヲ通シテ順次番號ヲ付シタルモノアリ或ハ字限リニ於テ順次番號ヲ付シタルモノアリ而シテ爾後市町村制ノ實施ト共ニ町村ヲ合併シテ新市町村ヲ作り從來ノ町村ヲ以テ大字ト爲シタルモノアルヲ

以テ現今ニ於テハ地番ニハ自ラ町村毎ニ之ヲ付シタルモノ大字毎ニ之ヲ付シタルモノ及ヒ小字毎ニ之ヲ付シタルモノノ三様アルニ至レリ

現今土地ハ一小部分ヲ除クノ外ハ殆ト皆區域ヲ定メテ地番ヲ付セラル故ニ今後ニ於テ土地區分ノ必要アルハ凡ソ左ノ如キ場合ニ於テノミ之ヲ見ルモノトス

一 官地拂下海面埋立脱落地發見等ノ如キ場合

官有地ニハ地番ヲ付シタルモノアリト雖モ未タ之ヲ付セサルモノモ亦勘カラヌ官有水面ノ如キハ殆ト皆地番ナキモノナリ故ニ官有地ノ拂下又ハ下渡ヲ得タル者アルトキハ新ニ相當ノ區域ヲ定メテ之ニ地番ヲ付セサルヘカラス脱落地トハ地租改正以來調査ニ漏レ土地臺帳ニ登録セラレサリシ民有地ナルカ故ニ之ニ地番ナキコトハ言ヲ須タス故ニ新ニ脱落地ヲ發見シタルトキハ是レ亦地番ヲ付スルノ必要アリ此ノ如キ土地ニ對シ地番ヲ付スル場合ニ於テハ町村毎ニ地番ヲ付スル地方大字毎ニ地番ヲ付スル地方及ヒ小字毎ニ地番ヲ付スル地方ノ別ニ依リ其最終番ヲ追ヒ其次番ヨリ順次之ヲ付スヘキモノトス

二 土地ノ分割ヲ爲シタル場合

土地ノ分割ハ所有者ノ意思ニ因リテ之ヲ爲スモノト所有者ノ意思ニ拘ラス之ヲ爲スモノトアリ

(イ) 所有者ノ意思ニ因ルモノ(地租條例施行規則第五條) 所有者ハ土地ノ一部ヲ賣却シ質入シ又ハ抵當ニ供スル等種種ノ事由ニ因リ一筆ノ土地ヲ分割シテ數筆ト爲スヲ必要トスルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テ所有者カ其意思ヲ表示シテ申告ヲ爲ストキハ其指定シタル區域ニ依リテ區分ヲ爲シ各之ニ地番ヲ附セサルヘカラス

(ロ) 所有者ノ意思ニ拘ラサルモノ(地租條例施行規則第二條) 一筆ノ土地中一部分左ノ場合ニ該當スルトキハ所有者カ分割ヲ爲スコトヲ申告スルト否トニ關セス政府ハ其部分ヲ分割スヘキモノトス

1 別地目ト爲ルトキ 土地ハ地番ニ依リテ表示セラルト雖モ其地目モ亦之ヲ表示スルノ一要素ナリ故ニ一筆ハ同地目ヨリ成ルヘキハ舊來ノ慣例ナリ加之地目ヲ變スルトキハ後ニ説明スヘキカ如ク其地價ヲ修正セサルヘカラサルモ

ノナリ然ルニ地價ハ一筆毎ニ之ヲ定ムルモノナルヲ以テ地價ヲ修正セントセ
ハ勢ヒ修正スヘキ部分ハ一筆ヲ爲ササルヘカラス故ニ一筆中ノ一部分別地目
ト爲リタルトキハ其部分ハ之ヲ分割スヘキモノトス此場合ハ開墾一部成功ノ
如キトキニ於テ最モ其適例ヲ見ルモノナリ

2 有租地ニシテ免租地ト爲ルトキ 茲ニ所謂免租地トハ無期免租地ヲ指ス
モノナリ無期免租地ハ法律ニ依リ當然地租ヲ免除セラルルモノナルカ故ニ有
租地ノ一筆中一部分免租地ト爲リタルトキハ其部分ハ之カ地租ヲ免セサルヘ
カラス然ルニ地租ハ一筆ニ付テ之ヲ定ムルモノナルカ故ニ一筆ノ一部分ノ地
租ヲ免スルコト能ハス故ニ地租ヲ免スルカ爲メニハ先ツ以テ其部分ヲ別筆ト
爲ササルヘカラス

3 免租地ニシテ有租地ト爲ルトキ 此場合ニ於テモ地租ハ一筆ニ付テ之ヲ
定ムヘキモノナルヲ以テ勢ヒ分割スルニアラサレハ地租ヲ課スルコト能ハサ
ルナリ

4 所有者ヲ異ニスルニ至リタルトキ 地租ハ所有者ニ課スルモノナルカ故

ニ所有者ヲ異ニスルニ至リタルトキハ別筆トシテ各其地租ヲ定ムヘキハ當然
ナリ

5 質權ノ目的ト爲リタルトキ 所有者ヲ異ニスルニ至リタルトキト同一ノ
理由ニ因リ別筆ト爲スモノナリ

右4及ヒ5ニ記ス所ハ理論ニ於テハ所有者ノ意思ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ分
割シテ可ナリト雖モ實際ニ於テ土地ヲ讓渡又ハ質入セントスルトキハ之ヲ指
定セサルヘカラスカ故ニ讓渡又ハ質入前ニ於テ所有者ハ必ス之カ分割ヲ爲
スナルヘシ故ニ事實ハ其意思ニ拘ラス政府ニ於テ分割スルカ如キ場合ハ起ラ
サルヘシ

土地分割ノ場合ニ於テ地番ヲ附スルハ分割前ニ於ケル其地ノ地番ニ一、二、三、四
等ノ符號ヲ附シテ各筆ノ地番ト爲スヘキモノナリ例ヘハ百五十番ヲ分割シテ三
筆ト爲シタルトキハ百五十番ノ一、百五十番ノ二、百五十番ノ三ト爲スカ如シ若
シ既ニ地番ニ符號アル土地ヲ分割シタルトキハ其一筆ニハ従前ノ地番ヲ附シ
他ノ各筆ニハ本番ノ符號ヲ順次増加シタル地番ヲ附スルモノトス例ヘハ前例ニ

於ケル百五十番ノ二ヲ更ニ分割シテ三筆ト爲シタルトキハ其一筆ハ依然トシテ之ヲ百五十番ノ二ト爲シ他ノ二筆ハ之ヲ百五十番ノ四及ヒ百五十番ノ五ト爲スカ如シ

三 土地ノ合併ヲ爲シタル場合

同一所有者ニ屬スル土地ハ成ルヘク合併シテ少數ノ筆ト爲スコト諸般ノ點ニ於テ便宜多シ何トナレハ土地ノ表示ヲ爲スヘキ機會ニ於テ多數筆ニ分ルルトキハ一一之ヲ記載セサルヘカラサルモ之ヲ合併シテ少數ト爲ストキハ記載ヲ簡短ト爲スノ便尠カラサルヲ以テナリ故ニ所有者カ土地ノ合併ヲ爲サンコトヲ申告シタルトキハ之ヲ以テ區域トシ更ニ地番ヲ附スヘキモノトス(地租條例施行規則第一五條)但シ市町村、大字又ハ小字ヲ異ニスル土地ハ之ヲ合併スル能ハサルモノナリ

土地ノ分割ハ所有者ノ意思ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ爲ス場合アリト雖モ合併ハ所有者ノ意思ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ爲スコトハ法令ノ認メサル所ナリ蓋シ合併ハ分割ノ如ク之ヲ爲スニアラサレハ地租ノ賦課又ハ免除ヲ爲スコト能ハサルカ如キ事情ナキヲ以テナリ然レトモ合併ハ前ニ記スカ如キ利益アルヲ以テ所有者ニ於テ別筆ト爲シ置クノ必要ナシト爲スモノハ成ルヘク合併スルヲ可トス

土地ヲ合併シタルトキハ合併前ノ地番中首位ニ在ルモノヲ以テ該地ノ地番ト爲スヘキモノトス例ヘハ百番、百一番、百二番ヲ合併シテ一筆ト爲ストキハ百番ト爲スカ如シ従前ノ取扱ニ於テハ土地合併ノ場合ニ於テハ合併シタル地番ヲ悉ク舉ケテ何番、何番、何番合併ト記載スルノ例ナリシヲ以テ現今尙ホ此ノ如キ地番ヲ有スル土地アルヲ見ルコト尠カラス此ノ如キ地番ハ之ニ依リテ土地ノ沿革ヲ知ルノ便ナキニアラスト雖モ土地ノ符號タル地番トシテハ適當ナリト謂フコトヲ得ス

四 土地改良、耕地整理ヲ爲シタル場合

現在ノ土地區分ハ其區劃狹小不整ニシテ之ニ介在スル道路溝渠等ハ迂回屈曲シ且ツ各自ノ所有地ハ交互錯綜又ハ點在シ爲メニ利用ヲ爲スヲ得サル土地ヲ生スルコト多キノミナラス之ヲ利用スルニ付キ時間ト勞力トヲ費スコト比較

的多大ナラサルヲ得ス此狀況ハ耕地ニ於テ最モ甚シト爲ス是ヲ以テ明治二十年法律第三十號ヲ以テ地租條例ニ改正ヲ加ヘ耕地ノ區劃形狀ヲ變更シタルモノニハ地價措置年期ヲ許可スルコトトシ明治三十年法律第三十九號ヲ以テ土地區劃ノ改良ヲ爲シタルモノニハ現在地價ノ總額以上ニ上ルヘキ地價ヲ附セサルコトヲ定メラレ尋テ明治三十二年法律第八十二號ヲ以テ耕地整理法ヲ制定シテ耕地區劃ノ整理ヲ容易ナラシメンコトヲ計リ專ラ土地ノ區劃形狀ノ整正ニ歸センコトヲ力メタリ耕地ノ整理ハ之カ法規ノ不備ナリシ時ニ在リテモ既ニ地方ニ因リテハ之ヲ企畫シ其成績亦見ルヘキモノ尠カラサリシヲ以テ法制ノ稍ヤ整備ニ就キタル今後ニ在リテハ各地ニ於テ益其施行ノ多キヲ見ルニ至ルナルヘシ而シテ改良整理ノ目的ハ實ニ現在ノ區分ヲ變更スルニ在ルカ故ニ其結果トシテ改良整理ノ成績ニ就キ新ニ相當ノ區分ヲ定メ之ニ地番ヲ附セサルヘカラス此場合ニ於テハ地番ハ左ノ例ニ依リテ之ヲ附スヘキモノトス

(明治三十三年大藏省訓令第二十二號)

改良整理ニ因リテ成リタル一筆從前ノ土地二筆以上ヲ包含シ又ハ從前ノ

土地二筆以上ノ各部分ヲ包含スルトキハ從前ノ土地中適宜其一ノ地番ヲ以テ各筆ノ地番ト爲スヘシ例ヘハ五十番、五十一番、五十二番、五十三番、五十四番、五十五番カ整理ノ結果二筆ト爲リ五十番、五十一番ハ其一筆ヲ爲シ五十二番、五十三番、五十四番ハ他ノ一筆ト爲リタルトキハ前者ハ之ヲ五十番トシ後々ハ之ヲ五十二番トスヘク若シ整理ノ結果五十番ノ一部ト五十一番ノ一部ト合シテ甲筆ト爲リ五十番ノ他ノ一部ト五十一番ノ他ノ一部ト合シテ乙筆ト爲リタルトキハ甲筆ノ地番ハ之ヲ五十番トシ乙筆ノ地番ハ之ヲ五十一番トスヘキカ如シ

2 改良整理ニ因リテ成リタル一筆從前ノ土地一筆ノ一部分ニ該當スルトキハ其地番ハ從前ノ土地ノ地番ヲ用フルカ又ハ其地番ニ一、二、三等ノ符號ヲ附シタルモノヲ用フヘシ例ヘハ三十番、三十一番ノ二筆カ整理ノ結果二筆ト爲リ三十番ト三十一番ノ一部ト合シテ甲筆ヲ爲シ三十一番ノ他ノ一部カ乙筆ヲ爲シタルトキハ甲ヲ三十番ト爲シ乙ヲ三十一番ト爲スヘク若シ三十番ノ一部カ甲筆ヲ爲シ他ノ一部カ乙筆ヲ爲シ三十一番ノ一部カ丙筆ヲ爲シ他ノ一部カ丁筆ヲ爲シタルトキハ甲ハ三十番ノ一乙ハ三十番ノ二丙ハ三十一番ノ一丁ハ三十二

番ノ二ト爲スヘキカ如シ

第二款 課稅ノ標準

地租ハ土地ノ價額ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス蓋シ物ノ價額ナルモノハ種種ノ原因ニ本キテ定マルモノナリト雖モ其物ヨリ生スル利益ハ之ヲ定ムル主要ナル原因ヲ爲スモノナルカ故ニ土地ノ價額ヲ標準トシテ地租ヲ課スルトキハ自ラ收利ニ比例スル課稅ト爲リ土地ノ負擔ニ厚薄ノ弊ナカラシムルニ庶幾キモノナルヲ以テナリ然レトモ現行地租ノ標準タル地價ナルモノハ第一節ニ於テ略述シタル如ク多クハ明治六七年ノ頃ノ時價ヲ以テ定メタルモノニシテ爾後地價ヲ設定シ又ハ之ヲ修正スルニハ常ニ地租改正當時ノ狀態ヲ基礎トシテ之ヲ行ヒタルモノナルヲ以テ今日ニ於テハ賣買價格トノ間ニ大ナル差違アルコトヲ免レス地租條例第一條但書カ本條例ニ於テ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フト規定シタルハ地租賦課ノ標準ハ土地ノ賣買價格ニアラスシテ其法定價格ナルコトヲ明カニシタルモノナリ

地租賦課ノ標準ハ土地臺帳ニ記載セララル地價ナリトセハ土地臺帳ニ記載セララル地價ハ正確ナル計算ニ本クモノニシテ且ツ其記載上ニ誤謬ナキコトヲ期セサルヘカラス若シ其間ニ誤謬アリシコトヲ發見シタルトキハ後日ニ於テ土地臺帳ノ記載ヲ訂正スルコトヲ得ルヤ事ニ誤アラハ之ヲ正スヘキハ當然ナルヲ以テ此ノ如キノ設問ハ殆ト之ヲ解決スルノ必要ナキカ如シト雖モ實際ニ於テハ此事タル頗ル論難辯議ヲ費サレタル問題ニ屬スルカ故ニ予ハ之ニ付テ一言ヲ試ミントス土地臺帳記載ノ地價ハ誤謬ヲ理由トシテ之ヲ訂正スヘキモノニアラスト爲ス論者ノ議論ハ主トシテ左ノ數點ニ歸著スルモノノ如シ

(イ) 明治十一年六月十三日地租改正事務局總裁及ヒ大藏卿ノ内達ヲ以テ誤失ヲ發見シ地券授與後三十日內ニ申報スルモノハ改租施行初年ヨリ更正スヘキコトヲ定メタルカ故ニ其期間經過後ニ於テハ誤謬ノ訂正ヲ爲ササルコトハ當時ニ於テ既ニ一定セラレタル方針ナリ

(ロ) 地價ノ訂正トハ既記ノ地價ヲ變シテ他ノ地價ト爲スモノナルカ故ニ地價訂正ハ地價修正ナリト謂ハサルヘカラス然ルニ地價ノ修正ヲ爲スヘキ場合ヲ

限定シタル地租條例第七條ハ地價ニ誤謬アリタル場合ヲ包含セサルカ故ニ誤謬ヲ理由トシテ地價ヲ變更スルコトヲ得ス

(ハ) 地價ハ其土地ノ實益ニ本キテ之ヲ定ムヘキモノナルカ故ニ稱シテ地價ニ誤謬アリト謂フ場合ニ在リテモ其誤謬ハ唯算出ノ間ニ於テ存シタルノミ行政官カ其算出ニ依リテ得タル地價ヲ土地臺帳ニ記載シタルハ其地價ノ能ク土地ノ實益ニ恰當スルモノナルコトヲ認メテ之ヲ登記シタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ地價其物カ何等ノ誤謬アルモノニアラスシテ訂正ヲ要スヘキモノニアラス予ハ右ノ論結ヲ以テ正確ナル根據アルモノト信スルコト能ハス論者ハ明治十一年六月十三日ノ内達ヲ以テ地券授與後三十日ヲ經過シタルトキハ誤謬訂正ヲ許ササルノ趣旨アルモノト爲スト雖モ此ノ如キハ甚シキ誤解ナリ該内達ハ誤失ノ更正ヲ爲スヘキコトヲ前提トシテ發セラレタルモノニシテ唯其申出ノ地券授與後三十日內ニ在ルト否トニ因リテ更正シタル地租ヲ適用スヘキ時期ヲ異ニスヘキコトヲ定メタルノミ況ヤ該内達ハ地租改正當時ノ誤謬ニ付テノミ規定スルモノニシテ地租改正後ニ設定又ハ修正シタル地價ノ誤謬ニ付テハ

何等ノ關係スル所ナキニ於テヲヤ次ニ論者ハ地價訂正ヲ以テ地價修正ナリト爲シ地租條例第七條ハ之ヲ許サスト爲スト雖モ是レ亦議論ノ適切ナラサルモノト謂ハサルヲ得ス地價修正トハ適法ニ成立シタル地價ヲ法律ノ規定ニ從ヒテ變更スルコトヲ謂フモノナリ地價訂正トハ適法ノ地價ナキカ故ニ適法ノ地價ヲ記載シテ適法ナラサル地價ヲ削除スルモノナリ二者ノ間殆ト其混同ヲ生スヘキ接近タモアルコトナシ然ルニ此相異ナリタル事實ヲ混同シタル觀念ヲ前提トシテ議論ヲ爲ス其論結ノ當ヲ得サルハ言フヲ須タス誤謬ハ算出ノ間ニノミニ存シテ地價其物ノ上ニ存セスト謂フニ至リテハ予ハ實ニ論者ノ寛容ナルニ驚カサルヲ得ス地價ハ地租條例第九條ニ依リ土地ノ所得ヲ審査シ其狀況ニ應シテ之ヲ定ムヘキモノナルヲ以テ行政官カ土地所得ノ審査ヲ誤ラス且ツ之ニ依リ一定ノ算法ヲ以テ其價格ヲ算出シタル場合ニ於テ此價格ヲ以テ直チニ其土地ノ地價ト爲スヲ不適當ナリト爲シ他ノ事情ヲ斟酌シテ之ト異ナリタル地價ヲ土地臺帳ヲ記載セリトセハ後日ニ於テ當初算出シタル地價ヲ以テ之ヲ訂正スルコト能ハサルハ無論ナリ是レ誤謬訂正ヲ許ササルカ故ニ然ルニアラス誤謬

ナキカ故ニ訂正スヘキモノナキヲ以テナリ論者ハ如何ナル場合ニ於テモ此ノ如ク見ルヘキモノナリト謂フト雖モ此ノ如キハ問題ニ對スル解決ニアラス問題ハ實ニ地價ニ誤謬アリテ行政官モ亦其誤謬ナルコトヲ知ル場合ニ於テ之ヲ訂正スヘキヤ否ヤト謂フニ在リ例ヘハ土地ノ丈量ヲ爲スニ當リ之カ長短ノ間數ニ於テハ誤ル所ナキモ之カ面積ヲ算出スルニ當リ其算法ヲ誤リタルニ此誤リタル面積ヲ基礎トシテ地價ヲ定メタルカ如キ又ハ面積ノ算出ハ誤ルコトナキモ實地畑ナルニ拘ラス誤テ田ナリト信シ近傍田地ニ比準シテ其地價ヲ定メタルカ如キ場合ニ於テ其事實ニ於テ相違ナキコトヲ認メラルルトキハ既ニ土地臺帳ニ記載セラレタル地價ヲ訂正スルコトヲ得ルヤ否ヤト謂フニ在リ行政官カ實地ノ情況算定ニ依リテ地價ヲ定ムルコトヲ適當ナリト爲シ而シテ其算定ニ誤リアリシトセハ土地臺帳ニ記載シタル地價ハ其適當トシテ定メント欲シタル地價ニアラスシテ土地ノ實益ニ恰當セサルモノナルコトハ明カナリ之ヲ如何ソ土地臺帳記載ノ地價ハ土地ノ實益ニ恰當スルモノナルコトヲ認メテ登記セラレタルモノニシテ誤謬ナシト謂フコトヲ得ヘケンヤ論者或ハ曰ハ

シ土地臺帳ノ記載ヲ爲ス時ニ於テ行政官カ其地價ノ實地ニ適當スルコトヲ認メタルヤ否ヤハ人ノ心裡ノ作用ニ屬スルカ故ニ後日ニ至リ之ヲ確知スルコト能ハス然ルニ事ニ誤謬アルコトヲ推定スルハ推理ノ當ヲ得タルモノニアラス故ニ寧ロ初ヨリ如何ナル場合ニ於テモ誤謬ナカリシモノト爲スヲ以テ至當ト爲スト此ノ如キハ實體ノ議論ニアラスシテ證據ノ議論ナリ誤謬ニシテ證明セラレスンハ訂正ナルコトノ起ラサルハ無論ナリ然レトモ既ニ誤謬ノ存スルコトヲ證明セラレタルトキハ論者ノ斷定ノ如キヲ許ササルモノナリ予ハ論者カ證明ノ難易ヲ以テ實體ノ權能ヲ左右セントシタルヲ惜シム者ノナリ予ヲ以テ之ヲ見ルニ算出ヲ誤リ又ハ比準ヲ誤リタルカ如キハ書類ニ徴シテ以テ之ヲ證スルコトヲ得ヘシ而シテ既ニ誤謬ニ因リテ地價ヲ定メタルコト明カナルトキハ誤謬ヲ訂正スルコトハ當然ノ事ニシテ特ニ法令ノ規定ヲ須タサルモノナルカ故ニ行政官ハ速ニ之カ訂正ヲ爲ササルヘカラス唯茲ニ注意セサルヘカラサルハ從前ノ取扱ニ於テ屢々目撃シタル所謂丈量誤謬ナルモノハ多クハ予ノ謂フ所ノ誤謬ニアラサルコト是ナリ土地ノ丈量ヲ爲ス機會ニ於テ其得タル面積

カ前丈量ニ於テ定メラレタル面積ト異ナルトキハ動モスレハ丈量誤謬トシテ
其土地ノ地價ヲ訂正シタルコト從來屢行ハレタル所ナリト雖モ現今行政上ニ
於テ用ヒラルルカ如キ方法ヲ以テ土地ノ丈量ヲ爲ストキハ同一人カ同一ノ土
地ノ丈量ヲ爲スモ毎回多少ノ差違ヲ見ルヘキコト其常ニシテ若シ之ヲ以テ前
丈量ニ誤謬アルモノトセハ現行ノ地價ハ悉ク誤謬ニ因リテ成ルモノトシテ訂
正ヲ爲ササルヘカラス然レトモ行政事務ナルモノハ決シテ此ノ如キ極端ナル
施行ヲ許シモノニアラス故ニ前後ノ丈量ニ於テ反別ニ少許ノ差違アル場合ノ
如キハ決シテ前丈量ニ誤謬アリトシテ地價ノ訂正ヲ爲スヘキモノニアラサル
ナリ

地價ノ訂正ヲ爲シタル場合ニ於テハ正當ナル地價ニ依リテ地租ヲ定メ時効ニ
罹ラサル限りハ誤謬ヲ生シタル年ニ遡リテ既徴ノ地租ニ對スル差額ノ追徴又
ハ還付ヲ爲ササルヘカラス此事タル當然ノコトニシテ殆ト説明ヲ爲スハ必要
ナキモノナリト信ス

第一 地價ノ設定

現今有租地ハ皆地價ヲ有シ而シテ其地價ハ明治六七年頃ノ狀態ヲ基礎トシテ
定メラレタルモノナルコトハ既ニ述フル所ノ如シ然レトモ土地ノ所有者又ハ
其供用ノ變更ナルコトハ絶エス存スル事實ナルカ故ニ有租地ニシテ免租地ト
爲ルモノ頗ル多キカ如ク無租地ニシテ有租地ト爲ルモノ亦少カラス而シテ此
ノ如キ場合ニ於テハ地租ヲ賦課スル爲メ其標準タル地價ヲ定メサルヘカラス
ルヲ以テ地價ノ設定ナルコトハ地租事務所管廳ニ於ケル常務ノ一ヲ爲スモノ
ナリ

一 地價ヲ設定スヘキ場合

地價ヲ設定スヘキ場合ハ一言ニシテ云ヘハ從來地租ヲ賦課セサリシ土地ニ新
ニ之ヲ賦課セサルヘカラサルニ至リタルトキニ在リト謂フコトヲ得ヘシ然レ
トモ讀者ノ了解ニ便ニスル爲メ予ハ其場合ヲ細別シテ之ヲ舉示セント欲ス
(イ)官有地ヲ民有ノ有租地ト爲シタルトキ 官有地ノ拂下又ハ下渡ヲ得テ之
ヲ有租地ニ供用スルトキハ其地價ヲ設定スヘキモノトス但シ地租條例第十六
條第五項ニ依リ新開免租年期ノ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニ在ラス

(ロ) 免租地ヲ有租地ト爲シタルトキ(地租條例第一一條) 茲ニ免租地ト稱スルハ予ノ所謂無期免租地ニシテ地租條例第四條ニ規定スル土地ノミナラス特別法ヲ以テ無期ニ地租ヲ免スルコトヲ定メタルモノハ皆之ヲ包含ス地租條例第十一條ノ免租地ナルモノハ其第四條ニ規定スルモノノミヲ指スモノナルヘシト雖モ免租地ノ有租地ト爲リタルトキ其地價ヲ定ムヘキコトハ一般ニ及フヘキモノニシテ特ニ第四條ニ規定スル土地ニ限ルヘキモノニアラサルナリ

(ハ) 新開免租年期明ト爲リタルトキ(地租條例第一九條) 官有水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ニシテ新開免租年期ノ許可ヲ受ケタルモノハ民有ニ歸シタル際ニ於テハ地價ヲ設定セサルヲ以テ其年期明ト爲リ地租ヲ賦課スヘキニ至リタル時ニ於テ之ヲ設定セサルヘカラス

(ニ) 地租改正前ニ於テ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ年期明ト爲リタルトキ 地租改正ノ時ニ於テ現ニ荒地免租年期中ニ係ル土地ハ地租改正ノ時其地價ヲ定メサリシヲ以テ年期明ノトキニ於テ之ヲ設定スルコトヲ要ス茲反別ハ甚タ多カラスト雖モ現今尙ホ各地ニ於テ此ノ如キ土地アルコトヲ見

ルナリ

(ホ) 地租改正前ニ於テ開墾下年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ年期明ト爲リタルトキ 地租改正前ニ於テハ現今第二類地ト稱スル如キ土地ニハ小物成ヲ課シタルモ地租ヲ課セサリシヲ以テ地租改正前ノ墾下年期ナルモノハ一ノ免租年期ナリ而シテ此ノ如キ土地ハ地租改正ノ時ニ於テ其地價ヲ定メサリシヲ以テ年期明ノ時ニ於テ之ヲ設定セサルヘカラス

(ヘ) 地租改正當時ノ論争地ニシテ其所有者又ハ境界ノ判明シタルトキ 土地ノ所有權又ハ其境界ニ付キ論争アリテ其何人ニ屬スルヤ又ハ其境界ノ何レニ在ルヤノ判明セサリシ土地ハ地租改正ノ當時其地價ノ設定ヲ見合シタルモノ少カラス元來地租ノ標準タル地價ヲ定ムルコトト土地ノ所有權ヲ確認スルコトトハ全ク別事ニ屬スルカ故ニ論争アルノ故ヲ以テ地價ノ設定ヲ猶豫スヘキモノニアラス各自ノ占有ニ本キ一應所有者ト推定セラレル者ニ對シ地價ヲ定メテ地租ヲ徵收スルハ當然ナリト雖モ當時ノ方針ハ此ニ在ラスシテ論争ノ甚シキ其孰レカ正當ナルヤノ判別シ難キ場合ニ於テハ其土地ニハ地價ヲ定メサ

リシカ故ニ若シ其所有者又ハ經界ニシテ判明ナルニ至リタルトキハ新ニ地價ヲ定メテ其地租ヲ徵收セサルヘカラス
(下) 有租地ヲ誤テ官有地又ハ免租地ト爲シタルコトヲ發見シタルトキハ有租地ヲ誤テ官有地又ハ免租地ナリト信シ地租ヲ徵セサルコトトシ隨テ其地價ヲ定メサリシニ其官有地又ハ免租地ニアラスシテ全ク有租地ナルコト判明シタルトキハ地價ヲ設定シテ地租ヲ賦課スルコトヲ要ス

(チ) 脫落地ヲ發見シタルトキ 土地ハ地租改正ノ時並ニ明治十八九年ノ頃ニ於ケル土地整理ノ時ニ於テ精密ニ調査シタルヲ以テ有租地ニシテ土地臺帳ニ登記セラレサルモノハ殆ト之アルコトナカルヘシト雖モ多數ノ土地區劃中或ハ一二ハ記載ノ脫漏スルモノナキヲ保セス故ニ若シ脫落地ヲ發見シタルトキハ茲ニ地價設定ナルコトノ必要ヲ生スルモノナリ

(リ) 土地ノ分合ヲ爲シタルトキ 一筆ノ土地ヲ分割シテ數筆ト爲シ又ハ數筆ノ土地ヲ合併シテ一筆ト爲シタルトキハ從前ノ區域ハ各其地價ヲ有シタルモ新規ノ區域ハ未タ其地價ナキヲ以テ新規ノ區域ニ對シテハ地價ノ設定ヲ爲サ

サルヘカラス或ハ土地ノ分合ヲ爲ストキハ從前ノ地價ヲ分配又ハ併合スルニ止マルカ故ニ地價ノ設定ニアラスト論スル者アルヘシ從來諸法令中ニハ此見解ニ依リテ制定セラレタルモノ少カラサルカ如シ登録稅法又ハ明治三十二年法律第五十七號ノ如キ皆然リ法令ノ規定全體ヨリ見テ此ノ如ク解スルヲ相當トスル場合ニ於テハ其見解ニ依リテ之カ適用ヲ爲ササルヘカラサルハ無論ナリト雖モ予ハ地租條例ノ解釋トシテハ此ノ如キ見解ヲ取ラサルヘカラサルノ必要ナシト信スル者ナリ土地分合ノ場合ニ關シテハ地租條例ハ何等ノ規定スル所ナシ若シ地租條例ニシテ土地ノ分合ノ場合ニ於テ地價ノ設定アルコトヲ認メストセル分合ノ場合ニ於ケル地價ノ定メ方ニ付テハ必ス相當ノ規定アルコトヲ要スヘキニ其之ヲ規定セサルヲ以テ見ルモ地租條例ハ土地分合ノ場合ニ於テ新區域ノ地價ヲ定ムルハ地價ノ設定ニ外ナラサルコトヲ認ムルモノト謂ハサルヘカラス明治二十二年大藏省令第十九號地租條例施行細則第四條ハ反面ニ於テ明ニ地租條例カ此意義ヲ有スルコトヲ示シタルモノナリ該省令ハ明治三十二年勅令第百十一號地租條例施行規則ノ制定ト共ニ廢止セラレタリト

雖モ地租條例ノ意義ハ之カ爲メニ變シタルニアラス況ヤ地租條例施行規則第一條ハ土地ハ每筆其地價ヲ定ムルコトヲ規定シ地價ハ土地ノ各區域毎ニ之ヲ定ムルモノニシテ區域ヲ變シタルトキハ更ニ新規ノ區域ニ對シ地價ヲ設定セサルヘカラサルコトヲ明ニシタルニ於テヤ唯分合ノ場合ニ於テ地價ノ設定アリトスルトキハ地租條例施行規則第十五條第二項ヲ適用セサルヘカラサルニ至ルヘシ然ルニ土地合併ノ場合ノ如キハ類地ノ比準測量圖ノ調製等ノ如キ煩雜ノ手續ヲ爲サシムル必要ナキカ故ニ勅令ハ此ノ如キ場合ニハ地價ノ設定アリト爲ササルノ意ヲ以テ制定セラレタルモノナリト謂フヲ以テ實際ノ便宜トシ其議論ヲ唱フル者アルヘシト雖モ必要ナキカ故ニ便宜勅令ノ命シタル書類ノ提出ヲ爲サシメサル如キハ行政處分上時ニ行フヘキ活用ニシテ之アルカ爲メニ法規ノ實質上ノ意義ヲ變スヘキモノニアラサルナリ

有租地ニシテ荒地免租年期ノ許可ヲ受クルトキハ其地價ハ消滅スルモノナルヲ以テ年期明ニ至リテ原地價ニ復スル原地價ト同一ノ地價ヲ定ムルモノニシテ是レ亦一ノ地價設定ノ場合ナリト論スル者アリ地租條例カ特ニ原地價ニ復

スルコトヲ明言シ又其第二十二條ニ於テ「地價ヲ修正ス」ト謂ハスシテ「地價ヲ定ム」ト謂フヲ以テ見レハ當初立案ノ趣旨ハ或ハ論者ノ說ノ如クナリシナルヘシ然レトモ凡ソ期間ヲ定メテ租稅ヲ免スルハ期間經過後ニ於テハ再ヒ從前ノ如ク之ヲ賦課スヘキコトヲ意味スルモノナリ即チ期間中租稅ヲ徵收セサルノ外ハ他ニ何等ノ意味ナキモノト見サルヘカラス果シテ然ラハ荒地ト爲リタルカ爲メニ一定ノ年間地租ヲ免スルコトト爲ルモ其地價ハ依然トシテ何等ノ影響ヲ受クルコトナシ唯免租年中ハ地租ヲ徵收セサルカ爲メ其地價ヲ標準トシテ賦課ヲ爲スノ機會ナキノミ年期滿了シ地租ノ賦課ヲ要スルニ至リタルトキハ當然其地價ヲ標準トシテ之ヲ課スヘキモノニシテ法律カ「原地價ニ復ス」ト云フハ則チ之ヲ謂フナリ近時制定セラレタル登録稅法第五條第一項第十號カ「地租條例第二十二條ノ地價修正」ト謂ヒ地租條例施行規則第八條カ「其荒地免租年期明ニ至リ當初ノ地目ト異ナリタル土地ト爲シタルトキハ其地目ニ依リ地價ヲ修正シ地租ヲ徵收ス」ト謂フハ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタル土地ハ依然地價ヲ有スルモノニシテ之ヲ變更スルハ常ニ地價修正ト爲ルコトヲ明ニシタルモ

ノナリ故ニ荒地復舊ノ場合ヲ以テ地價設定ノ場合ナリト謂フハ當ラサルモノトス

二 地價設定ノ方法

地租條例第九條ニ依レハ地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シテ之ヲ定ムヘキモノナリ故ニ地價ヲ設定スルニハ左ノ順序ニ從フヘキモノトス

(イ) 土地ノ品位等級ヲ詮定スルコトヲ要ス 租稅ノ負擔ハ公平ナルヲ要スルカ故ニ地價ハ常ニ近傍類地ト均衡ヲ保ツコトヲ必要トス故ニ地價ヲ定メントセハ先ツ其地ヲ近傍類地ニ比較シテ其品位等級ヲ詮定シ以テ設定地價ノ近傍類地ノ地價ニ比シ不權衡ナキコトヲ期セサルヘカラス

(ロ) 土地ノ所得ヲ審査スルコトヲ要ス 土地ノ所得ハ其價額ノ要素ヲ爲スモノナルカ故ニ所得ニ依リテ地價ヲ查案スルハ最モ公平ヲ得ルニ近キモノトス故ニ地價ヲ設定セントセハ能ク其地ノ所得ヲ審査セサルヘカラス地租改正當時ニ於ケル地價算出方法ハ土地ノ純益ニ依リ地價ヲ定ムルノ方法トシテハ尙ホ

未タ盡ササル所アルヲ免レサリシト雖モ當時ノ趣旨ハ地價ハ土地ノ純益ヨリ還元シテ之ヲ定ムルニ在リタルコトハ何等ノ疑ヲ容レズ地租條例ノ精神モ亦大體ニ於テハ茲ニ在リテ存スルコト第九條カ特ニ土地ノ所得ヲ審査スヘキコトノ規定スルヲ以テ明ナリト謂ハサルヘカラス

(ハ) 土地ノ情況ヲ斟酌スルコトヲ要ス 土地ノ價額ハ大體ニ於テハ其所得ニ比例スルモノナリト雖モ所得ハ其唯一ノ要素ニアラス交通ノ便否、權災ノ多少其他種種ノ原因相集リテ其價額ヲ定ムルモノナルヲ以テ單ニ所得ノミニ着眼シテ地價ヲ設定スルトキハ其地價ハ多クノ場合ニ於テ實地ニ適當セサルモノナルコトヲ免レス故ニ其土地ノ情況ニ應シ多少ノ斟酌ヲ加ヘサルヘカラス地租條例第九條ノ規定ヲ分析スルトキハ右ニ擧ケタル三段ノ順序ト爲ルモノナリ然レトモ土地ノ品位等級ハ其所得及ヒ諸般ノ情況ニ依リテ定マルモノナルヲ以テ所得ヲ審査シ且ツ諸般ノ情況ヲ調査スルハ則チ其地ノ品位等級ヲ詮定スルモノニシテ所得審査及ヒ情況調査ノ外ニ於テ尙ホ品位等級ノ詮定ナル特別ノ手段アルニアラス故ニ該條ノ意義ハ地價ハ土地ノ所得ニ依リ實地ノ情

況ヲ斟酌シテ之ヲ定ムヘキモノト爲スニ在リト謂フコトヲ得ヘシ
地租條例ノ規定スル地價設定方法ハ實ニ此ノ如シ然レトモ此方法ヲ嚴格ニ實
行スルハ實ニ困難ニシテ殆ト言フヘクシテ行フヘカラサルコトニ屬ス今其困
難ナル事情ノ主要ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

(a) 所得ノ計量ニハ甚シキ手數ヲ要ス 地價ヲ設定スヘキ土地各筆ニ就キ悉
ク其所得ヲ計量セントセハ其手數タル勝ケテ言フヘカラス假ニ坪苜等ノ方法
ヲ用フルトスルモ多數ノ筆數ニ就キ一一坪苜ヲ爲ストキハ官民ノ勞費ハ實ニ
測ルヘカラス加フルニ坪苜ノ場所又ハ其計數ニ付キ検査官吏ト土地所有者ト
ノ間ニ意見ヲ異ニスルコトナキヲ保セス爲メニ往往官民間紛議ノ因ト爲ルコ
トナレトセス

(b) 所得ノ計量ニハ多クノ時日ヲ要ス 土地ハ年ニ因リテ豊凶アルヲ免レサ
ルヲ以テ實地ノ所得ヲ計量セント欲セハ少クトモ二三年間ノ所得ヲ平均シテ
之ヲ定メサルヘカラス故ニ實際ノ所得ヲ計量シテ地價ヲ定ムルニハ二三年ノ
時日ヲ費ササルヘカラス此ノ如キ行政事務ハ得テ之ヲ敏捷ニ措辦スヘカラサ

ルナリ

(c) 現時ノ所得ヲ以テ直チニ地價ヲ定ムルトキハ甚シキ不權衡ヲ生ス 現今
ノ有租地ハ多クハ明治六七年ノ頃ノ所得ニ依リ其當時ノ物價ニ本キテ其地價
ヲ定メタルモノナリ故ニ或土地ニ付キ今日ノ所得ニ依リ今日ノ物價ニ本キテ
地價ヲ定ムルトキハ同一地目ニシテ而モ其地力ノ相若ケル土地ニシテ其地價
ハ一ト二又ハ三トノ比例ノ如キ甚シキ不權衡ヲ呈スルニ至ルヘシ法律ノ規定
ニ本クト謂フト雖モ此ノ如キハ之ヲ穩當ナルモノト謂フコト能ハス

實地ノ所得ヲ審査シ之ニ依リテ地價ヲ定ムルノ困難ナルコト此ノ如シ故ニ實際
ニ於テハ多クハ類地地價ニ比準シ之ト權衡ヲ計リテ其地價ヲ定ムルノ方法ヲ取
レリ予ハ此方法ヲ以テ地租條例第九條ノ規定ニ反スルモノニアラスト爲ス者
ナリ何トナレハ現今一般有租地ノ地價ハ地租改正ノ時又ハ其後ニ於テ土地ノ
地價ハ其所得ニ依リ實地ノ情況ニ應シテ之ヲ定ムルノ精神ニ依リテ定メラレ
タルモノナルカ故ニ之ニ比準シテ地價ヲ定ムルハ正シク土地ノ所得ニ依リ實
地ノ情況ヲ斟酌シテ地價ヲ定ムルモノナルヲ以テナリ地租條例第九條カ地價

ヲ定ムルニハ「其他ノ品位等級ヲ詮定ス」ヘキコトヲ規定スルハ則チ類地比準ノ方法ヲ以テ所得比例ノ精神ヲ行フヲ妨ケサルコトヲ明ニスルモノト謂ハサルヘカラス

類地比準ノ方法ニ依リ地價ヲ定ムルニハ左ノ順序ニ從フヘキモノトス
い 土地ノ丈量 地價ヲ定ムルハ其地ノ面積ヲ知ラサルヘカラサルカ故ニ先ツ其地盤ヲ丈量スルコトヲ要ス(地租條例第六條)而シテ此事タル法律ノ命令的規定ニ出ツルモノナルヲ以テ既ニ面積ノ土地臺帳ニ登載セラルル土地ト雖モ其地價ヲ定ムルトキハ必ス地盤ヲ丈量セサルヘカラス蓋シ法律ノ意ハ機會アラハ常ニ丈量ヲ爲シ以テ公簿記載ノ土地面積ヲシテ力メテ正確ノモノタラシメントスルニ在ルモノトス

丈量ノ方法ハ法令ニ於テ之ヲ限定セス現今土地ノ反別ハ多クハ三斜法ヲ用ヒ弦及ヒ中鈎ノ距離ヲ測リテ算定シタルモノナリト雖モ必スシモ此方法ニ依ラサルヘカラサルニアラス三角法ニ依リ三邊ノ距離ヲ得テ算定ヲ爲スモ亦何等ノ妨ケアルモノニアラス但シ尺度及ヒ面積ノ稱呼ハ地租條例第五條ニ於テ之ヲ一

定スルヲ以テ之ニ依ラサルヘカラス

ハ 地力ノ比準 無租地ヲ有租地ト爲ストキハ其地ノ狀況又ハ供用ノ目的ニ依リ地目ヲ附シ之カ地價ヲ定ムヘキモノナルヲ以テ(地租條例第一一條)地租條例施行規則第一一條(近傍ニ於テ其地目ト同一ノ地目ヲ有スル有租地ニ比シテ其地方ヲ考較シ若シ地力相若ケルトキハ之ヲ同等ト爲シ一反歩同一ノ地價ヲ附スヘキモノニシテ若シ地力之ニ優ルコト一等又ハ之ニ劣ルコト一等ナルトキハ土地ノ等級ニ優劣アルモノト爲シ一反歩當地價ハ或ハ之ヨリ一等ヲ上シ或ハ之ヨリ一等ヲ下スヘキモノトス而シテ實際ニ於テハ各市町村又ハ大字ニ於テハ其部内有租稅地ノ等級ヲ定メ各等ニ於ケル一反歩當地價即チ所謂反金ナルモノヲ有スルヲ以テ地力ノ比準ニ依リ其地ノ等級定マルトキハ其地ニ適用スヘキ一反歩當地價ナルモノハ之ト同時ニ確定スルモノナリ但シ茲ニ注意セサルヘカラサルハ一筆ノ土地ハ必スシモ同一ノ形狀ヲ有スルモノニアラス或土地ハ稍ヤ廣キ畦畔又ハ崖脚ヲ有シ他ノ土地ハ全ク之ヲ有セサルコトアリ若シ此ノ如キ場合ニ於テ其主要ノ部分ニ付テノミ等級ヲ定メ其等級ニ相當ス

ル反金ヲ以テ直チニ其地價ヲ定ムルハ地力比準ノ趣旨ニ適スルモノニアラサ
ルコト是ナリ此ノ如キ土地ハ二者同一ノ面積ヲ有スルモ其收益ハ必ス相同シ
カラス故ニ稍ヤ廣キ畦畔崖脚等アル土地ハ相當ノ斟酌ヲ加ヘテ其等級ヲ下ス
カ又ハ主要ノ部分ト畦畔崖脚等トニハ適用スヘキ反金ヲ異ニスル等相當ノ注
意ヲ加ヘ以テ地力ノ真正ノ比準ヲ爲シ常ニ地價ハ大體ニ於テ所得ニ比例セサ
ルヘカラサルノ精神ヲ失ハサルコトヲ期セサルヘカラス
地力ノ比準ヲ爲スニ當リテハ地價ヲ定メントスル土地ノ現在ノ所得ヲ根據ト
シテ之ヲ類地ニ比較スヘキモノナリト雖モ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土
地ニシテ歛下年期ノ許可ヲ受クルトキ其地價ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ法律ノ
特別規定アルヲ以テ此原則ニ依ルコト能ハス地租條例第十三條第四項ニ依レ
ハ此場合ニ於テハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定ムヘキモノナルヲ以テ現
在ノ地力ニ依ラス素地即チ人爲ニ本ク生産力ノ加ラサル時ノ地力ヲ推想シ之
ニ依リテ比準ヲ求メ素地ナリシナラハ有スヘカリシ等級ニ本キ之カ地價ヲ定
ムヘキモノトス

ハ 地價ノ計算 丈量ニ依リテ土地ノ面積ヲ確メ比準ニ依リテ之ニ適用ス
キ反金ヲ得ルトキハ剩ス所ハ唯机上ノ計算アルノミ而シテ計算上一錢未滿ノ
端數ヲ生シタル場合ニ於テハ四捨五入ノ方法ニ依リ地價ハ總テ錢位ニ止ムヘ
キモノトス(明治三十二年法律第五十七號)

地價ノ設定ハ所得審査狀況斟酌ニ依リテ之ヲ爲スヘク類地比準ハ實ニ此趣旨
ニ成リタル便宜ノ方法ナルコト以上略述スル所ノ如シ而シテ予ハ土地ノ分合
ノ場合ニ於テハ地價ノ設定ヲ要スルモノナリト信スルカ故ニ分合ニ因リテ新
ニ生シタル土地區域ニ對スル地價ハ以上述ヘタル所ニ從ヒテ之ヲ定ムヘキハ
當然ナリ然レトモ土地ノ分割又ハ合併トハ其區域ヲ變更スルニ止マリ其形狀
又ハ供用ヲ變更スルモノニアラサルカ故ニ土地ノ分合ハ之ヨリ生スル所得其
他地價ノ基礎タルヘキ諸種ノ原因ニ影響ヲ及ボササルヲ常トス果シテ然ラハ
土地分合ノ場合ニ於テ所得審査又ハ類地比較ヲ以テ其各筆ノ地價ヲ定ムルト
キハ自ラ從前ノ地價ヲ分配シ又ハ之ヲ併合シテ其地價ヲ定メタルト同一ノ結
果ニ歸スルニ至ラサルヲ得ス故ニ寧ロ初ヨリ數筆ノ土地ヲ合併シテ一筆ト爲

シタルトキハ其地價合計額ヲ以テ其土地ノ地價ト爲シ一筆ノ土地ヲ分割シテ數筆ト爲シタルトキハ各筆ノ地位等級ニ應シ分割前ノ地價ヲ分配シテ其地價ト爲スノ簡ニシテ便ナルニ若カサルナリ予ハ實際ニ於テハ此簡便法ヲ取ラシムコトヲ希望シテ已マス

三 地價設定ニ伴フ納稅義務ノ區分

地價ヲ設定スルハ土地分合ノ場合ヲ除クノ外ハ從來無租地タリシモノカ新ニ有租地ト爲リ地租ヲ賦課スルヲ要スルニ至リタルニ依ルモノナリ故ニ地價ヲ設定シタルトキハ之ニ依リテ地租ヲ徵收セサルヘカラス若シ年ノ初日即チ一月一日ニ於テ地價ヲ設定シタルトセハ其年ノ地租ハ全額納付ノ義務アルヘキハ論ナシト雖モ年ノ央ニ於テ地價ヲ設定シタルトキハ其年ノ地租ニ付テハ所有者又ハ質取主ハ金額納付ノ義務ヲ有スルモノナルヤ將タ一部ヲ納付スレハ足レリトスヘキヤ此問題ノ解決ハ則チ予カ所謂納稅義務ノ區分ナルモノヲ爲スモノナリ

地租條例第一條ニ依レハ「地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス」ト爲

シテ年ヲ以テ租率ヲ定メ其第十四條第十五條及ヒ第二十五條ハ「其年ヨリ地租ヲ徵收ス」ト定メ「翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス」ト爲シ又ハ「欺隱年間ノ地租ヲ追徵ス」ト言フ而シテ年額ヲ徵セサルトキハ第十三條第二項ノ如ク特ニ月割ヲ以テ之ヲ徵收スヘキコトヲ明言ス故ニ地租條例ノ趣旨ハ地租ヲ以テ年稅ト爲シ土地ニ對シ年年之ヲ賦課スルニ在ルヤ明カナリ既ニ地租ヲ以テ年稅ト爲ス以上ハ納稅義務ノ生シタル時ハ何レノ時ニ在ルヲ問ハス苟モ義務アルニ至リタルトキハ所有者又ハ質取主ハ其年ノ地租全額ヲ納ムル義務アルモノト謂ハサルヘカラス隨テ年ノ央ニ於テ地價ヲ設定シタル場合ト雖モ法律ニ特ニ例外ナキ限リハ其地價ニ依リ算出シタル地租ノ年額ヲ納メサルヘカラス此場合ニ於テ既ニ納期ノ經過シタル租額ハ一時ニ之ヲ納付スルヲ要スルモノトス地租ヲ以テ年稅ト爲スコトヲ以テ誤リナシトセハ予ハ此論結ヲ以テ當ヲ得タルモノナリト信ス然レトモ實際ノ取扱ニ於テハ此ノ如クナラス既ニ納期ノ經過シタルモノハ之ヲ納ムルニ及ハスト爲スモノノ如シ是レ後ニ説明スヘキカ如ク地租ハ納期ニ於ケル土地臺帳記名者ヨリ徵收スヘキモノナルヲ以テ有租地ノ官有

地ト爲リタル場合ニ於テハ其後ニ屬スル納期ニ於テ納ムヘキ地租ハ自ラ之ヲ納メスシテ可ナルニ至ルヲ以テ官有地ノ有租地ト爲リタル場合ニ於テモ既ニ過キタル納期ニ於テ納ムヘカリシ地租ハ之ヲ納ムルニ及ハスト爲シ以テ其權衡ヲ計ルヲ以テ穩當ナリト爲シタルナルヘシ

無租地カ有租地ト爲リタルトキハ地租ヲ徵收セサルヘカラス地租ヲ徵收スルニハ之カ標準タルヘキ地價ナカルヘカラス故ニ無租地ニシテ有租地ト爲リタルトキハ直チニ地價ヲ設定シ法律ニ特別ノ規定ナキ限リハ其年ヨリ之ニ依リテ地租ヲ徵收スヘキモノナリ然ルニ若シ何等カノ事故ニ因リ無租地カ有租地ト爲リタル時ニ地價ヲ設定セスシテ後年ニ至リ之ヲ設定シタルトキハ其地ノ地租ハ時効ニ罹ラサル限リ最初有租地ト爲リタル年ヨリ之ヲ徵收スヘキヤ將タ事實地價ヲ設定シタル年ヨリ之ヲ徵收スヘキヤ此問題ハ地租ニ關スル問題中ニ於テ議論ノ多キモノノ一ヨリ今兩說ノ主要ナル議論ヲ擧ケ然ル後予ノ之ニ對スル所見ヲ記述セントス

甲說 地租ハ最初有租地ト爲リタル年ヨリ之ヲ課スルコトヲ要ス其理由左ノ

如シ

(イ) 明治七年大政官布告第百二十號地所名稱區別ニ依レハ民有地第一種ハ「地租ヲ課シ地方稅ヲ賦スルヲ法トス」ト爲ス故ニ土地ニ係ル納稅義務ハ其民有地第一種即チ地租條例ノ所謂有租地ト爲リタル時ニ於テ發生スルモノナリ

(ロ) 地租條例第三條ハ「有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス」ト爲シ其類別中ニ田畑宅地、山林等ノ各地目ヲ掲記ス故ニ地租條例ハ田畑、宅地、山林等ハ地價ノ有無ニ拘ラス地租ヲ負擔スヘキ土地ナルコトヲ認ムルモノナリ

(ハ) 地租條例第二十五條ハ「土地ヲ欺隱シ地租ヲ逋脫スルモノハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス」ルコトヲ定ム若シ地價設定前ニ地租納付ノ義務ナシトセハ欺隱シタル土地ノ如キ地價ナキモノハ逋脫スヘキ地租アルヘキ理ナシ然ルニ法律カ地價ナキ土地ニ付キ尙ホ「地租ヲ逋脫ス」ト言フヲ以テ見レハ地租納付ノ義務ハ地價ノ設定ニ因リテ始メテ生スルモノニアラサルコトヲ知ルヘシ

(三) 若シ地價設定ノ年ヨリ始メテ地租ヲ徵收スヘキモノトセハ地價ノ設定ナルモノハ偶然ノ事實又ハ過失怠慢等ニ因リ延引スルコトアルモノナルカ故ニ地租納付ノ義務ハ偶然ノ事實又ハ過失怠慢等ノ有無ニ因リ其發生ノ時期ヲ異ニスルモノト謂ハサルヘカラス租稅ノ負擔ハ衡平ヲ主眼トスヘキモノナルニ地租條例カ過失怠慢等ノ存シタル場合ニ於テハ却テ地租ノ賦課ヲ爲ササルコトヲ規定スルモノナルコトハ想像スヘカラサルコトナルヲ以テ地價設定ノ年ヲ以テ納稅義務發生ノ年ト爲スコト能ハス

乙說 地租ハ地價設定ノ年ヨリ之ヲ課スルコトヲ要ス其理由左ノ如シ

(イ) 地價ヲ設定シ之ニ依リテ其地ノ有租地ト爲リタル年ヨリ地租ヲ徵收セントスルハ行政處分ノ效力ヲ既往ニ遡ラシムルモノナリ凡ソ處分ノ效力ヲ遡及セシムルコトハ例外ニ屬スルカ故ニ法律ノ明文アルコトヲ要ス然ルニ地租條例ハ第二十五條第二十六條及ヒ第二十七條ニ於テ追徵ナルコトヲ定ムルノ外遡及ノコトヲ規定スル所ナシ故ニ地租ハ原則トシテハ地價設定ノ年ヨリ之ヲ徵收セサルヘカラス

(ロ) 地租條例第一條ハ地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トスルコトヲ定メ其但書ヲ以テ地價ハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フト爲スヲ以テ土地臺帳ニ地價ヲ掲クルニアラサレハ地租ヲ徵收スルコトヲ得ス故ニ地價ノ設定ハ地租納付義務ヲ生スル根源ナリ

(ハ) 地租ニシテ當然其地ノ有租地ト爲リタル年ヨリ徵收スヘキモノナリトセハ地租ニ關シテ追徵ナルコトヲ規定セサルモ當然追徵ヲ爲スヘキモノナリ然ルニ第二十五條以下第三條カ特ニ地租又ハ地租増額ヲ追徵スヘキコトヲ定メタルハ之ナケレハ追徵ヲ爲スコト能ハサルニ因ルモノト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ地租條例ハ原則トシテハ地租ハ地價設定ノ年ヨリ之ヲ徵收スヘキコトヲ認ムルモノナリ

予ハ右兩說中甲說ニ左袒スルモノナリ乙說論者ハ效力遡及ハ法律ノ明文ヲ要スト爲ス然リ法律ノ規定アルニアラサレハ遡及ノ力ヲ生セス然レトモ法律ハ必スシモ效力ノ遡及スヘキコトヲ明言スルヲ要セス效力ノ既往ニ及フヘキ意義ヲ有スル規定アレハ足レリ地所名稱區別カ民有地第一種ニハ地租ヲ課スト

定メ地租條例カ田畑、宅地、山林等ヲ稱シテ有租地ト爲スハ則チ民有地ヲ一種即チ田畑、宅地、山林等ノ如キ地目ト爲リタル土地ニハ其時ヨリ地租ヲ課スルノ意義ヲ現ハシタルモノニシテ即チ之ヲ效力遡及ノ意義ヲ有スル規定ナリト謂フテ可ナリ又乙説論者ハ地租條例第一條ニ依レハ土地臺帳ニ地價ヲ掲クルニアラサレハ地租ヲ徵收スル能ハサルカ故ニ地價ノ設定ハ地租納付ノ義務ヲ生スル根源ナリト謂フト雖モ此ノ如キハ地租條例ノ正解ナリト謂フコト能ハス地租條例第一條ハ地租ハ地價ノ百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率ト爲スコトヲ定メタルヲ以テ法律ニ何等ノ規定ナキトキハ地租ハ土地ノ賣買價格百分ノ二箇半ヲ以テ其一年ノ定率ト爲スコト爲ルヘシ地租條例第一條但書ハ此ノ如キ解釋ヲ生セサラシムルカ爲メ特ニ地價トハ土地臺帳ニ掲クル價額ニシテ實際ノ賣買價格ニアラサルコトヲ明ニシタルノミ地價ハ地租賦課ノ標準ナリ法律カ課稅ノ標準ハ公簿ニ登記シタル法定ノ價額ナリト規定シタルカ爲メニ土地ノ負擔ハ課稅ノ標準ヲ公簿ニ登記シタル時ニ於テ始マルモノナリトノ論結ヲ生スルモノニアラス地價ヲ定ムルニアラサレハ地租ノ額ヲ確定スルコト能

ハサルハ無論ナリ然レトモ此ノ如キハ稅額ノ確定セサルモノト謂フノミ納稅義務ノ確定セサルモノト謂フニアラス土地ハ有租地ト爲レハ茲ニ地租ヲ負擔セサルヘカラサルヲ以テ地租納付ノ義務ハ此時ニ於テ既ニ確定スルナリ唯地價ノ設定アルマテハ地租額確定セサルヲ以テ事實上地租ノ徵收ハ不能ニ屬スト謂フニ過キス地價ニシテ一タヒ設定セラルルトキハ茲ニ地租ノ金額確定ス地租ノ金額確定シタルトキハ茲ニ地租ノ徵收ヲ爲スコトヲ得地租ノ徵收ヲ爲ストセハ其義務ノ發生シタル時ヨリ之ヲ爲ササルヘカラス而シテ義務ハ標準ノ定マリタル時ニ於テ發生スルニアラスシテ土地カ有租地ト爲リタル時ニ於テ發生スルモノナルカ故ニ地租ノ徵收ハ此時ヲ以テ起點ト爲ササルヘカラス地租條例第二十五條以下ニ於テ地租ヲ追徵スルコトヲ特ニ規定シタルカ爲メニ地價設定前ニハ地租ヲ納ムル義務ナシト謂フニ至リテハ其論據ノ薄弱ナルニ驚オサルヲ得ス第二十五條以下第三條ニ於テ特ニ地租ノ追徵ナルコトヲ明言シタルハ現地價ニ依リテ定メタル地價ニ依リテ地租又ハ地租増額ノ追徵ヲ爲スヘキコトヲ明ニ且ツ其追徵ハ三年前ニ遡ラサルコトヲ定ムルノ必要ア

ルニ因ルモノナリ之ヲ以テ地價設定前ニ於ケル地租ヲ徵收スルカ爲メニ追徵ナル明言ヲ爲シタルモノト謂フコトヲ得ス特ニ論者ノ議論ハ此點ニ於テ自家種着ナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ地價設定前ニ於テハ地租納付ノ義務ナキモノナリトセハ第二十五條以下三條ニ規定スル如キ土地ニ付テハ追徵スヘキ地租ナルモノアルコトナシ追徵スヘキ地租ナキコトヲ證明スルニ之ヲ追徵ストノ法文ヲ引用スルハ論理ノ一貫セサル所アルヲ免レサルヲ以テナリ故ニ予ハ乙說ヲ取ラス甲說ヲ以テ地租條例其他地租ニ關スル現行法規ノ正當ナル解釋ナリト信ス然レトモ乙說ニ從フトキハ法律ニ明文アル場合ノ外ハ地租ノ追徵ナルモノヲ認メサルカ故ニ行政處分ノ遲延シタルカ爲メ一時ニ多額ノ地租ヲ課セラルルカ如キコトヲ生セサルノ便アリ現今實際ノ取扱ハ專ラ乙說ニ依ルモノノ如シ

地租ハ年稅ナルカ故ニ土地カ地租ヲ課スヘキモノト爲リタルトキハ納期ノ經過シタル租額ヲ不問ニ付スルト否トハ別問題トシ原則トシテハ其年ヨリ全額ヲ徵收スヘキモノナルコトハ以上述フル所ノ如シ此原則ハ次ニ掲クル場合ニ

於テ特例ヲ有ス

(イ) 官有地ノ拂下ヲ受ケテ有租地ト爲シタルトキ(明治十年大政官布告第十八號) 此場合ニ於テハ拂下ノ年ハ其翌月ヨリ月割ヲ以テ地租ヲ徵收スヘキモノニシテ全額ヲ徵收スヘキモノニアラス但シ拂下トハ代價ヲ支拂ヒテ所有權ヲ取得スルコトヲ謂フカ故ニ無代下渡ヲ得タル土地ハ月割徵收ヲ爲スヘキモノニアラス原則ニ從ヒ全年分ノ地租ヲ徵收セサルヘカラス

(ロ) 鄉村社地墳墓地用惡水路溜池隄塘井溝鐵道用地及ヒ公衆ノ用ニ供スル道路ニシテ公共團體ニアラサル者ノ所有ニ係ルモノヲ有租地ト爲シタルトキ(地租條例第一三二條) 茲ニ掲クル土地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受ケサルヘカラス(地租條例第一一條)而シテ其年ハ許可ヲ得タル月ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ地租ヲ徵收スヘキモノトス

(ハ) 砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止シ又ハ制限シタル土地ニシテ其禁止又ハ制限ヲ解キタルトキ(明治三十二年勅令第三百七十四號第三條) 此場合ニ於テハ禁止又ハ制限ヲ解キタル月ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ其年ノ地租ヲ徵收スヘキ

モノトス明治三十二年勅令第三百七十四號第三條ハ月割ヲ以テ地租ヲ徵收スヘキコトヲ明言セスト雖モ禁止又ハ制限ヲ解キタル月マテ地租ヲ免除スト言ヘハ自ラ其翌月ヨリ月割ヲ以テ之ヲ徵收スヘキノ意義ヲ有スルモノト謂ハサルヘカラス

(三) 公共團體ニ於テ公用ニ供スル土地ニシテ公用ヲ廢止シタルトキ(明治三十三年法律第十九號) 法律ハ公用廢止ノ年マテ地租ヲ免スヘキコトヲ定メタルヲ以テ其年ハ地租ヲ課セス翌年ヨリ之ヲ徵收スヘキモノナリ公立學校水道用地及ヒ傳染病豫防法ニ依ル傳染病院隔離病舎隔離所消毒所ノ敷地ハ公共團體ニ於テ公用ニ供スル土地ナルヲ以テ總テ明治三十三年法律第十九號ノ適用ヲ受クヘキモノトス隨テ地租條例第十三條第二項ハ公立學校ニ關シテハ其適用ヲ失ヒ明治三十一年法律第四號ハ自ラ廢止セラレタルモノト謂ハサルヘカラス

(ホ) 新開免租年期ヲ有スル土地ニシテ年期明ト爲リタルトキ(地租條例第一五條) 新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス免租年期ハ全年ヲ以テ計算ス

ルカ故ニ年期明ノ翌年ヨリ課稅スルハ是レ正シク原則ニ適スルモノニシテ或ハ之ヲ特例ト見サルヲ可トスルナルヘシ

土地分合ノ場合ニ於テハ地價ヲ定ムト謂フト雖モ他ノ場合ノ如ク全ク地價ナキ土地ニ地價ヲ附スルト異ナリ地價ヲ有シ且ツ地租ヲ負ヒタル土地ノ區域ヲ變シタル爲メ新區域ニ對シテ地價ヲ定ムルノミ而シテ其地價ノ設定タルヤ從前ノ地價ヲ分配又ハ併合スルヲ以テ簡便ト爲スヘク實際ニ於テモ殆ト皆此ノ如キ方法ヲ取ルモノノ如クナルヲ以テ納稅義務ノ區分ノ如キ問題ハ起ラサルヘシ然レトモ分合ニ際シテハ四捨五入ノ計算ノ爲メ前後租額ニ小差違ヲ生スルコトアルヲ以テ其年ハ孰レノ租額ヲ以テ地租ヲ徵收スヘキヤハ一疑問タラサルニアラス予ノ考フル所ニ依レハ此ノ如キ場合ニ於テハ租額ニ彼此ノ區別ヲ爲サス納期ニ於ケル現在ノ計算ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノナリト信ス

第二 地價ノ修正

地租ノ沿革ヲ叙スルニ當リテ畧述シタル如ク地租改正當時ニ於ケル立法者ノ意ハ地價ヲシテ常ニ土地ノ賣買實價ニ伴ハシメントスルニ在リシモノノ如シト

雖モ改正事業ノ困難ニシテ各地畫一ヲ得ルノ容易ナラサル頓テ當局者ヲシテ此ノ如キハ衡平ヲ得ルノ法ニアラサルコトヲ感知セシムルニ至リ終ニ一定ノ年間ハ地價ヲ据置キ其經過スルヲ待テテ一整ニ之カ改正ヲ爲スノ方針ヲ取ラシムルニ至レリ然レトモ實際ノ經驗ハ此第二ノ方針モ亦言フヘクシテ行フヘカラサル事ニ屬スルコトヲ明ニシ明治十七年地租條例ヲ制定セラルルニ及ヒ其第八條ヲ以テ一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘキコトト爲シタリ明治七年第五十三號布告ハ地價ヲシテ法定的ノモノタラシムル第一歩ナリシニハ相違ナシ然レトモ該布告ハ尙ホ一定ノ年間後ハ地價ヲシテ賣買實價ニ一致セシムヘキコトヲ豫期スルモノナルカ故ニ地價ノ法定的ナルハ唯其期間中ニ於テノミナリト謂フコトヲ得ヘシト雖モ地租條例ハ更ニ一歩ヲ進メ地租ノ改正ハ法律ノ制定ニ因リテ始メテ之ヲ爲スヘキコトヲ明ニシタルヲ以テ地價ハ地租條例ニ依リテ固定不動ノモノト爲リ純然タル法定價格ト爲リタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ今日ニ於テハ地價ヲ變更セントセハ獨リ其一般ノ修正ニ於テ法律ノ制定ヲ要スルノミナラス其一部ノ修正ニ於テモ亦

必ス法律ノ規定アルコトヲ要スルモノトス地租條例第七條カ「地價ハ地目變換開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキニ非サレハ之ヲ修正セス」ト規定シタルハ此趣旨ヲ明ニシタルモノナリ該條カ後ニ説明スヘキカ如ク地價修正ヲ爲スヘキ場合ノ全部ヲ包含セサルハ規定ニ不備アルヲ免レスト雖モ元來第十條以下ノ規定アレハ該條ノ如キハ之ヲ掲クルノ必要極メテ少キモノナルヲ以テ規定完備ヲ缺クモノ實際ニ於テハ甚シク事ニ害アルモノニアラサルナリ

一 地價ヲ修正スヘキ場合

地價ナルモノハ地租計算ノ標準ニ過キサカ故ニ苟モ彼此ノ權衡ニシテ其當ヲ得タランカ地租ノ負擔ハ自ラ衡平ヲ得ヘク標準タルノ效ハ茲ニ完キヲ得ルモノナリ其賣買實價ニ適合スルト否トノ如キハ問ハスシテ可ナリ現行地價ノ現時ノ土地價格ト一致セサルコトハ殆ト言フヲ須タサル所ナリト雖モ當初之ヲ設定セラルルニ當リテハ縣ヨリ郡ニ及ホシ郡ヨリ町村ニ及ホシ以テ一筆ニ至リ彼此相比較考量シテ之ヲ定メタルモノナルカ故ニ其間ニ於ケル權衡ハ先ツ相保タレタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ之ヲ標準トシテ地租ヲ課スルハ

之ヲ以テ土地所有者間ニ不公平ナキニ庶幾キモノト謂ハサルヘカラス然レトモ彼此權衡ヲ得タリト謂フハ其當時ノ現狀ニ於テ之ヲ謂フモノナルヲ以テ其狀況ニシテ著シク變更スルトキハ其權衡ハ自ラ之ヲ保ツコトヲ得サルニ至ルヘシ隨テ勢ヒ其變更シタル狀態ニ依リテ更ニ彼此ノ權衡ヲ測リ以テ其地價ヲ修正スルニアラサレハ之ヲシテ適當ナル課稅標準タラシムルコト能ハス故ニ地租條例ハ土地ノ形狀ニ著シキ變更アリテ其利用ノ狀態全ク一變シタルカ如キ場合ニ於テハ地價ヲ修正スヘキモノト爲スヲ以テ其現況ニ應シタル賦課ヲ受ケシメントセリ予ハ今左ニ其場合ヲ列舉シ簡短ニ其説明ヲ加ヘントス

(甲) 地目變換ヲ爲シタルトキ

地目變換トハ有租地中ノ第一類又ハ第二類ニ屬スル或地目カ同類地中ノ他ノ地目ニ變スルヲ謂フ(地租條例第三條第二項)例ヘハ畑ヲ田ニ變シ郡村宅地ヲ畑ニ變シ山林ヲ牧場ニ變スルカ如シ此場合ニ於テハ土地ノ利用ノ狀態ヲ變更スルヲ以テ自ラ其收益ニ異同ヲ生スヘシ故ニ法律ハ其地價ヲ修正シテ同地目ノ他ノ土地ニ對スル權衡ヲ取り以テ地租ノ負擔ヲシテ公平ナラシムルヲ相當ト

爲シタリ(地租條例第七條但シ地租條例第七條及ヒ地目變換地ノ地價修正ニ關スル法文ハ總テ地目變換ヲ爲シタル場合即チ土地所有者カ其意思ヲ以テ土地ノ利用方法ヲ變更シタル場合ニ付テ規定スルカ故ニ所有者ノ意思ニ因ラサル地目ノ變換ノ場合即チ法律ヲ以テ地目ヲ組換ヘタル場合ニ於テハ其適用ヲ見サルモノトス故ニ明治三十二年法律第三十二號宅地組換法ニ依リ命令ヲ以テ郡村宅地ヲ市街宅地ニ組換ヘ又ハ市街宅地ヲ郡村宅地ニ組換フルコトアルモ其地價ハ修正スヘキモノニアラサルナリ

地目變換ノ場合ニ於テハ地價ノ修正ヲ爲スヘキモノナリト雖モ其變換ノ狀態如何ニ因リ法律ハ修正ヲ爲スヘキ時期及ヒ修正地價ヲ適用スヘキ時期ヲ異ニシタルヲ以テ予ハ法律ノ區別ニ從ヒ場合ヲ細別シテ説明ヲ爲スヘシ

(イ) 地目變換ニシテ開墾ニ等シキ勞費ヲ要セサルモノ(地租條例第一〇條第二項) 土地所有者カ地目ノ變換ヲ爲スハ多クハ其土地ノ形狀位置カ變換ヲ爲スニ便宜多キヲ以テ之ヲ爲スモノナルヲ以テ地目變換ハ通常甚シキ勞費ヲ要スルモノニアラス此ノ如キ土地ハ變換ノ年ヨリ五年以内ニ於テ適宜其地價ヲ修

正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノトス變換ノ年ニ於テ直
チニ地價ヲ修正スヘキモノト爲サスシテ五年間ノ猶豫ヲ置キ其間ニ適宜修正
ヲ爲スヘキモノト爲シタル法律ノ趣旨ハ年年變換地ノ検査ヲ爲スノ勞力ヲ省
キ五年間ニ生シタル變換地ヲ一纏ト爲シ五年毎ニ一回ノ検査ヲ以テ其整理ヲ
了セントスルニ在リタルモノノ如シ然レトモ實際ニ於テハ此趣旨ノ行ハレタ
ルヤ否ヤハ頗ル疑ハシキモノアルニ似タリ

(ロ) 地目變換ニシテ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノ(地租條例第一四條第一六
條第六項第一九條) 普通ノ地目變換ハ多クハ地勢ノ便宜ニ依リテ之ヲ爲スモノ
ナルカ故ニ變換ヲ爲スト同時ニ變換シタル地目トシテノ利用ヲ完ウスルコト
ヲ得ヘシト雖モ土地ノ形狀如何ニ因リテハ此ノ如キ便宜ヲ有セス例ヘハ畑ヲ
變換シテ田ト爲スニモ殆ト山林又ハ原野ヲ開闢シテ田ト爲スニ讓ラサルノ勞
費ヲ要スルコトアリ此ノ如キ變換地ニ在リテハ相當ノ年所ヲ經過スルニアラサ
レハ變換シタル地目トシテノ利用ヲ完ウセサルモノ多ク普通ノ場合ニ於ケル
カ如ク六年目ヨリ修正地價ニ依リテ地租ヲ徵收スルモノトセハ地方ニ比シテ負

擔ノ相當セサルカ如キ場合ナシトセス故ニ法律ハ實地ノ情況ニ依リ三十年以
内ノ地價据置年期ヲ許可シ年期中ハ現ニ有スル地價ニ依リテ地租ヲ賦課シ年
期明ニ至リ地價ヲ修正シ其年ヨリ修正地價ニ依リテ地租ヲ賦課スルコトヲ許シ
タリ但シ地價据置年期ハ出願ニ因リテ許可スルモノナルヲ以テ(地租條例施行
規則第一四條)地目ヲ變換シ開墾ニ等シキ勞費ヲ要シタル場合ト雖モ地價据置
年期ヲ出願セサルトキハ變換ヨリ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ五年目ヨリ修
正地價ニ依リテ地租ヲ徵收スヘキモノトス

地租條例第十八條ハ其第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事業成功
ニ至ラサルモノハ更ニ繼年期ヲ許可スヘキコトヲ規定スト雖モ第十六條第六
項ノ年期ニ關シテハ之ヲ規定セサルヲ以テ地價据置年期ニ限リテハ一度許可
シタルモノハ之ヲ延長スルコトヲ得サルモノトス故ニ年期明ニ於テ既ニ地目
ノ變換シタルモノハ地價ヲ修正シテ其年ヨリ修正地價ニ依リテ地租ヲ徵收セ
サルヘカラス然レトモ元來此ノ如キ土地ニ付キ地價ヲ修正スル所以ノモノハ
地目ヲ變換シタルニ因ルモノナルカ故ニ年期明ニ至リ地目變換成功セサルト

キハ地價ヲ修正スルコト能ハス予ノ見ル所ヲ以テスレハ此場合ニ於テハ年期ハ滿了ト共ニ消滅スルカ故ニ爾後變換成功スルトキハ無年期ノ變換地トシ事實變換シタル年ヨリ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ニ至リ修正地價ヲ適用スヘキモノナリト信ス

(乙) 地類變換ヲ爲シタルトキ

地類變換トハ有租地中ノ第一類地ヲ第二類地ト爲スヲ謂フ(地租條例施行規則第四條例)ハ第一類地タル田ヲ第二類地タル池沼ト爲シ又ハ第一類地タル畑ヲ第二類地タル原野ト爲スカ如シ此場合ニ於テハ地目變換ノ場合ト同シク土地ノ利用ヲ變更スルヲ以テ前後自ラ收益ヲ異ニスルニ至ルヘク隨テ法律ハ地價ヲ修正シ地租ノ負擔ヲシテ土地ノ所得ニ比準セシムルヘキモノト爲シタルナリ(地租條例第七條)但シ地類變換ノ場合ニ於テハ地目變換ノ場合ノ如ク變換ヨリ五年以内何時ニテモ地價ノ修正ヲ爲シ得ルニアラス變換ヨリ五年間ハ現地價ニ依リテ地租ヲ課シ六年目ニ至リ地價ヲ修正シ其年ヨリ修正地價ニ依リテ地租ヲ課スヘキモノトス(地租條例第一〇條第三項第一四條)元來地類變換ナルモノハ

多クノ場合ニ於テハ土地利用ノ改良ニアラスシテ寧ロ利用曠廢ノ結果ニ出ツルヲ常トス故ニ舊時ヨリ爲政者ハ好意ノ眼ヲ以テ地類變換ヲ視ス舊租時代ニ於テハ耕地ヲ原野等ニ變シタル場合ニ於テ其石盛ヲ變更スルカ如キコトハ殆ト稀ナリシノミナラス地租改正後ニ於テモ地類ヲ變シタルカ爲メ地價ノ修正ヲ爲スコトハ久シク之ヲ認メサリシナリ然ルニ現ニ第二類地ニ變換シ收益ノ大ニ減少シタル土地ニ對シテ尙第一類地タリシ時ノ地租ヲ課スルハ之ヲ以テ公平ヲ得タルモノト謂フコト能ハサルカ故ニ明治二十二年ニ至リ地租條例ヲ改正シ始メテ地類變換ノ場合ニ於テモ亦地價ノ修正ヲ爲スヘキモノト爲シタリ唯第一類地ノ耕作又ハ修理ヲ怠ルトキハ所有者ハ依然之ヲ第一類地トシテ利用スルノ意思ナルニモ拘ラス容易ニ一見第二類地タルカ如キ状態ト爲ルモノナルカ故ニ地類ノ變換アルヤ否ヤハ之ヲ知ルコト容易ナラス故ニ法律ハ變換ヨリ六年目ニ至リ其第二類地ト爲リタルコトノ確實ト爲ルニ至リテ始メテ地價ヲ修正スヘキモノト爲シタリ地目變換地類變換共ニ同シク六年目ニ至リ修正地價ヲ適用スヘキモノナリト雖モ其五年間ノ猶豫ヲ置キタル所以ノ趣

旨ニ至リテハ全然相異ナルモノトス
 第一類地就中耕地ニハ時トシテ新ニ畦畔又ハ肥料置場ノ如キモノヲ設クルコトアリ畦畔又ハ肥料置場等ノ如キモノハ現ニ耕作セラルル場所トハ地面ノ形状ヲ異ニスルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ一筆中ノ一部分地類變換ヲ爲シタルモノトシテ取扱ハレタルコトハ嘗テ見聞シタル所ナリ然レトモ畦畔ナルモノハ耕地ヲシテ耕地タラシムル所以ノ設備ニシテ畦畔ハ耕地ヲ離レテ存スルモノニアラス故ニ耕地中ニ畦畔ヲ設クルハ則チ耕地ヲシテ益耕地タルノ利用ヲ完ウセシムルニ近カシムルモノニシテ之ヲ以テ地類變換アリト謂フヘハラズ耕地ノ一隅ニ肥料置場ヲ設クル如キモ亦然リ耕地中ニ耕作上必要ナル肥料ヲ藏置スル場所ヲ設クルハ耕地タル利用ヲ爲スニ必要ノ事トス故ニ肥料置場ハ耕地ニ伴フ必要附屬物ニシテ之ヲ設ケタルカ爲メニ其土地ハ耕地以外ノ土地ト爲リタリト謂フヲ得ス隨テ左ニ舉クル如キ場合又ハ之ニ類似シタル場合ニ於テハ地類變換ニ伴フ法律上ノ效力ヲ生セシムヘキモノニアラス現今ノ實際ニ於テハ此趣旨ヲ以テ取扱ヲ爲スモノノ如シ

(丙) 開墾ヲ爲シタルトキ

開墾トハ有租地中ノ第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スヲ謂フ(地租條例第三條第三項)例ヘハ山林ヲ開闢シテ畑ト爲シ原野ヲ變換シテ郡村宅地ト爲スカ如シ此ノ如キハ土地ノ利用全ク一變スルカ故ニ地價モ亦隨テ之ヲ修正スヘキモノトス(地租條例第七條)地租條例第三條第三項ニ依レハ土地ノ開墾アリキ言フニハ第二類地ノ第一類地ニ變シタルコト及ヒ之カ爲メニ勞費ヲ要シタルコトノ二條件具備スルコトヲ要ス故ニ第二類地ヲ第一類地ニ變スルモ之カ爲メニ勞費ヲ要スルコトナケレハ法律上ハ之ヲ開墾ト謂フコト能ハス例ハ雜種地タル物干場ヲ郡村宅地ニ變スルニハ場合ニ因リテ何等ノ勞費ヲ要セサルモノナリ此ノ如キ場合ニ於テハ第二類地變シテ第一類地ト爲ルモノナリト雖モ地租條例ノ所謂開墾ニアラス隨テ此場合ニ於テハ地價修正ナルコト起ラサルナリ土地ノ利用ヲ變シタル場合ニ於テハ地價ヲ修正スルヲ可ナリトセハ利用ノ變更ノ爲メニ勞費ヲ要スルト否トニ依リ區別ヲ設クルハ理由ナキカ如シト雖モ立法ノ意ハ恐クハ勞費ヲ要セスシテ第二類地ヲ第一類地ト爲スコトヲ得

タルカ如キ状態ニ在リシ土地ハ多クハ第二類地タリシ時ニ於テ既ニ其所得殆ト第一類地ト爲リタル時ニ於ケルモノト相若ケルモノナルヲ以テ其有シタル地價モ別ニ之ヲ修正セスシテ第一類地ト爲リタル後ニ適用シテ不權衡ナカルヘシト認メタルニ在ルナルヘシ但シ法律ノ所謂勞費ヲ加ヘトハ如何ナル程度ノ勞費ナルヤハ事實ノ問題ナルカ故ニ實地ノ狀況ニ依リテ之ヲ判別スヘキモノトス而シテ現今實際ニ於テ行ハルル所ヲ見ルニ第二類地ヲ第一類地ト爲シタルトキハ殆ト常ニ勞費ヲ要シタルモノト爲シ地價ヲ修正セラルルモノノ如シ

一筆ノ土地中ニ畦畔、肥料置場、小逕、小池等ノ如キモノヲ設クルモ之ヲ以テ地類變換ト見ルヘカラサルカ如ク既ニ存スル畦畔、肥料置場、小逕、小池等ノ如キモノヲ廢除シテ他ノ部分ト同一ノ地面ト爲スモ亦之ヲ開墾ト謂フヘカラス何トナシハ既ニ一筆ノ土地ニ附屬スルモノトシテ之ト同一地目ヲ有スル以上ハ之ヲ廢除スルハ益、同一地目タルコトヲ明ニスルモノニシテ其間第二類地ヲ第一類地ニ變シタルコトナキヲ以テナリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ地價ノ修正ナル

コトハ生セサルナリ

開墾ヲ爲シタルトキハ地價ヲ修正スト雖モ開墾成功ノ難易ニ依リ法律ハ地價ヲ修正スル時期ヲ同フセス

(イ) 開墾ニシテ十年内以ニ成功シ得ヘキモノ

(a) 届出ヲ爲シテ開墾ヲ爲シタル場合、地租條例第一六條第一項第二項、十年以内ニ成功シ得ヘキ開墾ヲ爲ストキハ開墾着手ノ年ヨリ十年目ニ至リ地價ヲ修正スルモノトス但シ開墾ノ場合ニ於テ地價ヲ修正スルハ土地ノ利用變更シタルニ因ルモノナルカ故ニ着手後十年目ニ至ルモ開墾成功セサルトキハ地價ヲ修正スルコトヲ得ス若シ十年目ニ於テ土地ノ一部分成功シテ他ノ一部分未タ成功ニ至ラサルトキハ地租條例施行規則第二條ニ依リ成功シタル部分ヲ分割シテ別筆ト爲シ其地價ヲ修正スヘキモノトス

開墾着手後十年目ニ於テハ未タ成功セサリシモ十一年目以後ニ於テ成功シタルトキハ何レノ時ニ於テ地價ヲ修正スヘキヤ地租條例其他地租ニ關スル法令ニ於テハ此場合ニ付テ何等ノ規定ヲ爲サス地租條例第十六條第三項ニハ十年

届出ヲ爲スヘキコトヲ規定シテ届出ヲ爲スヘキ場合ヲ明ニスルニ拘ラス十年目ニ成功セサルカ爲メ繼續シテ之カ遂行ヲ勉ムル場合ニ付テハ何等ノ規定ヲ爲サス見ルヘシ法律ノ意ハ問題ノ如キ場合ニ於テ更ニ届出又ハ出願ヲ爲サシムルニ在ラサルコトヲ予ノ見ル所ヲ以テスレハ開墾ヲ爲シタル場合ニ於テハ地價ヲ修正スヘキコト地租條例第七條規定ノ裏面ニ於テ疑ヲ容レサル所ナリ既ニ開墾ノ場合ニ於テ地價ヲ修正スヘキモノトセハ法律ノ規定ニ依リ特ニ修正スヘキ時期ヲ定メタル場合ノ外ハ成功ノ時ニ於テ之ヲ修正スヘキハ當然ナリ開墾ノ届出ヲ爲シ着手後十年以内ニ成功シタルモノ及ヒ歛下年期ノ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ法律ハ特ニ地價修正ノ時期ヲ定ムト雖モ問題ノ如キ場合ニ於テハ法律ハ特ニ其時期ヲ定メス故ニ事實開墾成功シタル時ニ於テ其地價ヲ修正スヘキモノナリト信ス

(b) 届出ヲ爲サスシテ開墾ヲ爲シタル場合地租條例第二七條 第二類地ヲ第一類地ト爲シタルモノハ開墾成功ト雖モ其地力直チニ開墾シタル地目トシテノ利用ヲ完ウスルニ至ラサルコト多シ故ニ法律ハ地力ノ稍ヤ成熟スルマテハ其

地租ヲ増加セサルカ爲メ開墾着手ヨリ九年間ハ縱令其土地ハ既ニ第一類地ト爲ルモ其地租ハ尙ホ第二類地タリシ時ノ地價ニ依リテ之ヲ徵收スヘキモノト爲シ以テ開墾者ノ利益ヲ圖リタリ然レトモ凡ソ法律カ特定ノ者ヲ保護シ又ハ其利益ヲ圖ルハ其者カ法律ノ命スル條件ヲ踐行シタル場合ナラサルヘカラス開墾ノ場合ニ於テモ亦然リ土地所有者エシテ九年間第二類地タリシトキノ地價ニ依リテ地租ヲ徵收セラルルノ利益ヲ享ケントセハ開墾ニ先チ之カ届出ヲ爲シ以テ行政官廳ヲシテ一定ノ時期ノ到來シタルトキ地價ヲ修正スルヲ得ルノ覺知ヲ有セシメサルヘカラス此手續ヲ踐行セサル土地所有者ハ法律ノ定メタル利益ヲ享クルコトヲ得ス無届開墾ヲ爲シタルコト發覺シタル時現地目ニ依リ地價ヲ修正シ原地價ニ依ル地租ト修正地價ニ依ル地租トノ間ニ増差額アルトキハ事實開墾成功ノ年マテ遡リ其差額ヲ追徵セラルルヲ免ルルコトヲ得ス即チ利用變更ノ年ヨリ嚴正ニ修正地價ヲ適用シ其間ニ些ノ利益ヲモ有セシメサルナリ但シ法律ハ發覺ノ日ヨリ三年前ニ遡リ追徵ヲ爲スコトヲ許ササルヲ以テ成功ノ年ニシテ發覺ノ日ヨリ三年以上ヲ經過シタルトキハ其三年以上

ニ涉ル年間ニ對スル増租額ハ之ヲ追徴スルコト能ハサルモノトス
(ロ) 開墾ニシテ十年以内ニ成功シ能ハサルモノ 十年以内ニ成功シ能ハサル
開墾ヲ爲サントスルトキハ稅務管理局長ニ願出テ三十年以内ノ鍬下年期ノ許
可ヲ受クルコトヲ得ルモノナリ(地租條例第一六條第三項)地租條例施行規則第
一四條鍬下年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收セ
ラレ之ヲ増加セラレサルモノナリ地租條例第十六條第三項ハ(鍬下年期ノ許可
ヲ受クヘシト命令的ニ規定シタルヲ以テ十年以内ニ成功スルノ見込ナキ開墾
ヲ爲サントスル者ハ必ス之カ許可ヲ請ハサルヘカラサルカ如シト雖モ元來十
年以内ニ成功スルヤ否ヤハ見込ヲ以テ之ヲ定ムルモノナルカ故ニ土地所有者
カ鍬下年期ヲ出願セサルトキハ之ヲ以テ十年以内ニ成功スル見込ヲ有スルモ
ノト爲ササルヲ得サルヲ以テ該條ノ命令的規定ハ實際ニ於テハ權能的規定ナ
ルト強テ差違アルニアラサルナリ
鍬下年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ年期明ニ至リ事業尙ホ成功ニ至ラサルモ
ノハ更ニ二十年以内ノ繼年期ヲ與ヘ之ヲ延長スルコトヲ得ルモノナリ(地租條

例第一八條) 地租條例第十八條ハ新開免租年期ノ延長ニ關シテ適用セララル
モノニシテ予ハ新開地ニ關シテハ法律ノ所謂事業成功ニ至ラストハ理立工事
ノ竣成セサルコトヲ謂フニアラスシテ地力ノ成熟セサルコトヲ謂フモノナル
コトヲ斷言セリ開墾地ニ關シテモ亦之ト同一ニ解釋シ土地ハ既ニ第一類地ノ
形狀ヲ爲スモ其地力尙ホ成熟セサルトキハ開墾成功ニ至ラサルモノト爲シ鍬下
年期ノ延長ヲ爲スコトヲ得ルヤ予ハ此問題ニ對シテハ積極ノ答辯ヲ爲スヘキ
モノナリト信ス何トナレハ地租條例第十八條ハ一ノ「事業成功ニ至ラサルモノ」
ナル文章ヲ以テ開墾地及ヒ新開地ノ雙方ニ關聯セシム而シテ既ニ述ヘタル如
ク新開地ニ付テハ其意地力ノ成熟スルニ至ラサルコトヲ指稱スルニ在ルコト
明ナリトセハ獨リ開墾地ニ付テノミ之ヲ他ノ意義ニ解スルコト能ハサルヘキ
ヲ以テナリ人或ハ地租條例第十六條第二項及ヒ第三項中ニ用ヒラレタル「成功」
ル文字ヲ解シ其意義ハ單ニ第二類地カ第一類地ト爲ルコトヲ指稱スルモノナリ
ト爲シ開墾地ニ關シテ用ヒタル成功ナル同一文字ヲハ第十六條ト第十八條ト
因リテ其意義ヲ異ニスルハ法律解釋ノ當ヲ得サルモノナルコトヲ論スル者アリ

ト雖モ予ハ何故ニ第十六條第二項及ヒ第三項中ニ用ヒラレタル成功ナル文字
 ハ開墾ノ目的地トシテノ利用ヲ完ウスルニ至ルコト即チ第一類地トシテ其地
 方稍ヤ成熟スルニ至ルコトヲ意味スルモノニアラスト解セサルヘカラサルカ
 ヲ理解スルコト能ハス予ハ第十六條ニ用ヒラレタル「成功」ナル文字ハ開墾ノ目
 的地トシテノ利用ヲ完ウスルニ至ルコトヲ意味スルモノト解スル者ナリ故ニ
 第十八條ヲ解スルモ之ヲ以テ事業成功ニ至ラサルモノトシテ鐵下年期ノ繼年
 期ヲ與フルコトヲ得ルモノナリト謂フモ解釋上些ノ牴觸アリト信セサルナリ
 特ニ鐵下年期ナルモノハ我邦ノ地租制度ニ於テハ舊來ヨリノ慣例ニシテ而モ
 其趣旨ハ地力ノ成熟スルヲ待テテ始メテ地租ヲ増加スルニ在リタルコトハ舊
 記ニ徴シテ疑フヘカラサルコトニ屬スルカ故ニ地租條例ヲ解スルニモ地力ノ
 熟否ヲ以テ鐵下年期ノ延否ヲ決スヘキモノト爲スハ立法ノ精神ト甚ク遠カラ
 サルヲ信スルナリ

鐵下年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ年期終了シタルトキハ其地價ヲ修正ス
 (地租條例第一九條)地租條例第十九條ハ唯地價ヲ修正スルコトヲ定メ第十三條

ノ如ク特ニ成功ノ部分ニ對シテ之ヲ修正スルコトヲ明言セス然レトモ第十九
 條ノ場合ト雖モ成功ノ部分ニアラサレハ地價修正ヲ爲スヘカラサルハ無論ナ
 リ何トナレハ開墾ナケレハ地價ノ修正ヲ爲スヘカラサルハ第七條第十六條等
 ノ規定ニ依リ疑ヲ容ルヘカラサルヲ以テナリ若シ年期明ノ時ニ於テハ事業未
 タ成功ニ至リサリシモ繼續シテ之カ遂行ヲ力メタルヲ以テ其後ニ至リ終ニ之
 カ成功ヲ見ルニ至リタルトキハ何レノ時ニ於テ地價ヲ修正スヘキヤ十年以內
 ニ成功シ得ルノ見込ヲ以テ開墾ニ着手シタル者十一年目以後ニ於テ成功シタ
 ル場合ニ付テ既ニ論スル所アリシト同一ノ理由ニ依リ予ハ此場合ニ於テモ亦
 現實開墾ノ成功シタルトキニ於テ地價ヲ修正スヘキモノナリト信ス

(丁) 開拓ヲ爲シタルトキ

予カ茲ニ開拓ト稱スルハ官有未開地ヲ墾闢シテ耕地宅地又ハ鹽田ノ如キモノ
 ト爲シ其所有權ヲ得タルヲ謂フ維新ノ後士族ノ祿制處分ヲ結了スルヤ一方ニ
 於テハ常職ナキ士族ニ產業ヲ授クルカ爲メ他ノ一方ニ於テハ荒蕪ニ委セラレ
 タル土地ノ利用ヲ爲スカ爲メ士族ヲ勸誘シテ官有未開地ノ開拓ヲ爲サシメ成

功ヲ條件トシテ無償又ハ廉價ニ其所有權ヲ付與シタリ現今ニ於テハ官有地ノ處分ハ各之ヲ規約スル法規ノ存スルアリ開拓シタル土地ヲ無償ニテ下付スルコトハ法令ノ認メサル所ナリト雖モ明治二十三年勅令第二百七十六號官有地取扱規則第七條ハ「官有地ヲ開墾セシムルコトヲ請フ者アルトキハ無料ニテ之ヲ貸付スヘシ但開墾成功ノ後事業者ニ於テ該地ヲ拂下ケントスルトキハ豫メ契約ニ依リテ其代價ヲ定メ置クヘシ」ト規定スルカ故ニ開拓出願者ハ開拓成功ヲ條件トシテ其土地ノ拂下ヲ受クルコトヲ得ルモノナリ此ノ如キ場合ニ於テ開拓成功シ土地ノ拂下ヲ受ケタルトキハ其土地ハ官有ヨリ民有ノ有租地ト爲リタルモノナルカ故ニ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定メ之ニ依リテ地租ノ賦課ヲ爲スヘキカ如シト雖モ新ニ未開地ヲ開拓シタル場所ハ一應ノ開拓ヲ終リ其地面ノ形狀ヲ耕宅地等ト爲スモ其地力ハ尙ホ成熟ヲ缺クコト多シ故ニ開拓者ニ於テ暫ク假ニ未開地ト看做シテ地價ヲ設定シ一定ノ年間之ニ依リテ徵租シ年期滿了シタル場合ニ於テ始メテ其地ノ現況ニ應シテ地價ヲ修正シ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ賦課セラレンコトヲ出願スルトキハ十年以内適宜年期ヲ定メ之ヲ

許可スルコトヲ得ルモノトス此年期モ亦法律ハ之ヲ墾下年期ト稱シタリ(地租條例第一六條第四項第一九條)

開拓地ニ付テモ亦開墾地ノ如ク年期明ニ至リ事業成功ニ至ラサルトキハ更ニ二十年以内墾下年期ノ延長ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ(地租條例第一八條前ニモ述ヘタル如ク開拓地ノ所有權ヲ得ルハ開拓ノ成功スルコトヲ條件トスルカ故ニ開拓墾下年期ヲ有スル土地ニシテ開拓ノ成功セサルモノアルヘキモノニアラス故ニ地租條例第十八條ノ所謂事業成功ニ至ラサルモノトハ新開地又ハ開墾地ニ付テ論シタル如ク開拓地ニ付テモ亦地力ノ成熟セサルコトヲ意味スルモノト謂ハサルヘカラス

(戊) 耕地ノ區畫形狀ヲ變更シ開墾ニ等シキ勞費ヲ要シタルトキ地租條例第十六條第六項ハ「耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ……開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價据置年期ヲ許可スルコトアルヘシ」ト規定シ其第十九條ハ「地價据置年期明……ノ時其地價ヲ……修正ス」ト規定スルカ故ニ耕地ノ區畫形狀ヲ變更シタル者多額ノ費用ヲ要シ

タルトキハ地價据置年期ノ許可ヲ出願スルコトヲ得ルナリ而シテ地價据置年期ノ許可ヲ受ケタルモノハ年期明ノ時其地價ヲ修正セラルルモノトス地租條例第七條ハ地目變換開墾又ハ地類變換ノ場合ニアラサレハ地價ヲ修正セサルコトヲ明言ス耕地ノ區畫又ハ形狀變更ハ地目變換ニアラス何トナレハ法律ハ地目變換ノ爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スル場合ニ付テハ特ニ規定ヲ爲シ之ヲ區畫形狀ノ變更ト區別シタルヲ以テナリ又開墾又ハ地類變換ニモアラス何トナレハ耕地トハ同シク第一類地中ノ地目タル田畑ヲ指稱スル用語ナルヲ以テ其區畫形狀ノ變更ハ開墾又ハ地類變換ノ如ク全ク地類ヲ異ニスルニ至ル場合ニ關係ナキヲ以テナリ果シテ然ラハ耕地ノ區畫形狀變更トハ同一地目中ニ於テ各筆ノ區域又ハ其高低ヲ變更スルコトヲ謂フモノニシテ地租條例第七條ノミノ規定ヲ以テ言ヘハ地價ヲ修正スヘキ場合ニアラス唯其第十六條第六項及ヒ第十九條ノ特別規定アルカ爲メニ地價修正ヲ爲ササルヘカラサルノミ元來區畫形狀ノ變更ヲ爲シタルトキニ於テハ多クハ土地ノ分割又ハ合併アルモノナルヲ以テ直チニ地價ノ分配又ハ合併ヲ爲シテ其各筆ノ地價ヲ定メタルヘカラ

サルモノナリ若シ土地改良上ノ必要ヨリシテ此場合ニ於テ直チニ分合筆ノ手續ヲ爲スヲ不可ナリトセハ立法上之カ手續ヲ爲ス時期ヲ一定ノ年間後ニ定メルコト何等ノ妨ナシ然ルニ法律ノ規定ハ茲ニ出テ多クハ土地改良ノ目的ヲ以テ遂行セラルルモノナル區畫形狀變更ノ場合ニ於テ一定ノ年間後ハ必ス其地價ヲ修正スヘキモノト爲シタリ予ハ其意ノ在ル所ヲ知ルニ苦シムナリ然レトモ予ノ茲ニ説明セントスル所ハ立法ノ可否ニ在ラスシテ成文法ノ解釋ニ在ルカ故ニ第十六條第六項及ヒ第十九條ノ如キ明文ノ下ニ於テハ此場合モ亦地價修正ヲ爲スヘキ一ノ場合トシテ之ヲ舉ケサルヲ得ス
地價据置年期ハ之ヲ延長スルヲ得ルノ規定ナキヲ以テ一タヒ付與シタル年期終了スルトキハ常ニ地價ノ修正ヲ爲スヘキモノニシテ更ニ繼年期ヲ與フルコトヲ得サルモノトス

耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル場合ニ於テ地價据置年期ノ許可ヲ受クルニハ二箇ノ條件ヲ要ス即チ一ハ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルコトニシテ他ノ一ハ地價据置年期ノ許可ヲ出願スルコト是ナリ若シ耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更

スル場合ニ於テ開墾ニ等シキ勞費ヲ要セサルカ若クハ之ヲ要スルモ地價据置年期ノ許可ヲ出願セザルトキハ第十六條第六項ヲ適用スルコトヲ得ス隨テ第十九條モ亦其適用ナキヲ以テ此場合ニ於テハ地價ノ修正ナルコトヲ生セズ但シ之カ爲メニ土地ノ分割又ハ合併ヲ爲シタルトキハ分合筆ノ場合ニ於ケル手續ヲ爲ササルヘカラサルモノトス

土地區劃改良ノ場合ニ於テハ後ニ説明スヘキカ如ク明治三十年法律第三十九號ヲ以テ土地所有者ノ爲メニ甚タ利益ナル規定ヲ設ケラレタルヲ以テ地租條例第十三條第三項前段ノ規定ハ今後實際ニ適用セラレルコトハ甚タ希ナルヘシ

(巳) 荒地免租年期明ニ至リ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期明ニ至リ其地力復舊セザルトキ

有租地ニシテ荒地ト爲リタルトキハ其利用ヲ完ウスルヲ得サルヲ以テ一定ノ期間其地租ヲ免スルコトヲ得ヘキハ前段ニ之ヲ述ヘタリ而シテ此ノ如ク一定ノ期間ヲ限り地租ヲ免スル所以ノモノハ期間滿了ノ後ハ地目地力共ニ從前ノ

状態ニ復スヘキコトヲ豫期スルニ因ルモノナリ然ルニ被害ノ狀況ニ因リテハ到底從前ノ地目ニ復スルコト能ハスシテ年期明ノ時ニ於テ他ノ地目ト爲ルコトアリ又幸ニ年期明ノ時ニ於テ地目ハ復舊スルモ其地力ハ亦昔日ノ如クナルコト能ハサルコトアリ前者ノ場合ニ在テハ土地ノ利用ハ全ク一變スルカ故ニ從前ノ地價ニ依リテ地租ヲ徵收スルハ全ク實地ニ適當セス後者ノ場合ニ在リテハ地目ハ既ニ復舊シタルモノナルヲ以テ勉メテ地力ノ回復ヲ謀ルトキハ其復舊スルヲ期スヘカラサルニアラス故ニ後ニ説明スヘキカ如ク法律ハ暫ク低價年期ヲ付與シ一定ノ年間地力ニ應シテ低減シタル地租ヲ課シ其年期明ヲ待チテ原地價ニ復スルコトヲ許シタリト雖モ場合ニ依リテハ其低價年期明ニ至ルモ尙ホ原地力ニ復セザルコトナントセス此ノ如キ土地ニ對シ年期滿了シタルノ一事ヲ以テ必ス原地價ニ依リ地租ヲ徵收セサルヘカラスト爲ストキハ地租負擔其他ノ收益ト比準ヲ得サルニ至ルヲ免レス法律ハ或地租免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變シタルモノ及ヒ低價年期明ニ至リ原地力ニ復セザルモノニ付テハ其地ノ現況ニ應シテ地價ヲ修正シ地租ノ負擔ト土地ノ收

益トノ間ニ甚シキ不權衡ナカラシメンコトヲ期シタリ(地租條例第二二條第二三條)

法律ニ於テ地價ノ修正ヲ爲スヘキ場合トシテ規定スル所ハ以上掲クル所ノ如シ而シテ以上簡短ニ説明シタル所ハ其普通ノ場合ニ於テ適用セラルヘキモノナリ然ルニ土地ノ異動ナルモノハ絶エス生スル事實ナルヲ以テ地價ノ修正ヲ要スヘキ状態ヲ生セシメタル後未タ之ヲ修正セサル時ニ於テ又ハ既ニ之ヲ修正スルモ未タ其修正地價ヲ適用セサル時ニ於テ更ニ地價修正ヲ要スヘキ状態ヲ生セシメタル場合ニ於テハ上來述ヘタル所ハ自ラ其儘適用スルコト能ハサルヘシ何トナレハ最初ニ生セシメタル状態ニ對シ地價ヲ修正シ又ハ修正地價ヲ適用セントスル時ハ既ニ其状態ハ現存セサルニ至リタル時ナルヲ以テナリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ自ラ之ニ適應スルノ取扱ヲ爲ササルヲ得ス少シク煩細ニ渉ルノ嫌ナシトセサルモ予ハ茲ニ其例外タルヘキ場合ヲ舉ケ其普通ノ場合ト異ナル所ヲ示サントス

(イ) 地目變換又ハ地類變換後五年以内ニ於テ更ニ地目變換又ハ地類變換ヲ爲

シタルトキ(地租條例施行規則第五條) 例ハ郡村宅地ヲ畑ニ變換シタル後三年目ニ至リ更ニ之ヲ田ニ變更シ又ハ山林ヲ原野ニ變換シタル後四年目ニ於テ之ヲ牧場ニ變換シ若クハ畑ヲ原野ニ變換シタル後五年目ニ至リ更ニ之ヲ山林ト爲シタル場合ノ如シ此場合ニ於テハ最初變換シタル地目トシテ利用セントシタル土地所有者ノ意思ハ再度ノ變換ニ因リテ變更シタルモノト見ルコトヲ得ヘシ換言スレハ所有者ハ其好ム所ノ利用ヲ爲サンカ爲メニ一旦試ミタル利用ハ之ヲ廢止シタルモノナリト謂フコトヲ得ヘシ故ニ地價修正ニ關シテハ最初ノ變換ヲ眼中ニ置カス再度ノ變換ノミヲ見再度ノ變換ニシテ地目變換ナルトキハ其年ヨリ之ニ依リテ地租ヲ徵收スヘク再度ノ變換ニシテ地類變換ナルトキハ其年ヨリ六年目ニ至リ地價ヲ修正シ之ニ依リテ地租ヲ徵收スヘキモノトス而シテ既ニ最初ノ變換ヲ以テ廢止セラレタルモノトシ之ヲ眼中ニ置クヲ要セサルモノトセハ之ニ對シタル地價ハ適用スヘキ機會ナキモノナルヲ以テ自ラ之ヲ取消ササルヘカラサルコト殆ト言フヲ俟タサル所ナリ

地租條例施行規則第五條ハ「再度ノ變換ナル語ヲ用フルヲ以テ一見同條ハ地目變換又ハ地類變換後五年以内ニ以テ唯一回ノ地目變換又ハ地類變換アリタル場合ニ於テノミ適用セラルルカ如シト雖モ此ノ如キハ成文法ノ字句ニ拘泥シテ其精神ヲ理却スルモノナリ地租條例第十條ハ頗ル簡短ノ規定ニシテ數回ノ變換アリタル場合ニ之ヲ適用セントスルニハ稍ヤ疑議アルヲ免レサルヲ以テ本條ハ之カ施行ヲ完ウスルノ趣旨ヲ以テ規定セラレタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ本條ハ一ノ變換後五年以内ニ於テ更ニ變換アリタル場合ニ於テハ其變換ノ回數ニ拘ラス常ニ適用セラルヘキモノニシテ其意義ハ土地ノ利用ヲ變更シタル場合ニ於テ之ニ對スル修正地價ヲ適用スヘキ時期ノ到達前ニ在リテ更ニ其利用ヲ變更シタルトキハ其變更ハ幾回ナルヲ問ハス前ノ變換ニ對シテハ地價ノ修正ヲ爲サス最後ノ變換ヨリ六年目ニ至リ其當時ノ現地目ニ對スル修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノト爲スニ在ルモノト謂ハサルヘカラス故ニ地目變換又ハ地類變換後修正地價ヲ適用スヘキ時期ノ到達前ニ於テ地目變換又ハ地類變換ヲ爲シ其變換地ニ對スル修正地價ヲ適用スヘキ時期ノ到達前

ニ於テ更ニ地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ三回目ノ變換ヨリ六年目ニ至ルマテハ第一ノ變換ヲ爲ス際ニ於ケル地價ニ依リテ地租ヲ徵收シ三回目ノ變換ヨリ六年目ニ於テ始メテ其地目ニ對スル修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノナリ例ヘハ田ヲ郡村宅地ニ變換シタル後(第一回目變換)四年目ニ至リ之ヲ畑ニ變換シ(第二回目ノ變換)其年ヨリ三年目ニ至リ更ニ之ヲ山林ニ變換シタルトキハ(第三回目ノ變換)山林ト爲リタル年ヨリ六年目ニ至リ山林ニ對シテ地價ヲ修正シ其年ヨリ之ニ依リテ徵收スヘキモノトス故ニ此場合ニ於テハ第一回目ノ變換ヨリ計算スレハ十一年目ニ至リ始メテ修正地價ヲ適用セラルルモノナリ

(ロ) 地目變換又ハ地類變換後五年以内ニ於テ開墾ヲ爲シタルトキ

1 地目變換後五年以内ニ於テ開墾ヲ爲シタルトキ(地租條例施行規則第六條第一項) 例ヘハ山林ヲ原野ニ變換シタル後五年以内ニ於テ之ヲ開墾シテ畑ト爲シタル場合ノ如シ此場合ニ於テハ十年以内ニ成功シ得ヘキ開墾ニ付テハ開墾着手ノ年ヨリ十年目、十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ニシテ墾下年期ノ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ墾下年期明ニ至リ其成功部分ノ地價ヲ修正シテ地租ヲ

徵收スヘキモノニシテ當初ノ變換ニ對シテハ地價ノ修正ヲ爲ササルモノナリ
 此ノ如キハ變換後五年以内ニ於テ更ニ變換ヲ爲シタル場合ニ於ケル取扱規定
 ト全ク其趣旨ヲ一ニスルモノナリ
 地租條例施行規則第六條第一項ハ「開墾着手ノ年ヨリ十年目」ト謂フト雖モ是レ
 法定ノ手續ヲ踐行シテ開墾ヲ爲シタル場合ニ付テ規定シタルモノナリ若シ夫
 レ無届開墾ヲ爲シタル場合ニ於テハ發覺ト同時ニ地價ヲ修正シ三年以上ニ溯
 ラサル範圍内ニ於テ事實開墾成功シタル年ヨリ之ヲ適用スヘキハ言ヲ俟タサ
 ル所ナリ

2 地類變換後五年以内ニ於テ開墾ヲ爲シタルトキ(地租條例施行規則第六條
 第二項) 地類變換ナルモノハ既ニ述ヘタル如ク多クノ場合ニ於テハ特ニ人力
 ヲ加フルコトヲ要セス第一類地ノ耕作又ハ修理ヲ等閑ニ付スルトキハ自ラ第
 二類地タルノ形狀ヲ呈スルニ至ルモノナルカ故ニ地類變換耕作又ハ修理ヲ怠
 リタル者カ土地ノ荒廢ニ歸シタルヲ見テ第一類地トシテノ利用ヲ拋棄シタル
 場合ニ於テ之ヲ爲スモノナリ然ルニ一旦第二類地ニ變換スルノ決意ヲ爲シタ

ル者其未タ地價ヲ修正スルニ至ラサルニ當リ其決意ヲ翻シ再ヒ之ヲ開墾スル
 カ如キハ一タヒ第一類地トシテノ利用ヲ拋棄セントシタルモ土地ノ狀況第一
 類地トシテ利用スルニ適スルヲ以テ其適スル所ニ從ヒテ之ヲ利用スルヲ可ナリ
 ト爲シ一旦爲シタル變換ヲ取消シタルモノト謂フコトヲ得ヘシ而シテ變換ニ
 シテ取消サルルトキハ初ヨリ變換ナカリシト同一ニ歸スルカ故ニ其開墾シタ
 ル地目カ變換前ノ地目ト同一ナルト否トニ從ヒ次ノ如キ效力ヲ生スルモノト
 ス

a 當初ノ地目ト同一地目ト爲シタルトキ 例ヘハ畑ヲ原野ニ變換シタル後
 再ヒ之ヲ畑ト爲シタル場合ノ如シ此場合ニ於テハ同一地目ニシテ嘗テ何等ノ
 變換ナカリシト同一視セラルヘキカ故ニ 價ノ變動ヲ生スルコトナシ
 b 當初ノ地目ト異ナリタル地目ト爲シタルトキ 例ヘハ畑ヲ原野ニ變換シ
 タル後之ヲ郡村宅地ト爲シタル場合ノ如シ此場合ニ於テハ地類變換ハ取消シ
 タルモノト看做サルルヲ以テ畑ヲ郡村宅地ト爲シタル場合ト同一ノ取扱ヲ爲
 ササルヘカラス隨テ開墾ヲ爲シタル年即チ前例ニ於テ言ヘハ原野ヲ郡村宅地

ト爲シタル年ヨリ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ニ至リ修正地價ニ依リ
其地租ヲ徵收スヘキモノトス

(ハ) 地目變換又ハ地類變換後五年以内ニ於テ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタル
トキ(地租條例施行規則第八條) 荒地トハ天災ニ因リ全ク土地ノ形狀ヲ變更ス
ルモノナルカ故ニ地目又ハ地類ヲ變換シタル後未ダ修正地價ヲ適用スルニ及
ハスシテ荒地ト爲リタルトキハ土地ハ又變換後ニ於ケル地目トシテ現狀ヲ呈
セサルニ至ルモノナリ故ニ變換後ニ於ケル地目トシテ地價ヲ修正シ又ハ修正
地價ヲ適用セントスルニ多クノ場合ニ於テハ其地目タルノ現狀ヲ呈セサルヲ
以テ事實上ノ不能ヲ見ルニアラスンハ必ス實際上ノ不公平ニ陥ルヲ免レス是
レ地租條例施行規則第八條カ此ノ如キ場合ニ於テハ變換ハ取消サレタルモノ
ト爲シ以テ法律執行ノ圓滿ヲ謀リタル所以ナリ而シテ予ハ此規定ヲ以テ敢テ
土地所有者ノ意思ニ反スルモノナリトハ信セサルナリ何トナレハ變換ノ場合
ニ於テハ六年目ヨリ修正地價ニ依リ徵租セサルヘカラス荒地免租年期ノ許可
アリタル場合ニ於テハ年期明ニ至ルマテハ地租ヲ徵收セサルモノナリ此二者

ハ嚴正ニ言フトキハ相容レサルモノナリ所有者ニシテ相容レサル事實ノ一ヲ
希圖スルハ他ノ一ヲ拋棄スルコトヲ前提トスルモノト謂ハサルヘカラス故ニ
荒地免租年期ノ許可ヲ出願シタル土地所有者ハ之ヲ反面ニ於テハ變換ヲ取消
スノ意思ヲ表示シタルモノト謂フモ妨ナキヲ以テナリ

變換ニシテ取消サレタルモノト看ル以上ハ荒地免租年期ヲ有スル土地ノ地目
ハ變換前ノ地目ナリト謂ハサルヘカラス故ニ年期明ノ時ニ於テ左ノ如キ效力
ヲ生スルモノトス

a 當初ノ地目ト同一地目ニ復シタルトキ 例ハ畑ヲ田ニ變換シタル後五
年以内ニ於テ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルモノ年期明ノ時ニ於テ畑
ト爲シタルカ如シ此場合ニ於テハ地租條例第二十條第二十一條ニ依リ原地價
ニ復スルモノトス

b 當初ノ地目ト異ナリタル地目ト爲シタルトキ 例ハ畑ヲ田ニ變換シタル
後五年以内ニ於テ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルモノ年期明ノ時ニ於
テ田ト爲シタルカ如シ此場合ニ於テ地租條例第二十二條第二十三條ニ依リ其

地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正スヘキモノトス地租條例施行規則第八條後段ハ實ニ此趣旨ニ因リテ規定セラレタルモノナリ

(二) 開墾着手後十年以内又ハ鍬下年期中ニ於テ地目變換ヲ爲シタルトキ(地租條例施行規則第七條) 例ヘハ原野ヲ畑ニ開墾スルノ目的ヲ以テ之ニ著手シタル後十年以内又ハ鍬下年期中ニ之ヲ牧場ニ變換シタル場合ノ如シ此場合ニ於テハ所有者ハ一旦土地ヲ第一類地トシテ利用セント欲シタル中途ニシテ其意思ヲ翻シ同シク第二類地中ノ他ノ地目トシテ之ヲ利用スルニ至リタルモノナルカ故ニ最初ノ利用變更ハ之ヲ見ス最後ノ變換ノミヲ眼中ニ置キ其年ヨリ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ其修正地價ヲ適用スヘキモノトス地租條例施行規則第五條等六條第七條ハ共ニ同一ノ精神ヲ以テ規定セラレタルモノナリ

開墾着手後十年以内又ハ鍬下年期中ハ後ニモ説明スヘキカ如ク土地ハ尙ホ第二類中ノ地目ヲ有スルカ故ニ開墾着手後十年以内又ハ鍬下年期中ニ地目變換ナルコトノ生スルハ常ニ第二類地中ノ他ノ地目ニ變スル場合ニ限ルモノナリ故

ニ第二類地ヲ開墾シテ既ニ第一類地ニ異ナラサル地面ノ狀態ト爲ラシメタル後著手後十年以内又ハ鍬下年期中更ニ之ヲ他ノ第一類地中ノ地目タル狀態ト爲シタル場合例ヘハ原野ヲ開墾シテ一旦畑ト爲シタル者未タ其地價ヲ修正セサルニ先チ更ニ之ヲ郡村宅地ト爲シタル如キ場合ニ於テハ地租條例施行規則第七條ハ其適用ナキモノナリ此場合ニ於テハ唯開墾ノ目的地目ヲ變更シタルモノトシ著手ノ年ヨリ十年目又ハ年期明ノ時ニ至リ其時ニ於ケル現地目ニ依リ地價ヲ修正スヘキモノトス又地租條例施行規則第七條ハ開墾着手後十年以内ト明言スト雖モ其趣旨ハ未タ地價ヲ修正セサルトキニ於テト謂フニ在ルモノト解セサルヘカラス何トナレハ著手後十年目ニ至リ既ニ地價ヲ修正シ之ヲ適用シタル以上ハ開墾ナル事實ハ既ニ完成シ且ツ之ヨリ生スヘキ法律上ノ效力ハ既ニ發生シ了リタルモノナルヲ以テ開墾ノ中止ナルモノヲ生スヘキ理ナキヲ以テナリ

(ホ) 開墾着手後十年以内又ハ鍬下年期中ニ於テ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキ 此場合ニ關シテハ法令中特ニ何等ノ規定ヲ爲シタルモノナシト雖モ

地目變換又ハ地類變換後五年以内ニ於テ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタル場合ト其取扱ヲ異ニスヘキ理由ヲ見サルヲ以テ該場合ニ付テ説明シタル所ハ悉ク此場合ニ準用セラルヘキモノナリ即チ開墾ハ取消シタルモノト爲シ免租年期明ニ至リ開墾前ノ地目ニ復シタルトキト地價ノ復舊ヲ爲シ其地目ト異ナリタル地目ト爲リタルトキハ地價ノ修正ヲ爲スヘキモノトス

(ハ) 開拓墾下年期中地目變換又ハ地類變換ヲ爲シ若クハ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキ 此場合ニ關シテモ亦法令中特ニ規定シタルモノナシ開墾ト開拓トハ實際ノ所作ニ於テハ全ク同一ニシテ唯墾闢シタル土地カ初ヨリ民有ナリシト當初ハ官有ニシテ開拓ニ因リ民有ニ歸シタルトノ差アルノミ故ニ開拓墾下年期中ニ異動アリタル場合ニ於ケル法律上ノ效力ハ開墾墾下年期中ニ於ケル異動ノ場合ト同一ナルヘキカ如シ然レトモ予ハ此ニ場合ハ其法律上ノ效力ヲ全然異ニスヘキ大ナル理由ヲ有スルモノナリト信ス開拓ノ場合ニ於テハ土地ノ墾闢成功シタル後既ニ第一類地ノ地目ヲ有スルモノニ對シ特ニ素地タルノ地價ヲ付シテ墾下年期中ヲ許可スルモノナルヲ以テ現ニ付シタル地價ハ其土

地カ民有ト爲リタル後ノ狀態ニ對シテハ嘗テ適應シタルコトナキモノナリ故ニ年期明ニ正レハ必ス之ヲ修正セサルヘカラサルハ法律ノ豫期スル所ニシテ而モ年期明ニ至ルマテハ故ラニ不適當ノ地價ヲ適用スルコトモ亦法律ノ定ムル所ナリ之ニ反シテ開墾ノ場合ニ在リテハ土地カ尙ホ第二類地タル時ニ於テ現ニ之ニ適應シタル地價ヲ有スルニ對シ墾闢ノ成功スヘキ期間ヲ計リテ之ニ墾下年期ヲ許可スルモノニシテ開墾ヲ中止シタルトキハ現ニ有スル地價ヲ適用スルハ最モ實際ニ適スルモノナリ故ニ此ノ如キ場合ニハ法律ハ地價ノ修正ヲ爲スコトヲ豫期セサルノミナラス之ヲ爲ササルヲ可トスルモノト謂ハサルヘカラス此ノ如ク二者ノ間法律上ノ取扱ヲ一ニセサルヲ以テ其效力ヲシテ全ク同一ナラシムルコトハ事情ノ許ササルモノアリ予ハ法律カ開拓地ニ墾下年期ヲ許可スル所以ノモノハ一定ノ年間特ニ素地ノ地價ニ依リテ其地租ヲ徵收セシトスル趣旨ニ出テタルモノト信スルカ故ニ此趣旨ヨリ推及シテ異動ノ場合ニ於テハ左ノ如ク決スヘキモノナリト爲スモノナリ

1 開拓墾下年期中ハ地目變換又ハ地類變換ヲ爲スモ其地價ヲ修正セス常ニ

テ説明スルニ當リ畧ホ之ヲ述ヘタルヲ以テ今茲ニ再ヒ之ヲ説カス
土地カ有租地ト爲リタル場合ニ於テ直チニ地價ヲ設定セス後年ニ至リ始メテ
之ヲ設定シタルトキハ何レノ年ヨリ地租ヲ賦課スヘキヤハ地租條例ノ解釋上
重要ナル問題ニシテ之ニ對シテハ根本ニ於テ全ク相違シタルニ大議論カ互ニ
其主張ヲ執テ相讓ラサルコトハ既ニ之ヲ述ヘタリ此問題ハ地價修正ノ場合ニ
於テモ亦之ヲ起スコトヲ得ヘシ即チ地價修正ヲ爲スヘキ年ニ於テ之ヲ修正セ
ス後年ニ至リ之ヲ修正シタルトキハ何レノ年ヨリ修正地價ヲ適用スヘキヤ此
問題ニ關シテモ地價設定ノ場合ト殆ト同一ノ論旨ヲ以テ二説互ニ主張スル
所アリ予ハ此場合ニ於テモ地價修正ノ場合ニ付テ述ヘタルト同一ノ理由ヲ以
テ地價ノ修正ヲ爲スヘキ年ヨリ修正地價ヲ適用スヘキモノト爲ス者ナリト
雖モ此場合ニ於テハ地租條例第十四條ノ規定アルヲ以テ反對論者ハ成交上ノ
重要ナル根據ヲ有スト信スルモノノ如シ故ニ他ノ論者ハ更ニ之ヲ重複スルノ
必要ヲ見スト雖モ地租條例第十四條ノ規定ニ付テハ一言ヲ費ササルヲ得ス該
條ハ之ヲ一讀スルトキハ地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵

收ストアルヲ以テ一見事實修正ヲ爲シタル年ヨリ修正地價ヲ適用スヘキモノ
ノ如シト雖モ此ノ如キハ法律ノ皮相ヲ見テ其精髓ヲ見サルモノナリ地租條例
ハ一方ニ於テ其第十條第二項ヲ以テ五年以内ニ地價ヲ修正シ六年目ヨリ之ニ
依リ地租ヲ徵收スヘキコトヲ定メ其第三項及ヒ第十九條ヲ以テ六年目又ハ一
下年期明若クハ地價据置年期明ノトキ地價ヲ修正スヘキコトヲ規定シ他ノ一
方ニ於テ其第十四條ヲ以テ地價ヲ修正シタル土地ハ其年ヨリ修正地價ヲ適用
スヘキコトヲ定ム一法律中ノ各條文ハ互ニ其確實ナル執行ヲ豫期シテ規定セ
ラレタルモノト謂ハサルヘカラサルカ故ニ地租條例第十四條ノ規定ハ其第十
條及ヒ第十九條カ確實ニ執行セラルヘキコトヲ豫期スルモノト謂ハサルヘカ
ラス故ニ其意ハ地價ヲ修正スヘキ年ニ於テ之ヲ修正シ其年ヨリ之ニ依リテ地租
ヲ徵收スト云フニ在ルモノト爲ササルヲ得ス隨テ修正スヘキ年ニ地價ヲ修正
セサリシトキハ修正ヲ爲スヘキ年ヨリ之ヲ適用スヘキモノニシテ事實修正ヲ
爲シタル年ヨリ之ヲ適用スヘキモノニアラサルナリ若シ然ラスト言ハハ行政
官又ハ土地所有者ノ怠慢ノ爲メ或ハ地租負擔ノ一部ヲ免ルルコトト爲リ又ハ

過重ノ負擔ヲ爲スコトト爲ルヘシ法律ハ豈ニ此ノ如キ不公平ノ結果ヲ生セシムヘキコトヲ期シテ制定セラレタルモノナラシヤ反對論者ハ地租條例施行規則第九條ヲ引用シ地租條例ノ施行ノ爲メ地目變換ヨリ六年目以後ニ於テ變換アリシコトヲ發見シタルトキハ發覺ノ年ニ於テ地價ヲ修正シ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキ規定ヲ爲シタルハ地租條例ノ趣旨正ニ事實修正ヲ爲シタル年ヨリ修正地價ヲ適用スルニ在ルカ爲メナリト曰フナルヘシト雖モ予ハ此ノ如ク解セサルナリ若シ論者ノ主張スル如クンハ地租條例施行規則第九條ハ無用ノ贅文ナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ此ノ如キハ地租條例第十四條ノ正ニ規定スル所ナリト謂フヲ得ヘキヲ以テナリ予ヲ以テ之ヲ見レハ同條ノ場合ニ於テハ特ニ此ノ如キ取扱ヲ爲スヲ相當トシテ此ノ如キ規定ヲ設ケラレタルモノニシテ之ヲ以テ地租條例第十四條ノ意義ヲ定メタルモノト謂フコト能ハス然レトモ現今實際當局者ノ間ニ於テ解釋セララルル所ハ右論スル所ノ如クナラス地價設定ノ場合ニ付テ述ヘタルト同シク事實地價ヲ修正シタル年ヨリ修正地價ニ依テ地租ヲ徵收スヘキモノト爲サルルカ如シ而シテ取扱ヒ

ノ便宜ノミニ付テ言ヘハ此取扱ハ予ノ所論ニ比シテ簡便ナル所多シ
 地價修正ニ伴フ納稅義務ノ區分ニ付テハ以上述フル所ヲ以テ畧盡シタリト信ス然レトモ以上ノ説明ト共ニ茲ニ併セテ地價修正ヲ要スヘキ土地ノ異動アルニ當リ其修正地價ヲ適用スルニ至ルマテノ間ニ於テハ孰レノ地目ニ依リ地租ヲ徵收スヘキヤラ論スルハ全ク無關係ノ事項ヲ論述スルニアラヌト思考スルカ故ニ少シク之ニ付テ説明スル所アラントス
 地目變換地類變換開墾等ヲ爲シタルトキハ從來ノ地價ニ依リ地租ヲ徵收シ六年目十年目又ハ鐵下年期明ノ年ヨリ始メテ修正地價ヲ適用スト言フハ是レ其土地ニ適用スヘキ地價ニ付テノミ謂フモノニシテ之ニ依リテ其土地ノ地目ヲ定ムルモノニアラス換言スレハ從來ノ地價ニ依リテ地租ヲ徵收スト言フハ決シテ從來ノ地目ニ對スル地租トシテ之ヲ徵收スト言フノ意ヲ有スルモノニテラサルナリ地租ハ其土地ノ地目ニ依リ其定率及ヒ納期ヲ同シウセサルヲ以テ土地異動ノ場合ニ於テハ何レノ時ヨリ其地目ヲ變スルモノナルヤハ研究的空論ニアラスシテ實際上ノ應用問題ナリ地價修正ニ關シテハ法律ニ於テ規定ス

ル所アルヲ以テ之ニ依リテ適用スヘキ地價ヲ定ムヘキモノナリト雖モ地目ノ變更ニ至リテハ法律ニ於テ何等ノ規定スル所ナキヲ以テ一ニ事實ニ依リテ之ヲ定メサルヘカラス而シテ事實ニ依リテ地目ヲ定ムト言フト雖モ事實土地ノ異動ヲ爲シタルトキハ容易ニ之ヲ知ルヲ得サルヲ以テ予ハ法律ノ認メタル事實ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノナリト言ハント欲ス即チ法律ノ規定ニ於テ事實アリテ後地價ヲ据置キ又ハ年期ヲ付與スヘキモノト爲ストキハ法律ハ事實ヲ認ムルモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テ此場合ニ於テハ事實發生ノトキ地目ヲ變更スヘキモノナリ之ニ反シテ法律ノ規定ニ於テ事實ノ發生前地價ヲ据置キ又ハ年期ヲ付與スヘキモノト爲ストキハ法律ハ地價ヲ修正スヘキトキ又ハ年期ノ終了スルトキ事實發生スルモノト爲シタルモノト謂ハサルヘカラサルカ故ニ此場合ニ於テハ地價ヲ修正スヘキトキ又ハ年期ノ終了シタルトキ地目ヲ變更スヘキモノナリ地目變換地類變換及ヒ開拓ノ場合ニ於テハ變換又ハ開拓成功シタル後地價ヲ据置キ又ハ鐵下年期ヲ付與スルモノナルカ故ニ變換地ハ變換ヲ爲シタルトキ其地目ヲ變更シ開拓地ハ鐵下年期ノ許可ヲ受ケタルト

キ現況ニ依リ地目ヲ付スヘキモノナリ之ニ反シテ開墾地又ハ地價据置年期ノ許可ヲ受クル土地ハ其成功前ニ於テ開墾ノ届出ヲ爲シ又ハ年期ノ許可ヲ受クルモノナルカ故ニ地價ヲ修正スヘキトキ又ハ年期滿了ノトキ其地目ヲ變更スヘキモノトス但シ實際ノ取扱上ニ於テハ地目又ハ地類變換地ニ付テハ變換ナル事實發生シタル時ニ於テハ未タ其年ノ地租ヲ納メサルトキハ茲ニ述フル所ノ如キ取扱ヲ爲スト雖モ變換ナル事實發生シタル時ニ於テハ既ニ其年ノ地租ノ全部又ハ一部ヲ納メタルトキハ其翌年ヨリ地目ヲ變更セラルルモノノ如シ蓋シ年ノ中間ニ於テ變換ヲ爲シタル場合ニ於テ其年ノ地租ハ孰レノ地目ニ依リテ之ヲ徵收スヘキカニ關シテハ地租條例中何等ノ規定スル所ナシ然ルニ其年ノ地租ヲ納メタル前後ニ依リテ區別ヲ爲スハ官民共ニ最モ便宜ナル所ナルヲ以テ法文ノ缺如スル場合ニ於テ官民ノ共ニ便トスル所ニ從ヒテ適用ヲ爲スハ寧ロ法律ノ精神ニ適スルモノト謂ハサルヘカラス

土地異動ノ場合ニ於テ其修正地價ヲ適用スヘキ時期以前ニ在リテ更ニ異動ヲ爲シタルトキハ前ニ述ヘタル如ク地價ノ修正ヲ爲スヘキ時期ニハ自ラ影響ヲ

及ホスモノナリ此場合ニ於テハ地目ノ變更ニ關シテモ亦其影響ヲ受クヘキモノナリト雖モ之ヲ説明スルハ煩細ニ過タルヲ以テ茲ニハ之ヲ述ヘス但シ上來記述シタル所ニ依リ之ヲ應用スレハ實際ニ於テ誤ナキモノナリト信ス

第三 地價ノ低減

土地カ荒地ト爲リタル場合ニ於テハ所有者ノ出願ニ因リ被害前ノ供用ヲ完ツスルヲ得ルニ至ル期間ヲ計リ相當ノ免租年期ヲ許可スルモノナリト雖モ元來免租年期ヲ定ムルハ復舊期間ノ豫測ニ過キサルヲ以テ年期經過後ノ實蹟ニ就テ之ヲ見ルトキハ時トシテ事實ハ豫測ニ反シ其土地ハ尙ホ復舊ニ至ラサル場合鮮シト爲サス然ルニ此ノ如キ場合ニ於テ年期滿了ト共ニ直チニ原地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノナリトセハ天災ノ爲メ土地使用ノ利益ヲ減損シタル者ニ對シ其復舊ニ至ルマテ地租ヲ免スルコトト爲シタル法律ノ趣旨ハ尙ホ未タ貫カサル所アリト謂ハサルヘカラス故ニ免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノ及ヒ原形ニ復シ難キモノハ法律ハ更ニ免租年期ノ延長ヲ爲スヲ許スコトハ前既ニ之ヲ述ヘタリ而シテ其既ニ荒地ノ形狀ヲ呈スルコトナキモ

地味未タ被害前ノ状態ニ復セサルモノニ對シテハ相當ノ期間ヲ定メ其間低減シタル地價ニ依リテ其地租ヲ徵收シ以テ復舊ニ至ルマテハ地租輕減ノ特典ヲ受ケシメ豫測免租年期ノ足ラサル所ヲ補フヲ得セシメタリ(地租條例第二一條第二三條)

地租條例第二一條ニ依レハ地價ノ低減ハ七割以下之カ年期ハ十五年以内ニ制限セラルルヲ以テ低價年期ヲ定ムルニハ土地ノ現況ヲ按シ七割以下ノ低減十五年以内ノ年期ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラス如何ナル場合ニ於テモ七割以上地價ヲ低減シ又ハ十五年以上ノ年期ヲ定ムルコトヲ得サルモノナリ且ツ低價年期ニ關シテハ法律ハ繼年期ノ許可ヲ許ササルカ故ニ一タヒ付與シタル年期ハ更ニ之ヲ延長スルコトヲ得サルモノナリ

低價年期ハ左ノ二場合ニ於テ消滅スルモノトス
(イ) 年期滿了シタルトキ 一定ノ期間地價ヲ低減スト爲シタル場合ニ於テ其期間滿了シタルトキハ低減ノ效力自ラ消滅スヘキモノニシテ更ニ説明ヲ加フルヲ要セス

(ロ) 荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキ(地租條例施行規則第一三條) 低價年期中ノ土地ニシテ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルカ爲メニ荒地免租年期ヲ出願シ其許可ヲ受ケタルトキハ既ニ有スル低價年期ハ消滅スルモノトス蓋シ低價年期トハ一定ノ年間地價ヲ低減シテ地租ヲ徵收スルヲ謂フモノニシテ荒地免租年期トハ年期ヲ定メ其間地租ヲ徵收セサルヲ謂フモノナリ地租ヲ徵收スルト之ヲ徵收セサルトハ相反撥シタル事項ニシテ同時ニ行フコトヲ得サルモノナリ土地所有者ニシテ既ニ低價年期ノ特典ヲ有スルニモ拘ラス更ニ是ト併行スルコト能ハサル免租年期ノ許可ヲ請求シタルトキハ其意前者ノ利益ヲ棄テテ後者ノ利益ヲ得ントスルニ在ルモノト謂ハサルヘカラス故ニ免租年期ヲ許可スルトキハ低價年期ハ自ラ消滅セサルヲ得サルナリ

低價年期中ノ土地ニ付キ其形狀ヲ變更シタル場合ニ於テ其變更地租條例ノ所謂地目變換地類變換又ハ開墾ニ該當スルトキハ低價年期ハ消滅スルコトナキヤ法令中何等ノ規定スルモノナクンハ予ハ此場合ニ於テ年期ハ消滅スルモノト謂ハサルヘカラスト爲スモノナリ何トナレハ此場合ニ於ケル取扱方ハ開墾

鐵下年期中ニ於テ地目變換ヲ爲シタル場合ニ付キ地租條例施行規則第七條ノ定ムル所ト異ニスヘキ理由アルヲ見サルヲ以テナリ然ルニ此場合ニ於テハ地租條例施行規則第十二條ニ於テ特ニ規定スル所アリ低價年期中ハ如何ニ土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換地類變換又ハ開墾ト看做サスト爲シタルヲ以テ低價年期中ノ土地ニ付キ其形狀ヲ變更スルコトアルモ地價修正ノ必要ヲ誘起スルコトナシ地價修正ニシテ之ヲ要セスンハ年期ノ消滅ヲ惹起スヘキ謂レナキヲ以テ予ハ此場合ニ於テハ低價年期ハ消滅セサルモノナリト信ス地租條例施行規則第十二條カ低價年期中ノ土地ハ其形狀ヲ變更スルモ之ヲ地目變換地類變換又ハ開墾ト爲サスト爲シタルハ何等ノ理由ニ出テタルヤハ予ノ理解ニ苦シム所ナリト雖モ該條ノ規定アル以上ハ予ハ此ノ如キ解釋ヲ取ラサルヲ得ス而シテ低價年期中其形狀ヲ變更シタル土地ハ年期明ニ至リテハ原地價ニ復シ難キモノトシ地租條例第二十二條ニ依リ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正スルノ外ナカルヘシ

低價年期ヲ許可シタル土地ハ許可ノ初年ヨリ年期滿了ノ年マテ低減セタル地

價ヲ適用シ滿了ノ年ノ翌年ヨリ原地價ニ依リテ其地租ヲ徵收スヘキモノトス

第四 地價ノ消滅

一 地價ノ消滅スル場合

地價ノ消滅ナルモノハ法令中明ニ之ヲ規定シタルモノナシ然レトモ地租條例第十一條カ免租地ニシテ有租地ト爲リタルトキハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ムヘキコトヲ定メタルヲ以テ見レハ有租地ニシテ免租地ト爲リタルトキハ其地價ハ自ラ消滅スト爲スモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ有租地ニシテ免租ト爲ルトキ其地價消滅スルモノト爲スニアラサレハ免租地ニシテ有租地ト爲ルトキ新ニ之ニ地價ヲ設定スルノ必要ヲ見サルヲ以テナリ是レ獨リ論理ノ結果ナルノミナラス實際ノ必要ヨリシテ言フモ亦此場合ニ於テハ地價ノ消滅アルモノト爲ササルヘカラス元來免租地トシテ土地ヲ使用スルニハ多クノ場合ニ於テハ有租地トシテ之ヲ使用シタル場合ト其形狀ヲ變更セサルヘカラス故ニ再ヒ之ヲ有租地ト爲スモ其形狀ハ從前有租地タリシトキト同一ナラサルコト多シ假ニ一步ヲ讓リ有租地ノ形狀ヲ變スルコトナクシテ免租地ニ

使用スルコトヲ得タリトスルモ一旦免租地ト爲リタル後免租地中ノ各種目相變換スルコトハ法律之ヲ禁セサルヲ以テ後ニ至リ之ヲ有租地ト爲ストキハ其形狀ハ既ニ全ク變更シタル場合鮮シトセス此ノ如キ場合ニ於テ若シ當初有租地タリシトキニ有シタル地價ニ依リ其地租ヲ徵收スヘキモノトセハ地價ハ其地ノ所得ト比準ヲ得ス地租賦課ノ基礎ハ甚シキ不公平ノモノト爲ルヘシ故ニ有租地ニシテ免租地ト爲リタルトキハ或ハ其地價ヲ存シ再ヒ有租地ト爲リタルトキ之ヲ修正スルカ將タ免租地ト爲ルト同時ニ其地價ヲ消滅セシメ再ヒ有租地ト爲リタルトキハ更ニ新ニ之ニ地價ヲ付スルカ二者其一ノ方法ヲ選ヒテ之ヲ適用セサルヘカラス而シテ前者ヲ取ルノ煩雜ハ後者ニ出ツルノ簡便ナルニ若カサルカ故ニ地租條例ハ其規定ノ反面ニ於テ有租地ニシテ無期免租地ト爲リタルトキハ其地價ノ消滅スルコトヲ認メタリ有租地ニシテ無期免租地ト爲リタル場合ニ於テ其地價消滅スヘキモノナリトセハ有租地ニシテ地租ヲ課セサル土地ト爲リタル場合ニ於テハ無論其地價ハ消滅スヘキモノト爲ササルヘカラサルヲ以テ有租地ニシテ御料地、皇族賜邸又ハ國有地ト爲リタルトキハ其

地價ハ自ラ消滅スルモノトス

土地分合ノ場合ニ於テ新規ノ區域ニ對シ地價ヲ付スルハ予ノ見ル所ヲ以テスル一ノ地價設定ヲ爲スモノナリ而シテ此場合ニ於テ從前ノ區域ニ對スル地價ハ其區域ノ消滅ト共ニ消滅スルモノナルコトハ更ニ説明ヲ要セス

荒地免租年期ヲ受ケタル土地ハ年期ノ許可ト同時ニ其地價ヲ失フモノナリトハ地租條例第二十二條ノ規定ノ反面ヨリ推論セラレタル一議論ナリト雖モ此場合ニ於テハ此ノ如キ解釋ヲ取ルコト能ハサルコトハ予カ既ニ詳論シタル所ナリ而シテ荒地免租年期ヲ受ケタル土地ニ付キ論シタル所ハ之ヲ他ノ有期免租地ニ適用スルコトヲ得ヘキカ故ニ有租地ニシテ造林ヲ爲シタルカ爲メ免租年期ノ許可ヲ得ルモ其地價ハ消滅セサルモノトス

二 地價消滅ニ伴フ納稅義務ノ區分

有租地ニシテ地租ヲ課セサル土地又ハ無期免租地ト爲リタルトキハ地租ノ標準タル地價モ亦消滅ス此場合ニ於テ地租ハ何レノ時ヨリ之ヲ免スルカ此問題ハ地租ヲ課セサル土地又ハ無期免租地ニシテ有租地ト爲リ地價ヲ設定シタル

トキハ何レノ時ヨリ其地租ヲ徵收スヘキヤトノ問題ノ反面ナリ予ハ地價設定ノ場合ニ於ケル納稅區分ニ付キ論シタル如ク地租ハ年稅ナルヲ以テ法律ニ於テ特ニ例外ヲ定メタル場合ノ外ハ年ノ央ニ於テ無租地ト爲リタル土地ニ付テ其年ノ地租ハ全額之ヲ徵收シ翌年ヨリ始メテ之カ賦課ヲ廢スヘキモノト爲ス者ナリ但シ後ニ説明スヘキカ如ク地租ハ納期ニ於テ土地臺帳ニ記名セラレタル者ヨリ徵收スヘキモノナルカ故ニ有租地カ御料ト爲リ又ハ國有ト爲リタル場合ノ如ク土地臺帳記名者カ地租ヲ納ムルコトヲ要セサル者ト爲リタルトキハ其納期ニ於ケル地租ハ之ヲ徵收セサルヘキハ勿論ナリ然レトモ此ノ如キ地租ハ土地臺帳記名者ヨリ之ヲ徵收スト爲シタル規定ヨリ生スル論結ニシテ地價消滅ニ伴フ納稅義務ノ區分トシテ然ルモノニアラサルナリ予ハ法文ノ解釋トシテハ以上ニ述フル所ヲ以テ正鵠ヲ得タルモノト信スト雖モ現行實際ニ取扱ハルル所ハ右ノ如クナラスシテ地價消滅以後ニ係ル納期ニ屬スル地租ハ全ク之ヲ徵收セサルモノノ如シ是レ新ニ地價ヲ設定シタル場合ニ於テ既往納期ニ屬スル地租額ハ之ヲ徵收セサルト同一精神ニ出ツルモノニシテ論理ノ結果

ヲ適度ニ止メテ行政處分ノ妥當ヲ計リタルモノナルヘシ
地價設定ノ場合ニ於テ原則ニ對スル特例アルカ如ク地價消滅ノ場合ニ於テモ
法律ハ右ノ原則ニ對シ左ノ例外ヲ設ケタリ

(イ) 有租地ヲ買上ケ官有地ト爲シタルトキ(明治十年太政官布告第十八號) 此
場合ニ於テハ買上ノ年ハ地租年額ヲ納ムルニ及ハス買上ノ前月マテ月割ヲ以
テ計算シタル地租額ヲ納ムレハ足レリ但シ明治十年太政官布告第十八號第一
條ハ「民有地ヲ買上ル時」ニ付テ規定スルカ故ニ有租地ヲ官ニ寄附シタル如キ場
合ニ於テハ同條ヲ適用スルコト能ハス

(ロ) 有租地ヲ鄉村社地、墳墓地ト爲シタルトキ(地租條例第一三條ノ一) 此場合
ニ於テハ其年ノ地租ハ鄉村社地又ハ墳墓地ト爲スノ許可ノ月ノ前月マテ月割
ヲ以テ計算シタル租額ヲ徵收シ許可ノ月以後ノ月割ニ係ル租額ハ之ヲ免除ス
(ハ) 有租地ヲ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地及ヒ公衆ノ用ニ供スル道路ト
爲シタルトキ(地租條例第一三條ノ一) 此場合ニ於テハ茲ニ掲ケタル土地ト爲
シカ爲メニ施スヘキ工事ニ着手シタル月ノ前月マテノ月割地租額ヲ徵收シ工

事着手ノ月以後ノ月割額ハ之ヲ徵收セサルモノトス若シ何等ノ工事ヲ施サス
シテ該供用ヲ爲ス土地ハ月割ノ例外ニ依ラス原則ニ從フヘキモノトス

(ニ) 砂防法ニ依リ有租地ニ對シ一定ノ行爲ヲ禁止シ又ハ制限シタルトキ(明治
三十二年勅令第三百七十四號第三條) 此場合ニ於テハ禁止又ハ制限ヲ爲シタ
ル月以後ニ係ル月割租額ヲ免除スルモノトス

(ホ) 公共團體ノ所有地ヲ公用ニ供シタルトキ(明治三十三年法律第十九號) 始
メテ公用ニ供シタル年ハ地租全額ヲ徵收シ其翌年ヨリ之ヲ免スヘキモノトス
法律ハ明ニ公用ニ供シタル年ノ翌年ヨリ地租ヲ免スヘキコトヲ定ムルカ故ニ
公用ニ供シタル日カ年ノ一月一日ニ在ルモ尙ホ其年ハ地租全額ヲ納ムルノ義
務アルモノト謂ハサルヘカラス

第三款 課稅ノ程度

第一 地租ノ課率

一 定率 地租ノ沿革ヲ叙スルニ當リテ掲ケタル如ク地租改正ノ初年ニ於テハ